

原子炉の状態 月例レポート 2023年5月

概要 5月24日現在の1～3号機原子炉では、原子炉格納容器(以下、PCV)空調機戻り空気温度が、1号機:19.4 °C(前月17.4 °C)、2号機 :28.2 °C(前月 26.4 °C)、3号機 21.0 °C(前月 18.9 °C)であり、原子炉格納容器の放射性物質(Xe-135 [参照](#))濃度は、1号機A系:1.05×10⁻³ Bq/cm³(前月末7.25×10⁻⁴ Bq/cm³)、2号機A系:検出限界値【1.2×10⁻¹ Bq/cm³】未満(前月末も同じ)、3号機A系:検出限界値【1.9×10⁻¹ Bq/cm³】未満(前月末も同じ)と、有意な変動は見られていません([5ページ](#))。

筆者注: PCVのXe-135濃度を測定しているガス放射線モニタは、1号機は半導体検出器、2・3号機はシンチレーション検出器となっています。機種の違いの詳細および理由は分かりません)

[3、4ページ](#)には、5月のイチエフ廃炉作業全般の主な取り組みと状況を示しています。3ページではイチエフ構内の平面画像に主な取り組み事項を配置してあります。4ページは各事項の簡単な解説です。ページ間では各ボックス冒頭の<T1><R2>等の記号で照合してください。[青地のボックス](#)は今月東京電力が主な取り組みとして示したもののうち実際に行われた作業、[灰色地のボックス](#)は計画・準備・試験・報告等、[黄色地のボックス](#)は東京電力の発表とは異なる角度からの筆者の解説、取り組みの続報等筆者が重要だと思ったこと等です。

いずれのボックスも原資料があるものはそのハイパーリンクを埋めてあります。廃炉に向けた進捗状況を概観するためにご利用ください。

5月のイチエフ内のインシデント・事故情報は、[74ページ](#)をご覧ください。

47ニュースのイチエフに関する報道([75ページ](#))では、[ウェブサイト47ニュース「原発問題」](#)に掲載された記事の、本文へのリンクを貼った見出しを、【イチエフの廃炉】・【イチエフ事故の後始末】・【原子力発電、核施設】 および月によって変わる中区分等に分けて紹介してあります。

目次	0 主な取り組み(更新)	… 3
	1 原子炉内の温度(更新)	… 6
	2 原子炉建屋から放出された放射性物質による外部汚染の程度(更新)	… 7
	3 その他の指標(更新)	… 9
	4 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止試験)	
	(1)～(3) 概要	…10
	(4) 第Ⅰ期(2020年5月まで)	…13
	(5) 第Ⅱ期(2020年8月まで)	…33
	(6) 第Ⅲ期(現在)の一部	…36
	(7) 循環注水冷却スケジュール(更新)	…43
	5 原子炉格納容器ガス管理設備	…44
	6 東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について	…67
	7 原子炉建屋から新たに放出された放射性物質量の評価についての考察	…69
	8 東京電力が発表したイチエフ内のインシデント・事故情報(更新)	…74
	9 イチエフに関する報道(更新)	…75

0 主な取り組みと状況(更新)

〈T6〉 汚染水対策
海域モニタリングにおける指標について

〈T1〉 核燃料デブリの取り出し準備(1号機)
PCV内部調査における堆積物3Dマッピング調査結果

〈T2〉 使用済み核燃料プール対策(2号機)
燃料取り出しに向けた工事の進捗について

〈T3〉1/2号機 SGTS配管切断作業
の進捗

〈T5〉 汚染水対策
ALPS処理済み汚染水海洋放出時の
測定・評価対象核種の選定、体制変
更について実施計画認可の受領

〈T4〉 汚染水対策
海洋生物の飼育試験に関する進捗状況

<T6> 汚染水対策

ALPS処理水の海洋放出時に、周辺海域のモニタリングで、放出水が十分に拡散していないような状況(トリチウム濃度の異常)等が確認された場合、設備の運用として「放出停止」を判断する際の指標を、東京電力は、「異常値」として設定しました。

東京電力は、放出口付近(発電所から3 km以内10地点)のトリチウム濃度を700 Bq/L。放出口付近の外側(発電所正面の10k m四方内 4地点)のトリチウム濃度を30 Bq/Lに設定しました。また、指標(異常値)の1/2程度を超える値が検出された場合には、速やかに、設備、運転状況や操作手順に問題がないことを確認するとともに、海水を再採取し、結果に応じて頻度を増やしたモニタリングを実施するとしています。

<T5> 汚染水対策

東京電力は、ALPS処理済み汚染水の海洋放出に向けて、2022年11月原子力規制委員会に対して、『福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画』中に以下の事項を定める変更を申請していました。

- ・浄化処理されたALPS処理水の海洋放出に必要な設備であるALPS処理水希釈放出設備および放海洋放出設備の運転・保守管理の体制を定めること。
 - ・ALPS処理水を海洋放出する前にトリチウム以外の放射性核種の告示濃度限度比総和が1未満を満足することを確認するために測定・評価する放射性核種の選定の考え方を定めること。
 - ・海洋放出設備の設置等に係る実施計画について、当該設備の設置工事の進捗や運用に係る手順書整備の進捗等により、記載の充実や変更を行うこと。
- 原子力規制委員会は、5月10日、この申請を認可しました。

<T1> 核燃料デブリの取り出し準備(1号機)

3月4日～8日、1号機原子炉格納容器の底部に水中ロボットROV-Bが投入され、ペDESTAL外 の堆積物3Dマッピング調査が実施されました。東京電力によると、今回の調査結果と、2022年6月に実施したROV-Cによる堆積物厚さの調査結果を比較したところ、PCV底部からの堆積物の高さの結果について双方のデータに相関性が確認されたということです。また、今回のROV-Bによる計34箇所の点群データの取得により、堆積物の高さの知見に関して、より広範囲かつ連続したデータを得ることができたとしています。

<T2> 使用済み核燃料プール対策(2号機)

原子炉建屋内では、オペフロ線量低減のため除染作業を実施しており、4月28日より吸引除染作業が開始されました。建屋外では、構外の低線量エリアにて組み立てた鉄骨を構内に搬入し、原子炉建屋南側において燃料取り出し用の構台の鉄骨の組み立てが実施されています。5月25日時点で全45ある鉄骨ユニットのうち19ユニットの設置が完了したということです。

<T3>1/2号機 SGTS配管切断作業の進捗

原子炉の耐震性への不安が増大している1号機では大型原子炉建屋カバーの再設置が急がれます。

この設置に向けて障碍となる1/2号機非常用ガス処理系(SGTS)配管の切断・撤去作業は難航していましたが、配管サポートの切断装置の不具合対応が完了し、模擬試験を経て、計画している9箇所のうち1箇所目の配管切断作業が再開され、5月13日に無事切断されました。

<T4> 汚染水対策

東京電力によると、1500 Bq/L未満に希釈したALPS処理水で飼育したホンダワラ、および30 Bq/L程度に希釈したALPS処理水で飼育したヒラメのトリチウム濃度の測定結果が得られました。測定の結果、体内中のトリチウム濃度が生育環境以上にならないことが確認されたということです。また、ヒラメの有機結合型トリチウム(OBT)濃度については、現時点では、過去の知見と同様に概ね平衡状態に達しているものと推定しているとのこと。

(更新)

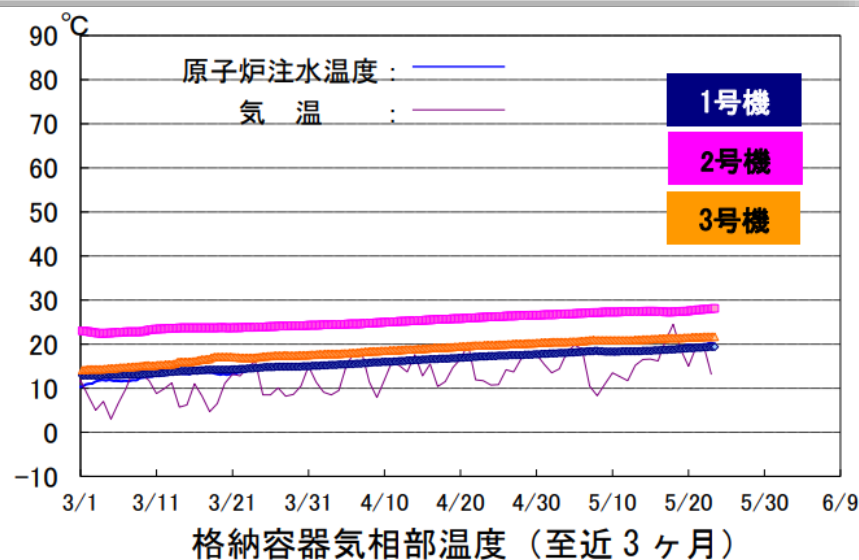
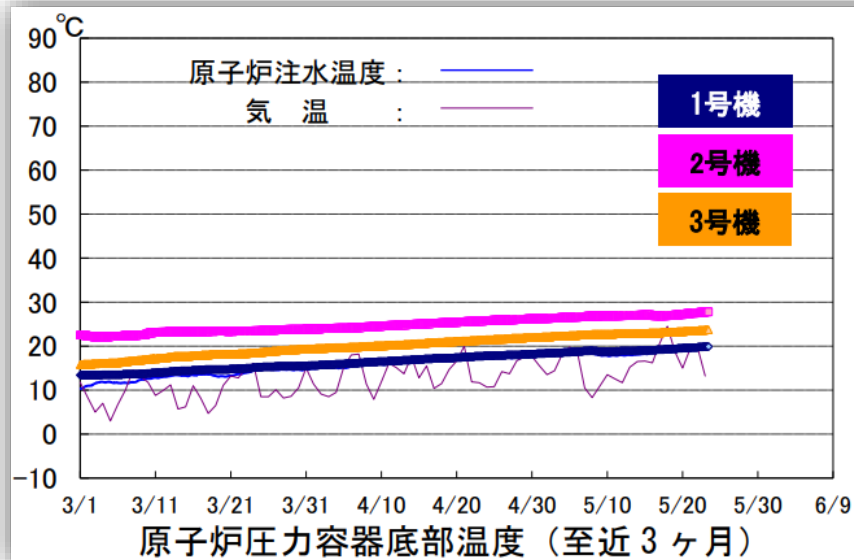
福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

号機	1号機		2号機		3号機	
	4月26日	5月24日	4月26日	5月24日	4月26日	5月24日
原子炉注水状況	給水系：2.4ml/h CS系：1.4ml/h (4/26 11:00 現在)	給水系：3.7ml/h ※6 CS系：-ml/h ※6 (5/24 11:00 現在)	給水系：0.0ml/h CS系：1.5ml/h (4/26 11:00 現在)	給水系：1.5ml/h CS系：0.0ml/h (5/24 11:00 現在)	給水系：1.5ml/h CS系：2.0ml/h (4/26 11:00 現在)	給水系：1.5ml/h CS系：1.9ml/h (5/24 11:00 現在)
原子炉压力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：17.9°C VESSEL ABOVE SKIRT JOINT (TE-263-69H1)：16.3°C VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：17.3°C (4/26 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：20.0°C VESSEL ABOVE SKIRT JOINT (TE-263-69H1)：18.3°C VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：19.4°C (5/24 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：26.0°C RPV Temperature (TE-2-3-69R)：29.0°C (4/26 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：28.0°C RPV Temperature (TE-2-3-69R)：33.4°C (5/24 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM ABOVE SKIRT JOT (TE-2-3-69F1)：21.7°C VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H1)：19.3°C (4/26 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM ABOVE SKIRT JOT (TE-2-3-69F1)：23.8°C VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H1)：21.2°C (5/24 11:00 現在)
原子炉格納容器 内温度	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：17.4°C HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：17.3°C (4/26 11:00 現在)	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：19.4°C HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：19.3°C (5/24 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：26.4°C SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1)：26.4°C (4/26 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：28.2°C SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1)：28.3°C (5/24 11:00 現在)	PCV Temperature (TE-16-002)：18.9°C SUPPLY AIR D/W COOLER (TE-16-114F#1)：19.5°C (4/26 11:00 現在)	PCV Temperature (TE-16-002)：21.0°C SUPPLY AIR D/W COOLER (TE-16-114F#1)：21.8°C (5/24 11:00 現在)
原子炉格納容器 圧力	0.61kPa g (4/26 11:00 現在)	0.24kPa g (5/24 11:00 現在)	2.93kPa g (4/26 11:00 現在)	1.77kPa g (5/24 11:00 現在)	0.48kPa g (4/26 11:00 現在)	0.47kPa g (5/24 11:00 現在)
窒素封入流量 ※1	RPV (RVH-A)：-Nml/h RPV (RVH-B)：15.47Nml/h (JP-A)：15.43Nml/h (JP-B)：-Nml/h PCV：-Nml/h ※2 (4/26 11:00 現在)	RPV (RVH-A)：-Nml/h RPV (RVH-B)：15.18Nml/h (JP-A)：-Nml/h (JP-B)：14.97Nml/h PCV：-Nml/h ※2 (5/24 11:00 現在)	RPV-A：6.56Nml/h RPV-B：6.47Nml/h PCV：-Nml/h ※2 (4/26 11:00 現在)	RPV-A：6.49Nml/h RPV-B：6.60Nml/h PCV：-Nml/h ※2 (5/24 11:00 現在)	RPV-A：8.35Nml/h RPV-B：7.85Nml/h PCV：-Nml/h ※2 (4/26 11:00 現在)	RPV-A：8.31Nml/h RPV-B：7.73Nml/h PCV：-Nml/h ※2 (5/24 11:00 現在)
原子炉格納容器 水素濃度 ※3	A系：0.00vol% B系：0.00vol% (4/26 11:00 現在)	A系：0.00vol% B系：0.00vol% (5/24 11:00 現在)	A系：0.00vol% B系：0.02vol% (4/26 11:00 現在)	A系：0.00vol% B系：0.03vol% (5/24 11:00 現在)	A系：0.11vol% B系：0.11vol% (4/26 11:00 現在)	A系：0.10vol% B系：0.10vol% (5/24 11:00 現在)
原子炉格納容器 放射能濃度 (Xe135)	A系：7.25E-04Ba/cm B系：9.98E-04Ba/cm (4/26 11:00 現在)	A系：1.05E-03Ba/cm B系：1.44E-03Ba/cm (5/24 11:00 現在)	A系：ND(1.2E-01Ba/cm以下) B系：ND(1.2E-01Ba/cm以下) (4/26 11:00 現在)	A系：ND(1.2E-01Ba/cm以下) B系：ND(1.2E-01Ba/cm以下) (5/24 11:00 現在)	A系：ND(1.9E-01Ba/cm以下) B系：ND(1.9E-01Ba/cm以下) (4/26 11:00 現在)	A系：ND(1.9E-01Ba/cm以下) B系：ND(1.9E-01Ba/cm以下) (5/24 11:00 現在)
使用済燃料 プール水温度	22.1°C (4/26 11:00 現在)	25.4°C (5/24 11:00 現在)	21.2°C (4/26 11:00 現在)	24.2°C (5/24 11:00 現在)	-C ※5 (4/26 11:00 現在)	-C ※5 (5/24 11:00 現在)
FPC 対ゲージ 水位	3.27m (4/26 11:00 現在)	4.80m (5/24 11:00 現在)	4.02m (4/26 11:00 現在)	2.66m (5/24 11:00 現在)	2.69m (4/26 11:00 現在)	3.59m (5/24 11:00 現在)
号機	4号機		5号機		6号機	
	4月26日	5月24日	4月26日	5月24日	4月26日	5月24日
使用済燃料 プール水温度	-C ※4 (4/26 11:00 現在)	-C ※4 (5/24 11:00 現在)	22.0°C (4/26 11:00 現在)	22.0°C (5/24 11:00 現在)	17.8°C (4/26 11:00 現在)	21.0°C (5/24 11:00 現在)
FPC 対ゲージ 水位	6.64m (4/26 11:00 現在)	6.73m (5/24 11:00 現在)	2.80m (4/26 11:00 現在)	2.90m (5/24 11:00 現在)	2.95m (4/26 11:00 現在)	2.60m (5/24 11:00 現在)

1 原子炉内の温度

(更新)

注水冷却を継続することにより、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、2023年5月24日までの一か月、約 15~30 °C(前月15~25 °C)で推移しています。



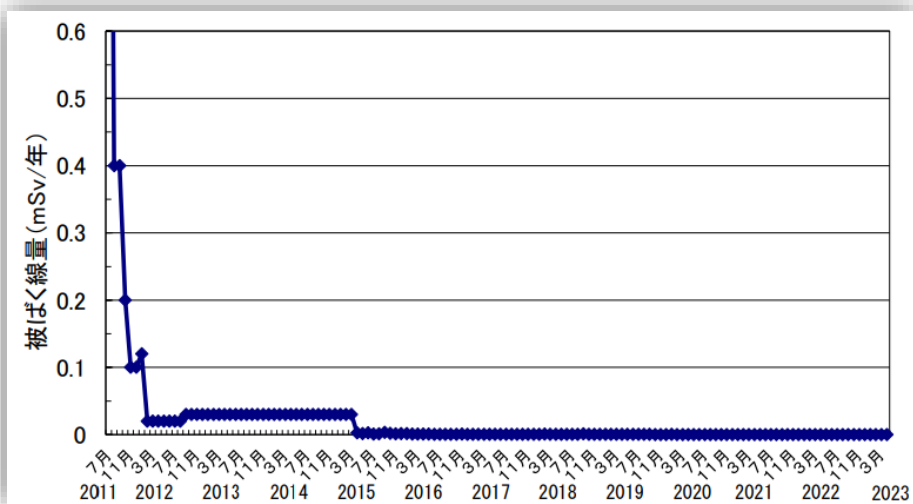
筆者注:

経産省ホームページの廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合／事務局会議(アーカイブ)の10月27日第107回会議の表題が「第106回」となっており、いつまでも訂正されないのはいかがなものでしょうか？

2 (1) 原子炉建屋から放出された放射性物質による外部汚染の程度(一部更新)

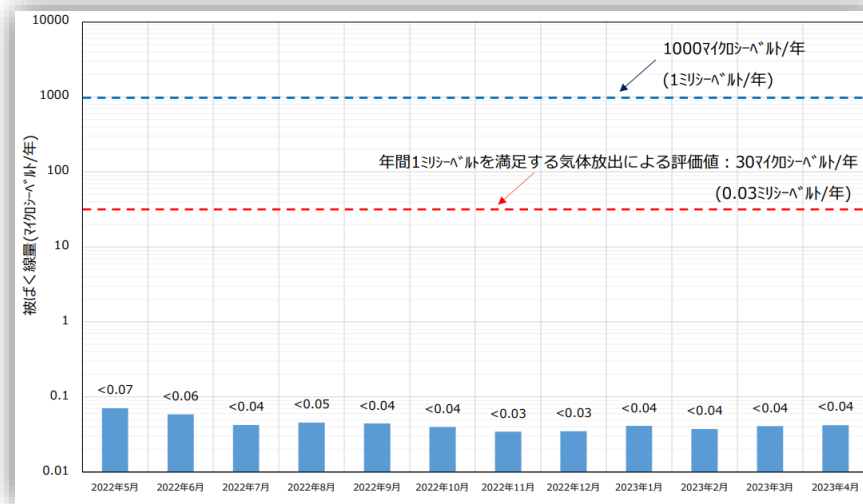
東京電力によると、2023年4月における1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の算定値は、 1.3×10^4 Bq/h未満(前月 1.2×10^4 Bq/h未満)と放出管理の目標値(1.0×10^7 Bq/h)を下回っています。そして、この算定値による敷地境界における空气中放射性物質濃度は、Cs-134: 2.1×10^{-12} Bq/cm³(前月 2.2×10^{-12} Bq/cm³)、Cs-137: 1.9×10^{-12} Bq/cm³(前月 1.5×10^{-12} Bq/cm³)であり、当該値が1年間継続した場合、敷地境界における被ばく線量は、年間 4.0×10^{-5} mSv未満(前月 4.0×10^{-5} mSv未満)であり、管理目標値年間1 mSvを満足する気体放出による評価値 3.0×10^{-2} mSvより十分小さいと推定しています。

1～4号機原子炉建屋からの放射性物質(セシウム)の放出による敷地境界における年間被ばく線量評価(トレンドグラフ)



1～6号機原子炉建屋からの放射性物質(セシウム)の放出による敷地境界における被ばく線量評価の年間推移

※ 筆者注:こちらは対数グラフです



出典 : 2023年5月25日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第114回)資料「廃炉・汚染水・処理水対策の概要」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2023/05/05/2-1.pdf>

2023年5月25日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第114回)資料「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果(2023年4月)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2023/05/05/3-6-3.pdf>

概要に戻る

2 (2) 「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果」の変更について

東京電力は、2019年11月、1～4号機原子炉建屋からの放射性物質の追加的放出量の評価方法、および評価結果のグラフの記述内容を変更しました。東京電力による変更点、および変更の理由は以下の通りです。

- 放出による敷地境界の空气中放射性物質濃度(単位:Bq/時)⇒敷地境界の被ばく線量(単位:μSv/年)

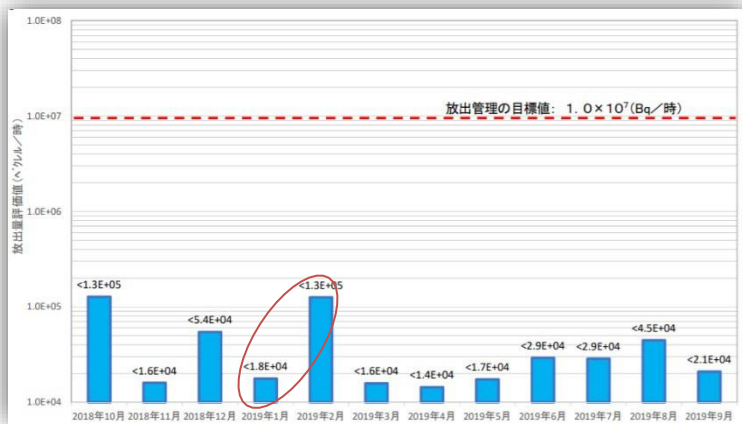
(理由)一般公衆が放出の影響を理解しやすくする。

- 被ばく線量評価の計算手法:5、6号機の寄与(年間稼働率80%の運転時の推定放出量で評価したもの)を一律加算する⇒測定結果を元にした被ばく線量を評価する。

(理由)これまで被ばく線量は、1～4号機追加的放出量の被ばく線量評価に、5、6号機からの影響を一定値(運転時の想定放出量から評価:約0.17μSv/年)加算していた。この方法によると、最近では5、6号機の割合が大きく(約80%)、1～4号機の放出による影響がわかりにくくなっていた。実態により近づけるため、5、6号機も測定結果を元にした被ばく線量を評価し、検出された場合は、1～4号機による被ばく線量評価に加算することとする。

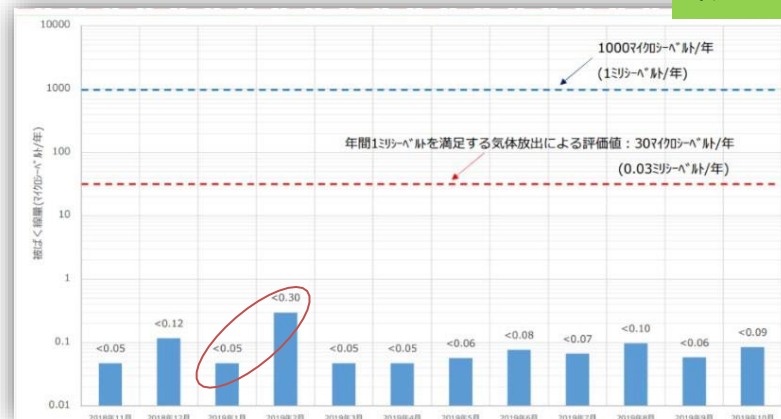
下左はこれまでの評価方法および記述内容による2018年10月からのグラフ、下右が新たな方法による2018年11月からの評価のグラフです。

1-6号原子炉建屋からの放出量評価、2019年9月までの評価方法で、その直近12か月分



1-4号原子炉建屋からの被ばく線量評価、2019年10月改訂の評価方法で、その直近12か月分

※ 筆者注: いずれも対数グラフ。



概要に戻る

3 その他の指標

東京電力によると、2023年5月、格納容器内圧力や、臨界監視のための格納容器放射性物質濃度(Xe-135)等のパラメータについても有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていません。

※ 筆者注：

Xe-135 (キセノン135) はウラン燃料が核分裂をした時に生じる放射性物質で、半減期は極めて短く約9時間です。このためXe-135が増加したままになるのは、ウランの核分裂が継続して起きているときであり、臨界に達していると考えられます。

4 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止)

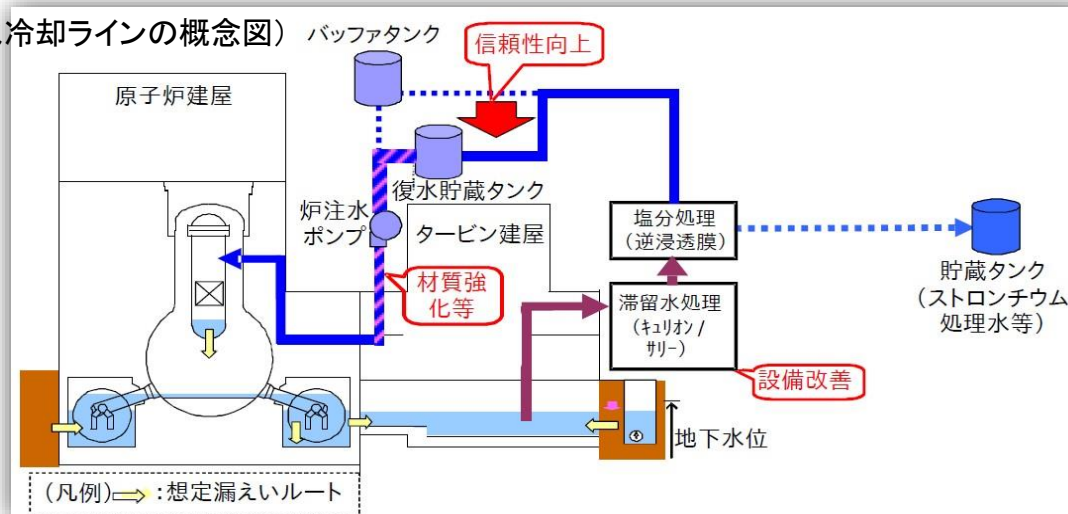
(1) 循環注水冷却の経過

1～3号機の原子炉は、注水冷却を継続することにより、現在は一定の範囲内の温度を保ち安定状態にあります。事故直後は、この注水冷却の水源は大熊町の坂下ダムに求めていました。

しかしこれでは原子炉内で核燃料デブリ等に接触し放射能で汚染された水が増えるばかりであることから、2011年6月から新設のバッファタンク(浄化水を一時的にためておくタンク)を水源とする循環注水に移行しました。さらに2013年7月からは水源の保有水量の増加・耐震性・耐津波性を向上させるため、水源を3号機復水貯蔵タンク(CST)に切り替えました。

そして2016年3月には1号機タービン建屋が循環注水冷却ラインから切り離され、10月には、汚染水の漏えいリスクを低減するため、淡水化(RO)装置を4号機タービン建屋に設置し、循環ループを約3kmから約0.8kmに縮小し現在に至っています。

(現在の循環注水冷却ラインの概念図)



出典：2018年3月1日廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料「廃止措置等に向けた進捗状況：循環冷却と滞留水処理ライン等の作業」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/03/2-00-04.pdf>

2016年3月31日東京電力株式会社

「1号機タービン建屋の循環注水ラインからの切り離し達成について～原子炉建屋からタービン建屋へ滞留水が流入しない状況の構築～」

http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/roadmap/images1/images1/d160331_06-j.pdf

概要に戻る

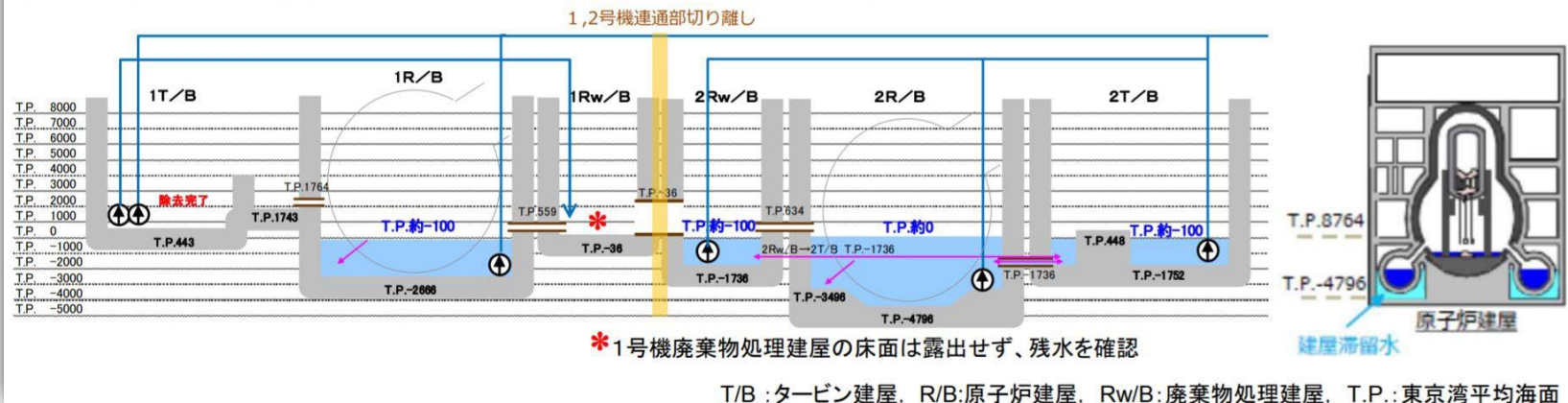
(2) 循環注水冷却の今後

原子炉注水冷却ラインの縮小という課題については、ロードマップ(第4版)では「核燃料デブリ取り出しのための原子炉格納容器の止水・補修作業を開始するまでに、原子炉格納容器からの取水方法を確立する。その上で、原子炉注水冷却ラインの小循環ループ化(格納容器循環冷却)を図る」とされていました。

第5版においては「循環注水を行っている1~3号機については、タービン建屋等を切り離れた循環注水システムを構築した上で、原子炉建屋の水位低下等により、原子炉建屋から他の建屋へ滞留水が流出しない状況を構築する」となっています。

2017年12月の3・4号機間の連通部の切り離しに続き、2018年9月13日には1号機側、2号機側の建屋内に溜まっている汚染水の水位が1号機廃棄物処理建屋の床面(T.P.-36)を下回り、その後も安定して床面以下の水位を保っていることから、東京電力は1・2号機間の連通部について切り離しを達成したと判断しました。

【1・2号機の建屋床面レベル、建屋間連通部及び滞留水の水位(2018.9.13現在)】



出典：2015年6月12日廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」(第4版)
http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2015/pdf/0625_4_1c.pdf
 2017年9月26日廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」(第5版)
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hairo_osensui/dai3/siryou2.pdf
 画像出典：2018年9月27日第58回廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議資料
 「建屋滞留水処理の進捗状況について(1,2号機間及び3,4号機間の連通部の切り離し達成)」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/10/3-1-3.pdf>

(3) 2系統ある注水冷却系のうち1系統の試験的停止について

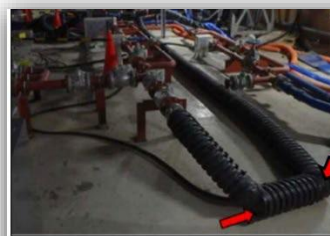
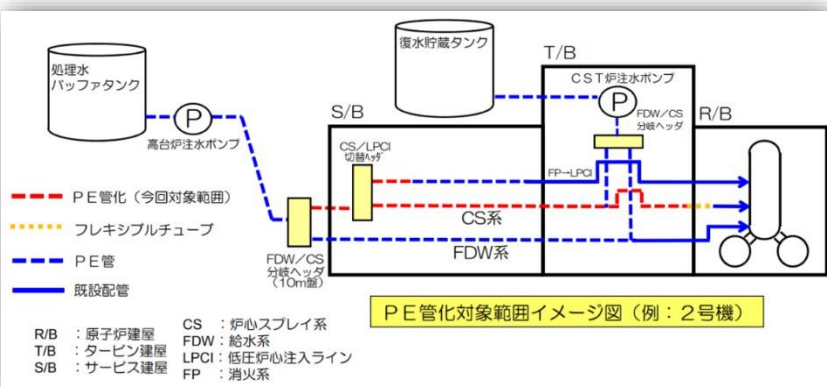
格納容器内にある使用済み核燃料および核燃料デブリは、炉心スプレイ系(CS系)と給水系(FDW系)という2系統の循環注水冷却系によって冷却されています(下図参照)。

東京電力は、原子炉注水設備に関する信頼性向上を目的として、以下の改造工事を計画・実施しています。

- ①1～3号機炉心スプレイ系(CS系)注水ラインの一部PE管化(2018)
- ②2, 3号機給水系(FDW系)注水ライン他の改造(2017)
- ③処理水バッファタンク取替(2018～2019)

②の2, 3号機給水系(FDW系)注水ライン他の改造の際は、原子炉への注水をCS系のみで実施することになり、2017年11月の注水量3.0 m³/hでCS系単独注水の実績がないことから、東京電力は、CS系単独注水事前確認試験を行い原子炉の冷却状態に対する影響を確認しました。

CS系単独注水は、2号機では2017年10月31日～11月7日まで、3号機では11月14日～11月21日まで実施されました。試験期間において、監視パラメータとしていた原子炉圧力容器底部温度、格納容器温度、格納容器ガス管理設備ダストモニタの指示値に「CS系単独注水に切り替えたこと」に伴う有意な変化はなく、原子炉の冷却状態に異常はないものと推定されています。



CS系SUSフレキシブルチューブの曲がりの状態



新規PE管施工後



出典：2017年11月30日第48回廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議資料「1～3号機原子炉注水設備の改造工事について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/10/3-05-02.pdf>
 2017年11月30日第48回廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議資料
 「2, 3号機 給水系注水ライン改造に伴うCS系単独注水の影響確認試験の実施状況について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/11/3-05-04.pdf>

(4) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第I期

① 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施について

東京電力は、1号機において緊急時対応手順の適正化などを図ることを目的に、原子炉注水を2日程度(約48時間)停止する試験を2019年10月15日から開始することを発表しました。注水停止時の温度上昇率については、48時間の注水停止で最大8.7℃程度の温度上昇と予測しています。なお、注水停止時および再開時の監視パラメーターと判断基準、基準逸脱時の対応(次ページ)については以下のように発表しています。

2020注水停止試験に戻る

また、今後3号機についても、今年度中を目途に注水停止試験を実施する予定としています。

地震のイチエフへの影響に戻る

(1) 冷却状態の監視(注水量停止時)

監視パラメータ	監視頻度		注水停止時の判断基準
	注水停止中	(参考) 通常監視頻度	
原子炉圧力容器底部温度	毎時	毎時	温度上昇が1.5℃未満 ※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	温度上昇が1.5℃未満 ※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	原子炉に注水されていないこと
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	毎時	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 15℃以上の温度上昇があった際には、流量を1.5m³/hに増やす(注水を再開する)。

(冬季のRPV/PCV温度は概ね3.0℃未満であり、1.5℃の温度上昇でも4.5℃未満と想定)

(2) その他の傾向監視パラメータ

- 原子炉圧力容器上部温度、格納容器圧力、格納容器内水位

(1) 冷却状態の監視(注水量増加時)

- 注水変更操作から24時間の監視強化とし、冷却状態に異常が無い場合には、24時間以降は通常頻度での監視に移行。

監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後24時間	24時間以降 (通常監視頻度)	
原子炉圧力容器底部温度	毎時	毎時	温度上昇が1.5℃未満※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	温度上昇が1.5℃未満※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	(必要な注水量が確保されていること)
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	6時間	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 注水変更後、10℃以上の温度上昇があった際には、関係者間で情報共有・監視強化を継続する。

(2) 未臨界状態の監視

- 注水変更操作から24時間は速やかにホウ酸水を注入できる体制を維持

監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後2.4時間	2.4時間以降 (通常監視頻度)	
格納容器ガス管理設備 Xe-135濃度	毎時	毎時	通常値の10倍未満であること※2

※2 Xe-135の通常値は1号機は1.0×10⁻³Bq/cm³程度である。運転上の制限である1Bq/cm³に余裕があっても、2系同時に上昇した場合には、確実な未臨界維持のためホウ酸水を注入する。(片系のみ場合は、計器故障の可能性も含めて判断する)

(3) その他の傾向監視パラメータ

- 原子炉圧力容器上部温度、格納容器内水位

a 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報) について

東京電力によると、2019年10月15日～10月17日の期間、約49時間注水を停止しました。試験期間中の炉内状況は安定して推移し、原子炉圧力容器(RPV)底部温度や原子炉格納容器(PCV)温度の温度上昇量は小さかったということです。

また、ダスト濃度や希ガス(Xe135)等のパラメータにも異常はありませんでした。

今後、実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、PCV水位の変動、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価する予定だそうです。

さらに、3号機についても、今回の試験結果をふまえ、2019年度中を目途に実施する予定としています。

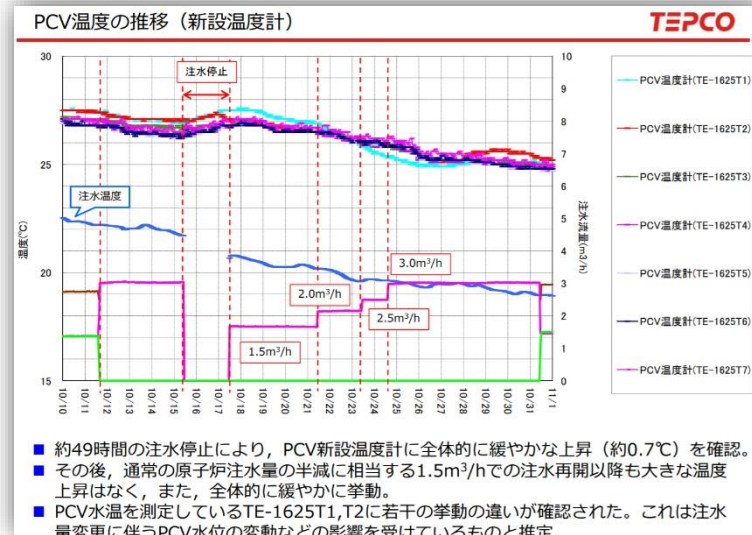
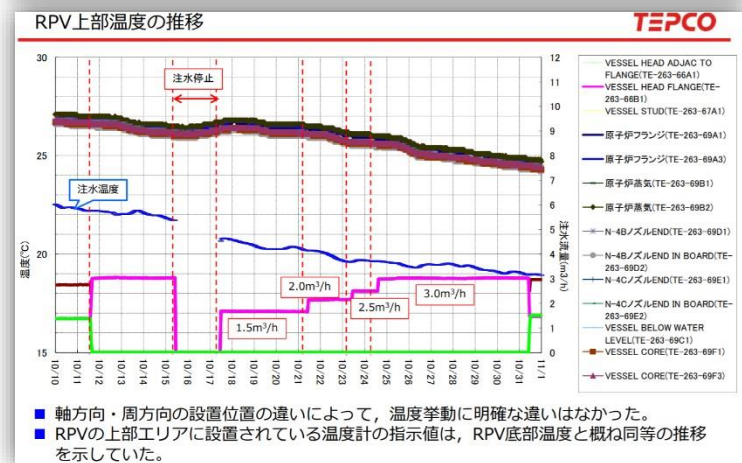
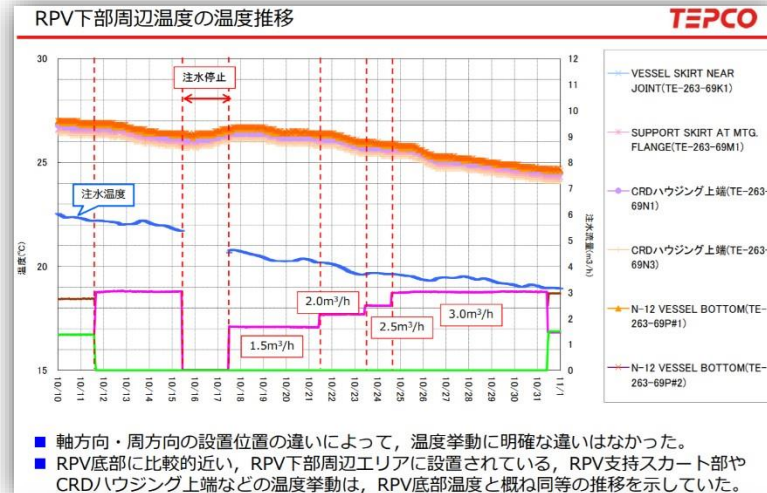
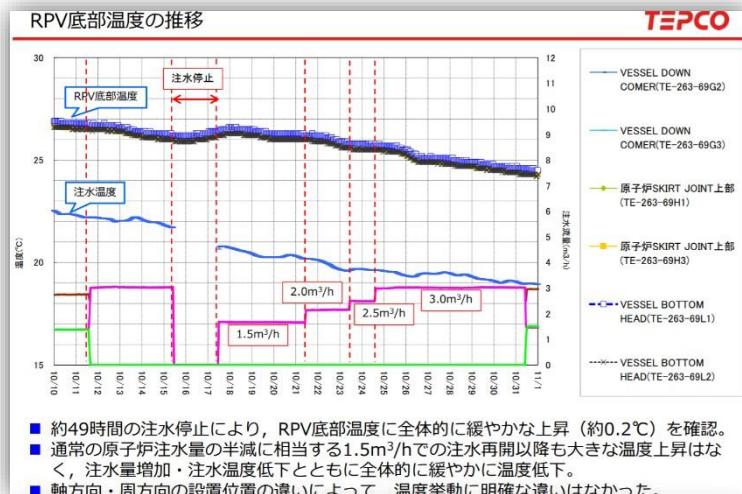
参照

最大温度上昇量		
	RPV底部	PCV
注水停止中 (10月15日11:00～10月17日12:00)	0.2℃	0.6℃
試験期間中 (10月15日11:00～10月30日14:00時点)	0.4℃	0.7℃

監視パラメータ		判断基準を満たさない場合の対応
原子炉への注水量		<ul style="list-style-type: none"> 目標注水量を目安に、原子炉注水量を調整する
冷却状態の監視	原子炉圧力容器底部温度	<ul style="list-style-type: none"> 1.5m³/hで原子炉注水を再開する。 注水再開/注水増加によってパラメータに安定傾向がない等の場合には、さらなる注水量の増加等の措置を関係者で協議する。 (温度上昇が急であり、1m³/hを超える注水量の急増が必要と判断される場合にはホウ酸水を注入したうえで、注水量を増加する)
	原子炉格納容器内温度	
	格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	
未臨界状態の監視	格納容器ガス管理設備 希ガスモニタ	<ul style="list-style-type: none"> ホウ酸水を注入する。 ホウ酸水を注入しても未臨界維持の見込みがない場合は、注水量を低減する等の措置を関係者で協議する。

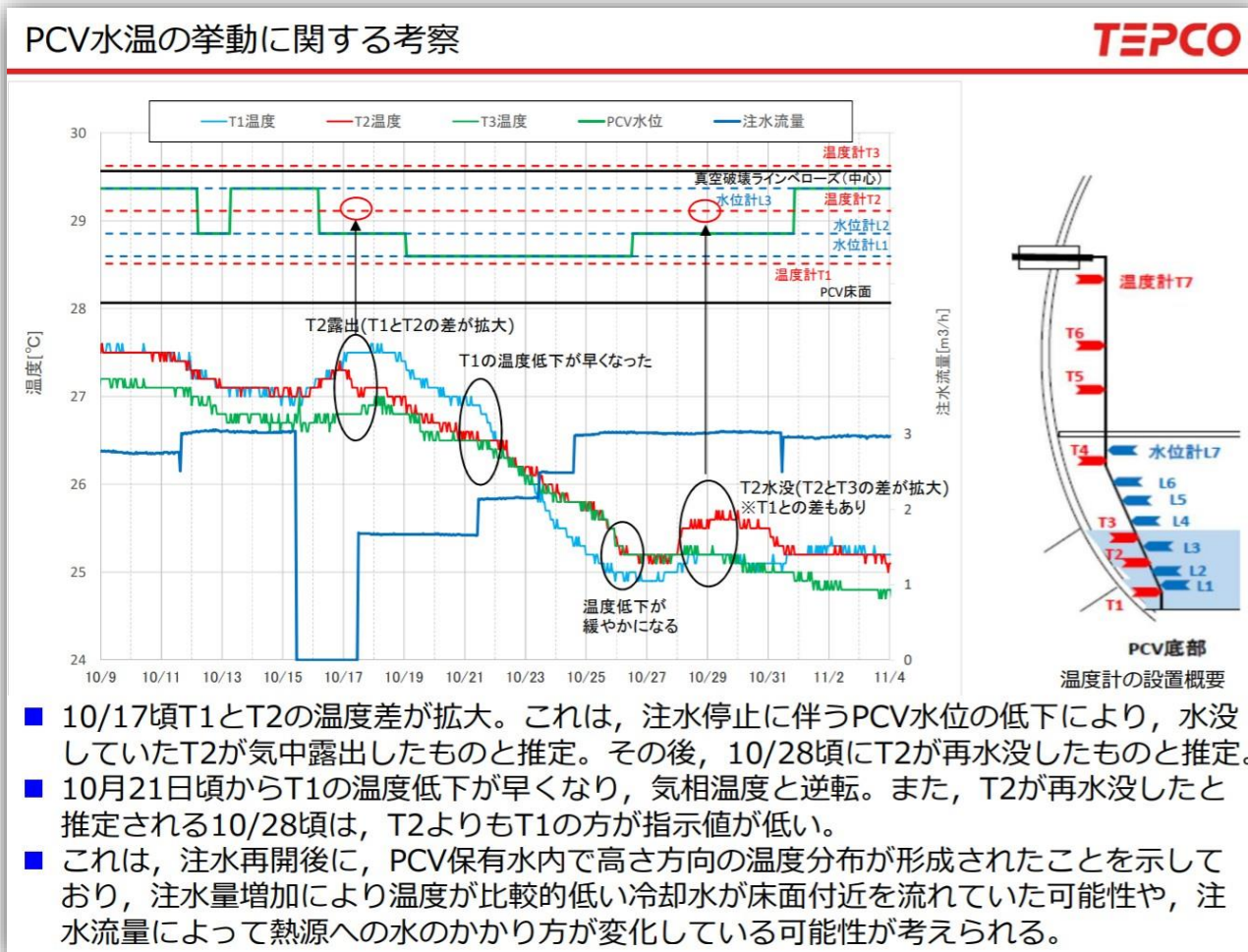
b 1号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について

試験中の原子炉圧力容器(RPV)各部、格納容器(PCV)の温度データは下図のように発表されています。



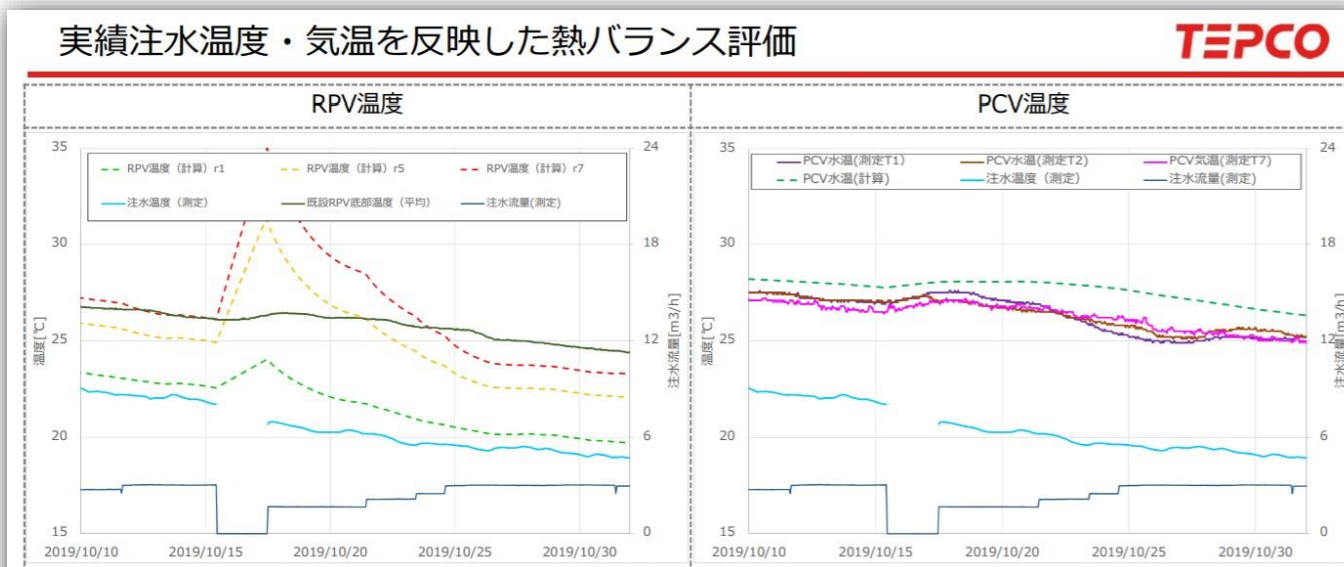
(次ページに続く)

試験期間中、格納容器(PCV)水温が興味深い挙動を示し、東京電力は考察を加えています(下図)。



(次ページに続く)

また、原子炉内の熱源(核燃料デブリ)の所在をどう想定するかによって、冷却状態の推移に伴う原子炉圧力容器(RPV)の熱バランス式による推定温度と実際の測定温度との乖離の度合いが変わってきます(下図)。



- 季節変化による気温の低下とともに注水温度が低下しており、全体的に温度は低下傾向。
- RPV底部温度について、RPVに存在する熱源の量が少ないと仮定した評価ケース (r1) では、全体的に温度を低めに評価する傾向。一方、RPVに存在する熱源を多く設定すると、温度評価は温度計指示に近づくが、注水停止時の温度上昇を過大に評価する傾向。
- PCV温度は概ね実績温度を再現している一方で、PCV水温と気温の違いなど、局所的な温度変化まではモデル上考慮しておらず、再現できていない。また温度上昇時の傾きは概ね一致したものの、注水再開以降の温度低下傾向が実績よりも評価の方が遅い傾向がある。

(次ページに続く)

このような熱バランス式による推定温度と実際の温度との乖離が生じる原因を、東京電力は下図の通り考察し、熱バランス式の改良も検討するとしています。

熱バランス評価に関する考察



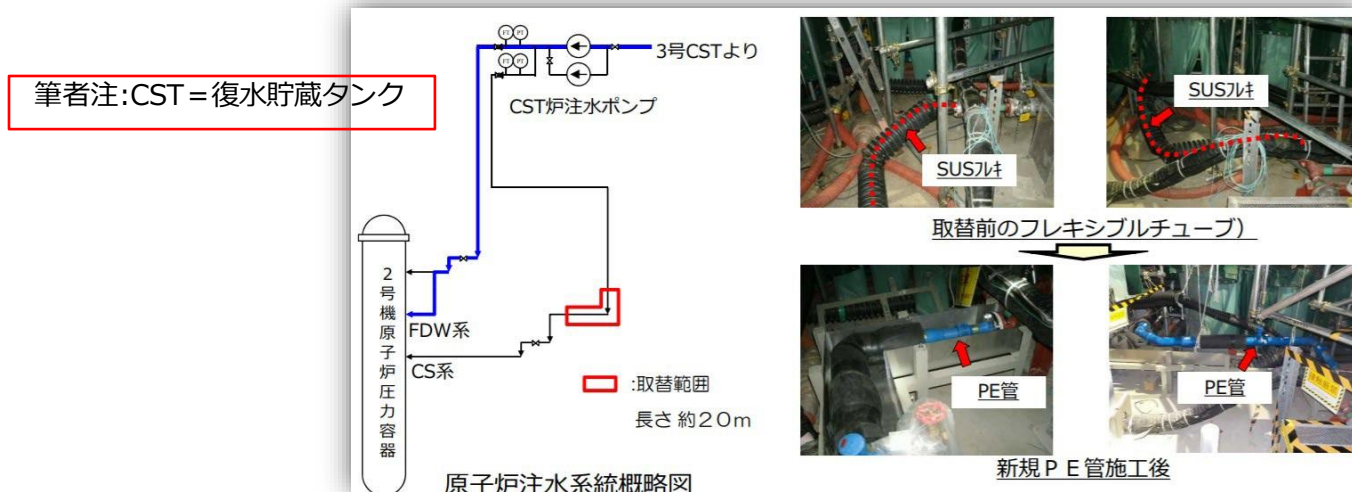
- 熱バランスモデルと実際の測定値に差異が生じる原因として、以下のような1号機のプラントの特徴が影響している可能性が考えられる。
 - (1) PCV保有水量が多いこと（PCV水位が高いこと）
 - PCV保有水量の違いは、PCV全体の熱容量の大きさに影響するため、PCV温度の過渡変化時の時定数に影響する可能性。
 - PCV保有水量が多いことにより、液相内での温度分布が発生しやすくなる可能性。
 - ペDESTAL内やPCV底部における燃料デブリの水没状態の違いにより、燃料デブリから冷却水への伝熱量に差異がある可能性。
 - (2) 燃料デブリの大部分がPCV側に存在（推定）
 - 現状モデルでは多くの熱源が存在するPCV側の熱収支計算で、PCV気相温度を計算しておらず、気相/液相の温度分布や、PCV気相を介したRPVとPCVの熱伝達が適切に計算出来ていない可能性がある。
 - (3) 温度測定の不確かさ
 - 温度計は周方向・高さ方向に複数設置されているものの、設置位置によっては、細かい温度分布を観測できていない可能性。
 - 既設温度計は事故の影響により絶縁が低下しており、指示値に不確かさがある。(最大20℃程度) なお、PCVには、事故後に新しく温度計を設置している。
- これらの特徴は3号機にも共通しており、今後の3号機の試験においても類似の傾向となる可能性がある。3号機の試験結果も踏まえモデルの改良を検討していく。

② 2号機CS系のPE管化工事に伴う核燃料デブリ冷却状態への影響について

東京電力によると、2号機原子炉注水設備の炉心スプレイ系(CS系)ラインについて、信頼性向上の観点から、ステンレス製(SUS)フレキシブルチューブをポリエチレン管(PE管)に取り替える工事を実施しました。

工事中、2017年12月8日～12月25日の期間は給水系(FDW系)単独での運転となりましたが、8月22日～8月29日においてFDW系による単独注水試験を実施しており、当該運転状態でも核燃料デブリ(以下、デブリ)の冷却状態に問題がみられないことは事前に確認済みでした。

この工事によるデブリ冷却状態への影響については、監視パラメータとしていた原子炉圧力容器底部温度、格納容器温度、格納容器ガス管理設備ダストモニタのいずれの指示値も、FDW系単独注水に切り替え時、さらに<PE管化したCS系を運用>開始後にも有意な変化はなく、原子炉の冷却状態に異常がないことが確認されたとのこと。



出典：2018年2月1日第50回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料「2号機 CS系のPE管化工事に伴う燃料デブリ冷却状態への影響について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/02/3-05-04.pdf>
 2017年9月28日第46回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料
 「2,3号機 原子炉注水ラインのPE管化工事に伴うFDW系単独注水の影響確認試験の実施状況について」
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/09/3-05-03.pdf>

概要に戻る

a 2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする

注水冷却開始(インサービス)に向けた原子炉注水系の切替について

2020年2月27日の廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)において、東京電力が提出した資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」を開いたところ、冒頭に

原子炉注水系統の水源多重化を図るため、2019年1月8日、2号機CST(復水貯蔵タンク)を復旧し、原子炉注水の水源として使用する操作を実施中、2号機原子炉注水ポンプ(CST炉注水ポンプ)が全停する事象が発生した。

という記述がありました。

しかし筆者はこのトラブルについて押さえていなかったため、今回2019年1月にさかのぼり、下記出典の東京電力資料により、このトラブルとその後の経過を追ってみました。

まず一連の過程の目的である2号機CSTインサービスとは何かということから始めます。

(次ページに続く)

出典：2019年1月8日東京電力ニュースリリース「福島第一原子力発電所 2号機原子炉への注水ポンプの起動・停止について」
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190108_1.pdf

2019年1月31日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第62回)東京電力資料「2号機CST炉注ポンプ全停事象について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/3-5-3.pdf>

2019年2月28日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第63回)東京電力資料「2号機CST炉注ポンプ全停事象の原因と対策について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/02/3-5-3.pdf>

2019年8月29日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第69回)東京電力資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/08/3-5-3.pdf>

2020年2月27日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)東京電力資料「2号機CSTインサービスに向けた原子炉注水系の切替について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/02/3-5-4.pdf>

概要に戻る

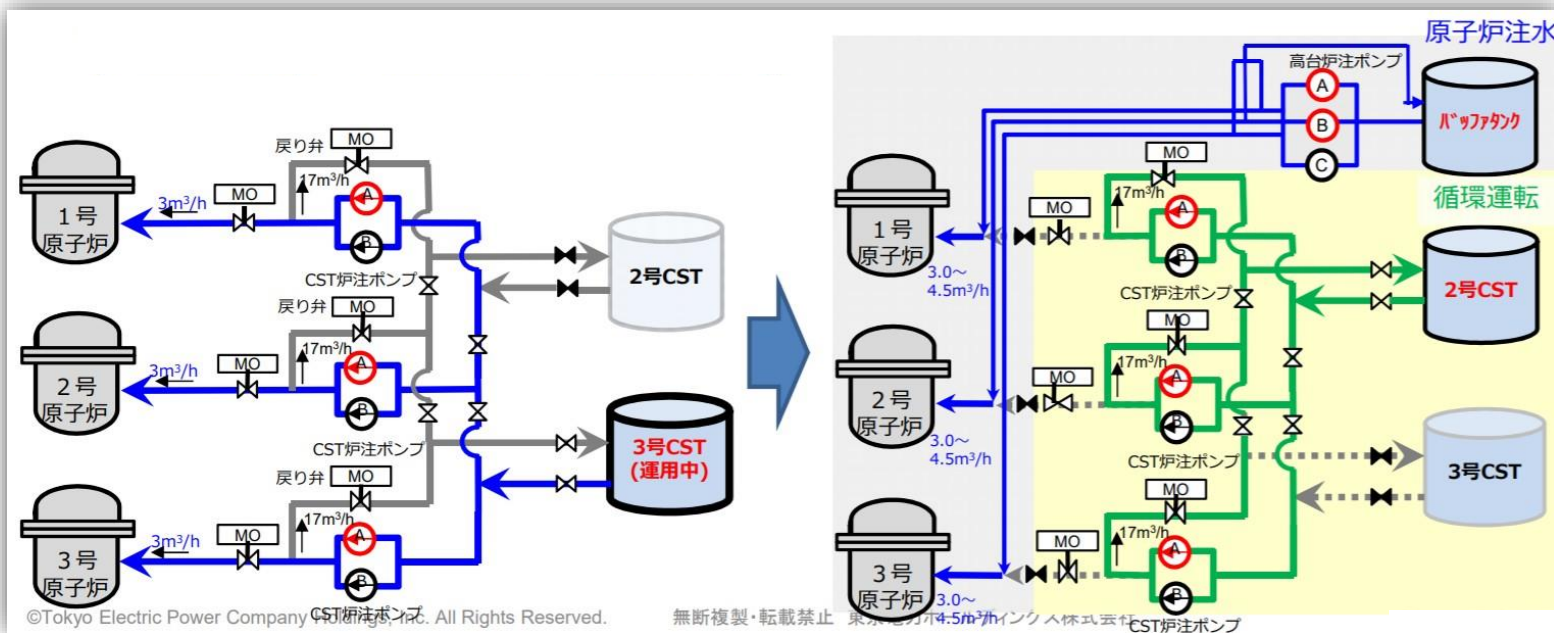
東京電力によれば、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)およびその背景と目的とは、

- ・ 現在、1～3号機の原子炉内には安定的に注水を継続しているが、燃料デブリの崩壊熱は大幅に減少している状況
- ・ 崩壊熱の減少により1～3号機の原子炉注水量を低減してきており、滞留水の低減を図っている。
- ・ それに伴い現在の原子炉注水流量は、ポンプの定格流量に比べ少ない流量になっており、系統上の運用としては、CSTへの戻し流量が多い状態となっている。
- ・ 2号機CSTを復旧し原子炉注水の水源として運用することで、原子炉注水系統全体の運用(原子炉注水量や戻し流量の調整等)がしやすくなる。
- ・ また、2号機CSTの運用を開始することで、原子炉注水系統の水源の多重化が図れる。

だそうです。

概念的には下左図の状態を右図の状態に持っていく計画です。

(次ページに続く)



概要に戻る

ところが、2019年1月8日、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)に向けて1、2号機原子炉への注水源を3号機復水貯蔵タンクから2号機CSTへ変更する操作をしていたところ、2号機原子炉注水ポンプが1分間全停しました。

東京電力は、直ちに操作前の状態へ戻す操作を実施し、注水冷却そのものは継続されています。また、注水ポンプ全停中、原子炉圧力容器、格納容器各部の温度、モニタ等の指示に変化はなかったとのことです。

その後東京電力は、原因を調査し、その結果について以下のように公表しました。

- ・全号機のポンプストレーナに水垢(赤茶)の付着が確認されており、吸込圧力の低下が確認された2号機 CST炉注ポンプ(B)のみストレーナこし網内面に鉄さび片の付着が確認された。また、フランジ部にもこし網より落下した鉄さび片が確認された。

- ・現在までの運転により水垢などがストレーナに付着し、その影響で若干の詰まりが発生していた状態で、今回、2号機CSTインサービス操作により、鉄さびがストレーナに流入したため、急激に圧損が増加し、ポンプ吸込圧力が低下したと考えられる。

[\(次ページに続く\)](#)

また再発防止対策については以下の通りとしています。

<対策①:フラッシングの実施>

配管内面の鉄さびを仮設ストレーナにて回収するため、2号機CST⇒CST供給配管⇒CST戻り配管のフラッシング運転を行う。なお、未使用配管をインサービスする場合は、事前のフラッシングを行うこととする。

<対策②:ポンプ吸込ストレーナの点検>

1～3号機のCST炉注ポンプ吸込ストレーナ清掃を行い、ストレーナに堆積した水垢、鉄さびの除去を行う。ストレーナの点検は、ポンプ吸込圧力の低下傾向が確認された場合に行うこととしていたが、本事象を鑑みストレーナの保全計画を見直すこととする。

<対策③:2号機CSTインサービス時の手順の再検討>

急激にパラメータが変化した場合に備えた対応手順を策定する。(パラメータの安定後の操作、戻り弁の調整・ポンプ切替手順等)

そして対策を実施後の2019年8月、2号機復水貯蔵タンク(CST)を水源とする注水冷却開始(インサービス)に向けて、1～3号機CST炉注系統を2号機CST循環運転に切り替え、

①2号CSTを水源とした場合の異常の有無。(各号機の流量・圧力バランス)

②ポンプ切替による2台運転時の影響確認。(戻り弁(MO,手動バイパス)開度とポンプ吐出圧力の状態等)

の運転状態を確認する計画を明らかにしました。

毎月の「循環注水冷却スケジュール」を見ると、その後実施時期の調整による複数回の延期があり、今回改めて、2020年3月3日から5日にかけて1～3号機CST炉注系統を2号機CST循環運転に切り替え、運転状態を確認した上で、3月下旬には2号機CSTを水源とする注水冷却を開始したいとしています。

③ a 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施について

2号機核燃料デブリ(以下、デブリ)の循環注水冷却は新しい段階に入るようです。

2019年3月現在、1～3号機の原子炉内はデブリへの循環注水冷却により安定状態を保っています。

一方、デブリの崩壊熱は時間の経過により大幅に減少しています。

また、注水冷却が停止した場合の現行の原子炉の温度変化の推定(評価)については、自然放熱による温度低下等は考慮せず、デブリの崩壊熱のみを考慮して計算しているため、実際より急激に上昇する推定(評価)となっています。

(現行の推定(評価)／温度上昇率:約5℃/時間、原子炉圧力容器温度の初期温度を30℃と仮定して運転上の制限値である80℃に達する時間:約10時間)

東京電力は、今後、何らかの原因により原子炉に注水冷却の停止を含む多重トラブルが発生した場合、優先すべき対応を適正に判断するために、また、注水設備のポンプ切替時等に、注水量に極力変化がないようにするための現行の複雑な操作を、ヒューマンエラーリスクの低い2系統のうち片方を止めた上でもう片方を起動するというシンプルな切替に見直すために、注水冷却が停止した状態でのより実際に近い温度変化を確認しておく必要があるとしています。

(熱バランスによる推定(評価)／温度上昇率:約0.2℃/時間、原子炉圧力容器温度の初期温度を30℃と仮定して運転上の制限値である80℃に達する時間:約12日)

このため、一時的に原子炉注水量を低減(STEP1)、停止(STEP2)し、デブリの冷却状況の実態を把握するとともに、気中への放熱も考慮したより実態に近い温度変化の推定(熱バランス評価)の正確さを確認する試験を、2019年1月に実施することを計画していました。

この計画は、2号機原子炉注水ポンプ(CST炉注ポンプ)が1分間全停するトラブルがあったため延期されていましたが、原因が解明され健全性が確認されたため4月に実施するものです。

1～3号機確認試験の結果のまとめに戻る

(次ページに続く)

出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」

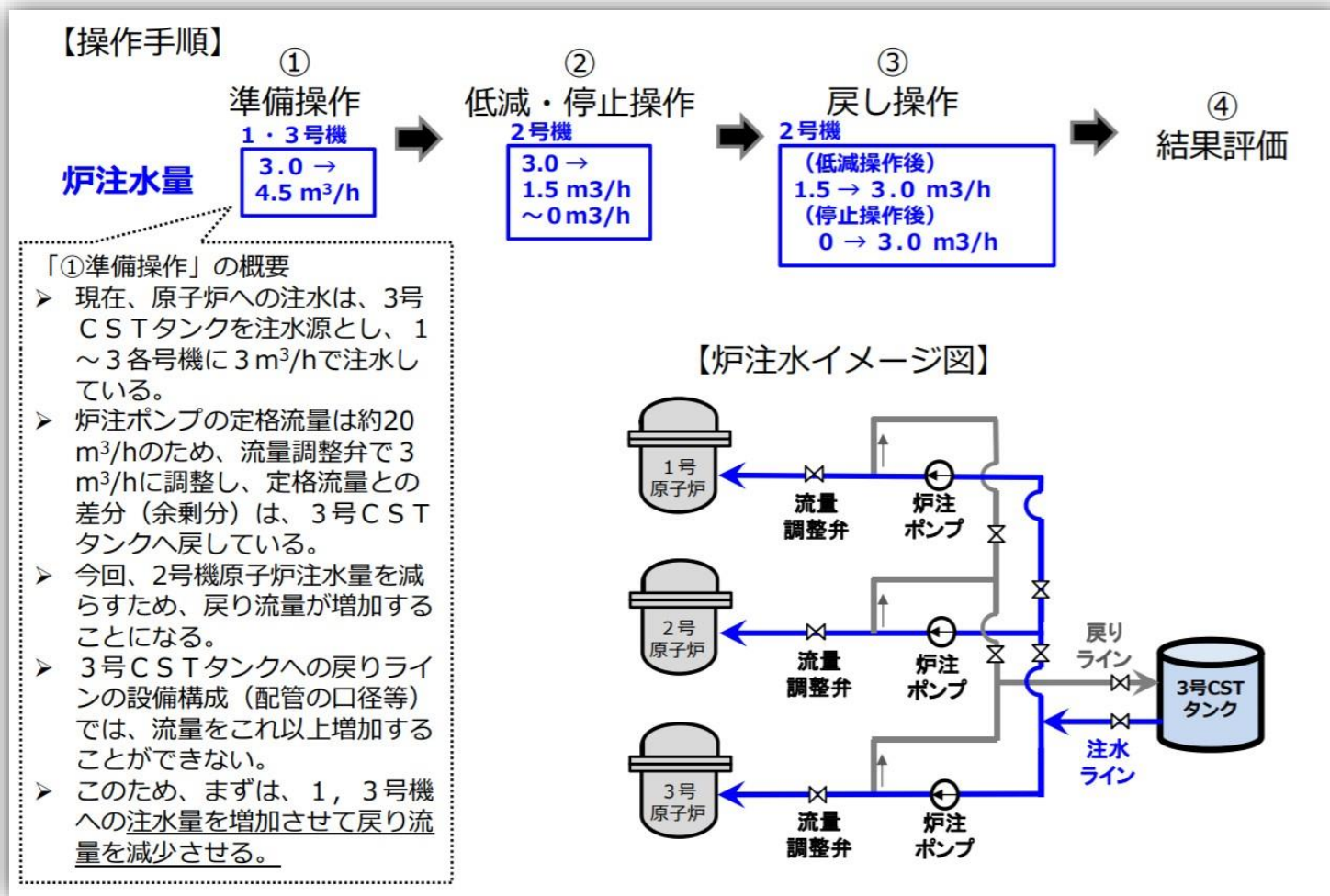
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第64回) 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

概要に戻る

操作手順、および、2号機の注水量を低減するために1、3号機の原子炉注水量を増加させる操作が必要な理由は下図の通りです。



出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」

http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf

2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議（第64回） 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>

概要に戻る

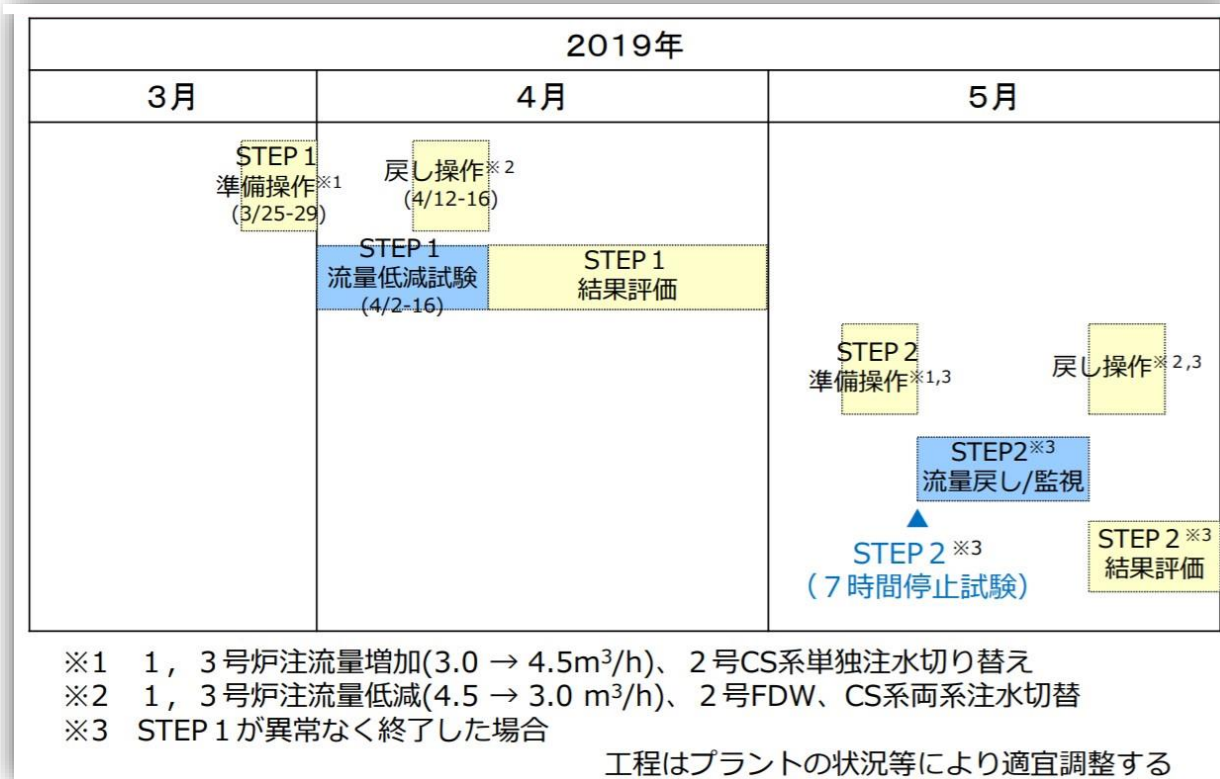
b 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施状況

核燃料デブリ冷却状況の確認スケジュール(予定)は下表であり、2019年4月12日現在の実施状況は以下の通りです。

4月2日午前10時51分、2号機 炉心スプレイ系原子炉注水量:3.1 m³/h→1.5 m³/h

4月9日午前10時43分、2号機 炉心スプレイ系原子炉注水量:1.4 m³/h →3.0 m³/h

なお、この原子炉注水量低減操作を通じ、関連監視パラメータに異常はなかったそうです。



出典：2019年3月20日 東京電力資料「福島第一原子力発電所 2号機燃料デブリ冷却状況の確認の実施について」
http://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2019/1h/rf_20190320_1.pdf
 2019年3月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第64回) 資料「2号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/03/3-5-2.pdf>
 2019年4月9日 東京電力 「福島第一原子力発電所の状況について(日報)」
http://www.tepco.co.jp/press/report/2019/1514125_8985.html

c 2号機核燃料デブリ冷却状況の確認の実施結果

東京電力は、2号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験STEP1を2019年4月2日～4月16日に実施し、その結果について以下の明朝体部分(文中のゴシック体は筆者による補遺)の通り報告しています。

2号機 の原子炉注水量を3.0 m³/hから1.5 m³/hまで低減、および1.5 m³/hから3.0 m³/hに増加し、原子炉の冷却状態に異常がないことを確認した。

<操作実績> 2019年4月2日 10:05～10:51 3.1 m³/h → 1.5 m³/h

2019年4月9日 10:07～10:43 1.4 m³/h → 3.0 m³/h

<原子炉の冷却状態> RPV(原子炉圧力容器)底部温度やPCV(原子炉格納容器)温度の温度上昇については、温度計毎にばらつきはあるが、概ね予測通りであり、試験継続の判断基準(温度上昇15℃未満)を満足(下表参照)。

PCVガス管理設備の短半減期希ガス(Xe-135)は、原子炉注水量の増加後も有意に 検知されず、原子炉は未臨界を維持。その他のプラントパラメータにも異常なし。 よって、試験STEP2として、原子炉注水を一時的に停止する試験を5月中旬から開始する。 なお、今回の試験における温度上昇の予測評価との差異や、温度計の設置位置による挙動の違いなどの詳細評価については今後実施していく予定。

(次ページに続く)

	温度上昇量	指示値	温度計	備考
RPV底部温度	5.2℃	20.2→ 25.4℃	TE-2-3-69R	上昇量、指示値最大
PCV温度	2.8℃	18.8→21.6℃	TE-16-114H#2	上昇量最大
	2.1℃	20.8→ 22.9℃	TE-16-114C	指示値最大

東京電力は、2号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験STEP2を2019年5月13日～5月24日に実施し、その結果について以下の明朝体部分の通り報告しています。

2号機の原子炉注水を短時間停止し、注水停止中のRPV(原子炉压力容器)底部の温度上昇率は0.2℃/h以下と概ね予測と同程度であることを確認

<操作実績>

2019年5月13日 10:11～10:40 3.0 m³/h → 0.0 m³/h

2019年5月13日 18:17～18:54 0.0 m³/h → 1.5 m³/h

2019年5月15日 10:03～10:18 1.5 m³/h → 2.0 m³/h

2019年5月16日 13:36～13:58 2.0 m³/h → 2.5 m³/h

2019年5月17日 15:02～15:15 2.5 m³/h → 3.0 m³/h

<注水停止中のRPV底部の温度上昇率(2019年5月13日)>

温度上昇率	温度計指示値	温度計
0.2℃/h以下	24.5℃ (10時時点) → 25.5℃ (18時時点)	TE-2-3-69R

<原子炉の冷却状態>

RPV底部温度やPCV温度の挙動は、温度計毎にばらつきはあるが、概ね予測どおりであり、試験継続の判断基準(温度上昇15℃未満)を満足中。

<その他のパラメータ>

PCVガス管理設備のダスト濃度に有意な上昇なし

PCVガス管理設備の短半減期希ガス(Xe-135)は、原子炉注水量増加後も有意な上昇なく原子炉は未臨界を維持

今後については、実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の設置位置による挙動の違い、原子炉注水停止時に採取した放射線データなどを評価、他号機での試験等、追加試験の検討を予定しています。

③ 3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について

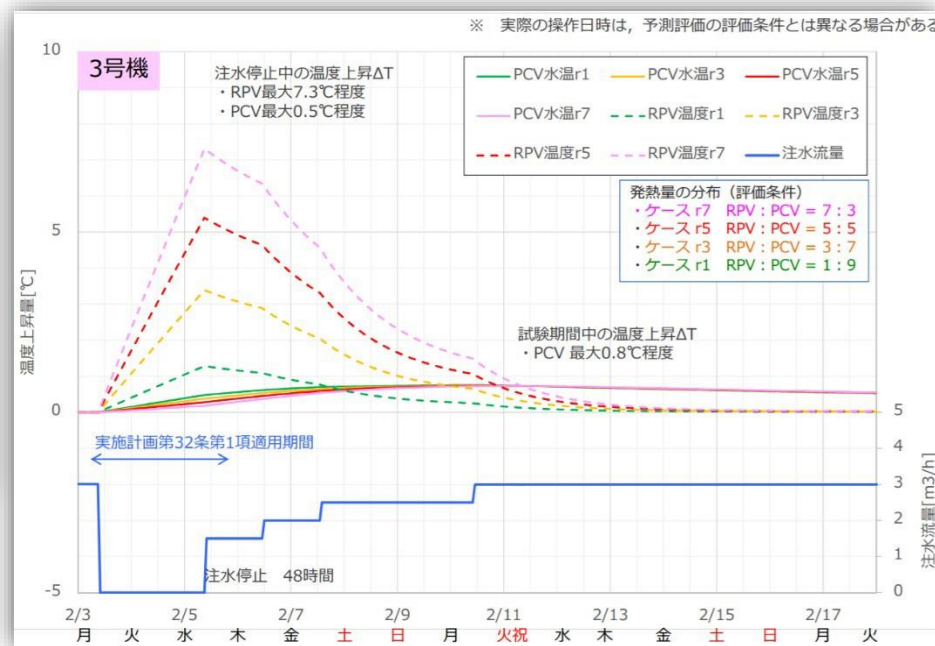
東京電力は、2号機・1号機に続き、3号機においても緊急時対応手順の適正化などを図るために、必要な安全措置を取りつつ、2020年2月3日から2日程度(約48時間)の注水停止試験を、下左図のような工程で実施していく計画を発表しました。

また試験期間中の温度上昇を下右図のように予測評価しています。

[1号機確認試験結果速報に戻る](#)

試験工程	2020年1月	2020年2月
3号機	CS系 単独注水 1/31	燃料デブリ冷却状況の確認試験 (2/3~2/17) 注水停止：2/3 注水再開：2/5 CS系・FDW系 注水 2/17
1・2号機	注水流量増加 (3.0 → 4.5m ³ /h) 1/29~1/31	注水流量低下 (4.5 → 3.0m ³ /h) 2/10

(実際の操作日は現場状況により変更となる場合がある)



3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について

東京電力は、3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果(速報)について下記の通り発表しました。

■ 試験概要

- ✓ 2020年2月3日～2月5日にて約48時間注水を停止。その後、注水を再開しパラメータを監視。試験期間中の炉内状況は安定して推移し、判断基準を満足した。
- RPV底部温度、PCV温度に温度計毎のばらつきはあるが概ね予測の範囲内で推移。
- ダスト濃度や希ガス(Xe135)濃度等のパラメータに有意な変動なし。

最大温度上昇量

	RPV底部	PCV
注水停止中 (2月3日10:00～2月5日10:00)	0.6℃ (約0.01℃/h)※	0.7℃ (約0.01℃/h)※
試験期間中 (2月3日10:00～2月17日10:00)	0.8℃	1.2℃

※ () 内は温度上昇率

■ 今後について

- ✓ 実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、PCV水位の変動、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価予定。
- ✓ 緊急時対応手順等への反映を検討していく。

1号機確認試験速報にもどる

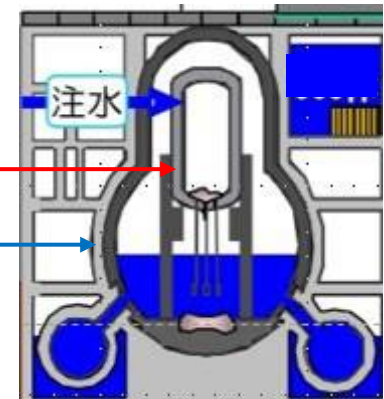
④ 1～3号機核燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について

東京電力は、3号機核燃料デブリ(以下、デブリ)冷却状況の確認試験の結果について上表の通りまとめ、さらに2019年3月から開始された **参照** 1～3号機デブリ冷却状況の確認試験を終了し、その結果について、下表の通り発表しました。

(3号機デブリ冷却状況の確認試験の結果についてのまとめ)

- RPVの温度挙動について
 - RPV底部温度、RPV下部周辺温度は全体的に緩やかな挙動を示していた。
 - RPV底部ヘッド上部温度(TE-2-3-69H2)、RPVスカート上部温度(TE-2-3-69K1)で注水再開後の温度低下が大きい傾向、注水量を2.5m³/hに増加した後に温度上昇傾向が確認された。
- PCV水温と水位の変動について
 - PCV新設温度計(TE-16-003)で温度変化が確認された。当該温度計はPCV水位の変化に伴い、一時的に気相露出したと推定している。
 - PCV水位の評価結果及びMSIV室内の漏えい音の確認より注水停止中のPCV水位はMSラインベローズに至っていないと推定している。
- 熱バランス評価と実績温度の比較
 - RPV温度は熱源の存在割合に応じ、評価結果と実績温度に若干の差異が生じた。
 - PCV温度は実績温度を概ね再現している。
- 放射線データについて
 - ダストではCs-137、凝縮水ではCo-60、Sb-125で注水停止前後の放射能濃度に変動が確認された。
 - フィルタユニット表面線量、オペフロダストモニタの指示値については注水停止による影響は確認されなかった。

筆者注:
 RPV=原子炉圧力容器
 PCV=原子炉格納容器



- 1～3号機において、原子炉注水を一時的に停止する試験を実施した結果として、以下のことがわかった。
 - ① 試験中のRPV温度やPCV温度に大きな上昇はなく、ダスト濃度や希ガス濃度にも影響はなかったことから、一時的な原子炉注水の停止によって、燃料デブリの冷却状態に問題はないこと。
 - ② 熱バランスモデルによって、注水停止などの過渡的な冷却状態の変化をふくめ、RPV底部温度やPCV温度を概ね評価可能であること。
 - ③ 注水停止中の温度上昇率は、最大の2号機で約0.2℃/hであり、この温度上昇率に基づくと、注水停止時の時間余裕は、およそ10日以上と見込まれ、従前評価の約10時間と比べ、大幅に余裕が大きいこと※。

筆者注:なかったことから、

※ RPV底部の温度が運転上の制限である80℃に到達するまでの時間余裕

(5) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第Ⅱ期

① 福島第一原子力発電所1～3号機原子炉注水停止試験の実施について

2020年7月、東京電力は、2019年度に実施した注水停止試験結果(前ページ参照)を踏まえ、今後の廃炉に向けて、各号機の状況を踏まえた目的に応じた試験を計画・実施していくことを発表しました。 参照

各号機の試験目的等は、下左の表の通りとされていますが、さらに、原子炉冷却状態や炉内挙動などの評価に資するデータ拡充の観点から、原子炉格納容器(PCV)ガス管理設備のHEPAフィルタユニット表面線量率の取得、およびPCVガス管理設備のHEPAフィルタ入口側抽気ガス(フィルタ通過前)のダストおよびHEPAフィルタ入口側抽気ガス(フィルタ通過前)の凝縮水のサンプル採取も検討されています。 筆者注：HEPAフィルタ＝空気中からゴミ、塵埃などを取り除き、清浄空気にする目的で使用されるエアフィルタの一種

日程は、2号機の試験を先行して実施(注水停止：8/17～8/20予定)。1号機の試験は、内部調査に向けた作業後に実施する計画。3号機は今年度中に実施できるように工程を調整していくとしています。

また、注水停止時に生じる可能性のあるリスク、およびそのリスクの緩和策については下右の表の通りとしています。

	1号機	2号機	3号機
試験目的	注水停止により、PCV水位が水温を測定している下端の温度計(T1)を下回るかどうかを確認する	2019年度試験(約8時間)より長期間の注水停止時の温度上昇を確認し、温度評価モデルの検証データ等を蓄積する	PCV水位がMS配管ベローズを下回らないことを確認する
補足	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度試験では、PCV水温を測定している温度計は露出しなかった より長期間の停止で温度計が露出するか確認し、今後の注水量低減・停止時に考慮すべき監視設備に関する知見を拡充する PCV水位低下状況を踏まえ、今後の注水のありかたを検討していく 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度試験での注水停止期間、RPV底部温度はほぼ一定で上昇することを確認 より長期間の停止で、温度上昇の傾きに変化が生じるか確認し、評価モデルを検証する 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度試験では、PCVからの漏えいを確認しているMS配管ベローズまでPCV水位は低下しなかった PCV水位の低下有無や低下速度等を踏まえ今後の注水のありかたを検討していく
停止期間	5日間	3日間	7日間

	影響評価	影響緩和策
温度変化	<ul style="list-style-type: none"> 注水停止に伴う除熱減少により、RPVやPCVの温度が上昇する 熱バランス評価により温度上昇は最大10℃程度と評価しており、注水停止試験による温度上昇は限定的 	<ul style="list-style-type: none"> 想定外の温度上昇に備え、RPV、PCVの温度変化を慎重に監視。 異常な温度上昇を確認した場合、速やかな注水再開や注水量増加等の措置を実施。
再臨界	<ul style="list-style-type: none"> 注水再開時に1m³/hを超える注水増加を伴うものの、注水量を現在の状態に戻す操作であり、未臨界維持に与える影響はない 	<ul style="list-style-type: none"> ガス管理設備の希ガスモニタを監視。 Xe-135の濃度の上昇/検知を確認した場合、注水再開前の状態に戻し、ほう酸水の注入等の措置を実施。
ダスト等の放出量増加	<ul style="list-style-type: none"> ガス管理設備においてフィルタを通して排気していることや、湿潤環境が維持されていることにより、注水停止試験による放出量増加はない 	<ul style="list-style-type: none"> ガス管理設備のダストモニタを監視。 異常なダスト上昇を確認した場合、速やかな注水再開や注水量増加等の措置を実施。

出典：2020年7月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第80回) 資料「福島第一原子力発電所1～3号機原子炉注水停止試験の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/07/3-5-2.pdf>

概要に戻る

② 1号機原子炉注水停止試験の実施について

1号機の原子炉格納容器(PCV)には注水冷却により、核燃料デブリ(以下、デブリ)の上に深さ約1.5 mの汚染滞留水(以下、滞留水)が溜まっており、その水温は温度計により常時監視されています。

注水冷却は汚染水発生の一つの要因であり、デブリの冷却を確保しつつ注水量を低減することが望まれています。水温の監視も欠かすことはできません。

今回の停止試験は、5日間の注水停止により滞留水が最下部の温度計(右図T1)の位置より下がり、水温が測れなくなるかどうかを確認することを目的として実施されました。

なお2019年度に実施された49時間の注水停止試験 **参照** では、温度計T1の位置まで滞留水は下がりませんでした。

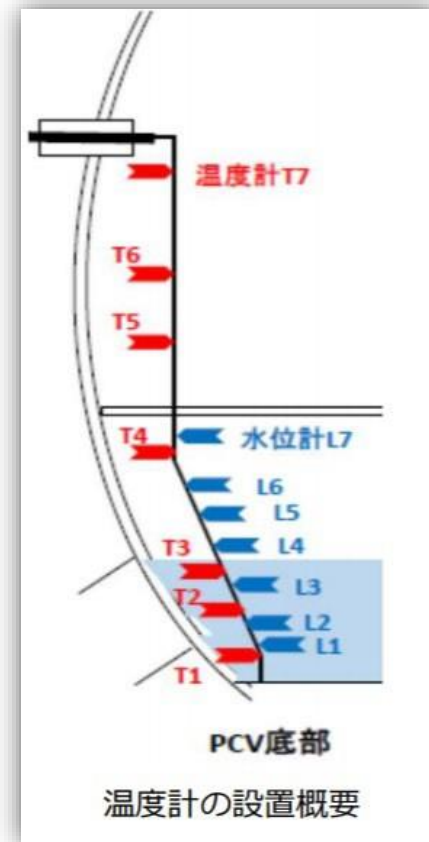
試験結果は概略以下の通りであったと発表されました。

注水停止:2020年11月26日14:33→注水再開:2020年12月1日15:20

原子炉圧力容器(RPV)底部温度、PCV温度に温度計ごとのばらつきはあるが、概ね予測の範囲内で推移した。

PCV水位は、水温を測定している下端の温度計(T1)を下回らなかったと推定される。昨年度試験と同様に、注水停止中にドライウェル(D/W。筆者注:原子炉圧力容器を包み込むフラスコ型の部分)圧力の低下を確認した。

ダスト濃度や希ガス(Xe-135)濃度に有意な変動はなかった。



出典:2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第84回)資料「1号機原子炉注水停止試験の実施(試験工程)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-4.pdf>

2020年12月24日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第85回)資料「1号機原子炉注水停止試験結果」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/12/3-5-2.pdf>

概要に戻る

③ 2号機原子炉注水停止試験結果(速報)

前々ページの下左表中、原子炉注水停止試験2号機の目的である「2019年度試験(約8時間)より長期間の注水停止時の温度上昇を確認し、温度評価モデルの検証データ等を蓄積する」ため、2020年8月17日10:09～年8月20日11:59の約74時間、2号機において、核燃料デブリの冷却注水が停止されました。

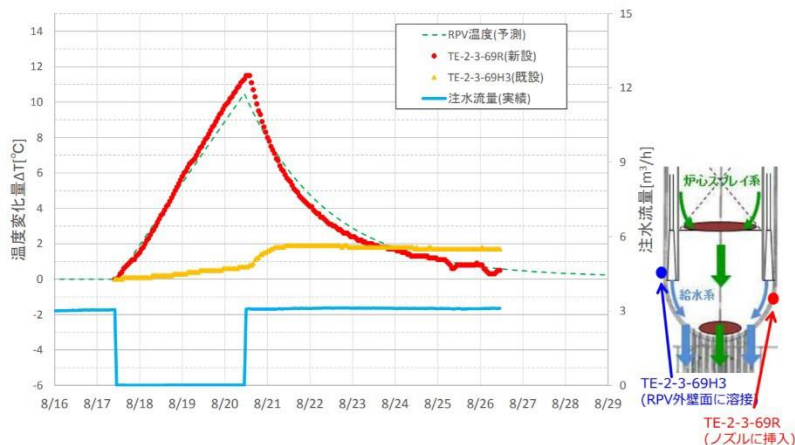
この間の温度上昇は、原子炉圧力容器(RPV)底部で12℃未満、原子炉格納容器(PCV)で4℃未満。温度変化の推移も、現行の温度評価モデルに基づく予測に近いものでした。また、この間、ダスト濃度や希ガス(Xe135)濃度等のパラメータに有意な変動も測定されませんでした。

東京電力は今後について、

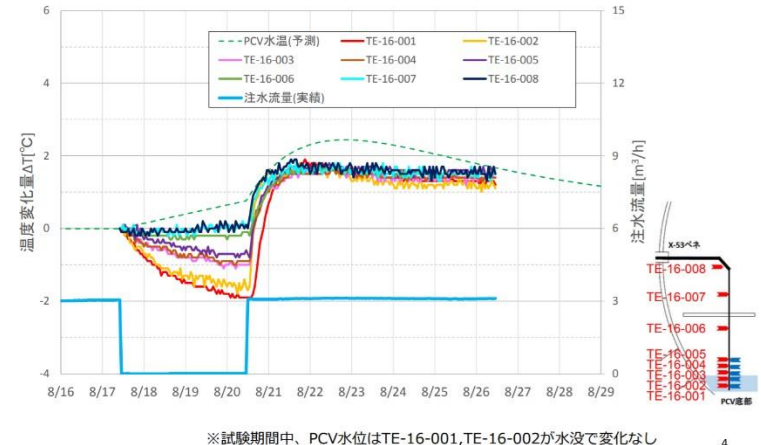
「試験終了予定の8月28日までパラメータの監視を継続する。

実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価予定」としています。

RPV底部温度の推移 (試験開始からの温度変化量)



PCV温度(新設)の推移 (試験開始からの温度変化量)



※試験期間中、PCV水位はTE-16-001,TE-16-002が水没で変化なし

出典：2020年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議 (第81回) 資料

「2号機原子炉注水停止試験結果(速報)」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/08/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(6) 原子炉格納容器循環注水冷却(の停止) 第Ⅲ期

① 福島県沖地震(2021年2月13日)のイチエフへの影響、および地震から分かったこと

2021年2月13日夜福島県沖を震源としたマグニチュード7.3の地震が発生し、イチエフは震度6弱の揺れにみまわれました。この地震によりイチエフ構内で起きた主要なこと、またこの地震をきっかけに分かったことを、以下に列挙します。

- ・ 5・6号機の各原子炉建屋の上部にある使用済み核燃料プールから水の一部があふれ出ました。東京電力は建屋外への流出は確認されておらず、外部への影響はないとしています([14日東京電力発表](#))。
- ・ 増設ALPSサンプルタンク1基(全3基)、高性能ALPSサンプルタンク2基(全3基)にタンクの位置ずれ(最大5cm)が確認されたそうです。東京電力は、水漏れやタンクの損傷は確認されていないとしています([18日東京電力発表](#) 9ページ)。
- ・ 1・3号機原子炉格納容器(以下、格納容器)の水位が低下していることが分かりました([19日東京電力発表](#))。
- ・ 1号機の格納容器圧力が低下していることが分かりました([21日東京電力発表](#))。
- ・ 22日の原子力規制委員会の第88回特定原子力施設監視・評価検討会の席上で、東京電力は、3号機の原子炉建屋に昨年設置した地震計2基が故障していたにもかかわらず、修理などの対応をせず放置していたため、[2月13日に発生した地震の揺れのデータが記録できていなかったことを明らかにしました\(第88回特定原子力施設監視・評価検討会 会議映像\)](#)。
- ・ [22日、東京電力が、2月1日から1～3号機の水位データの採取を終了していたことが分かりました\(おしどりマコtwitter\)](#)。

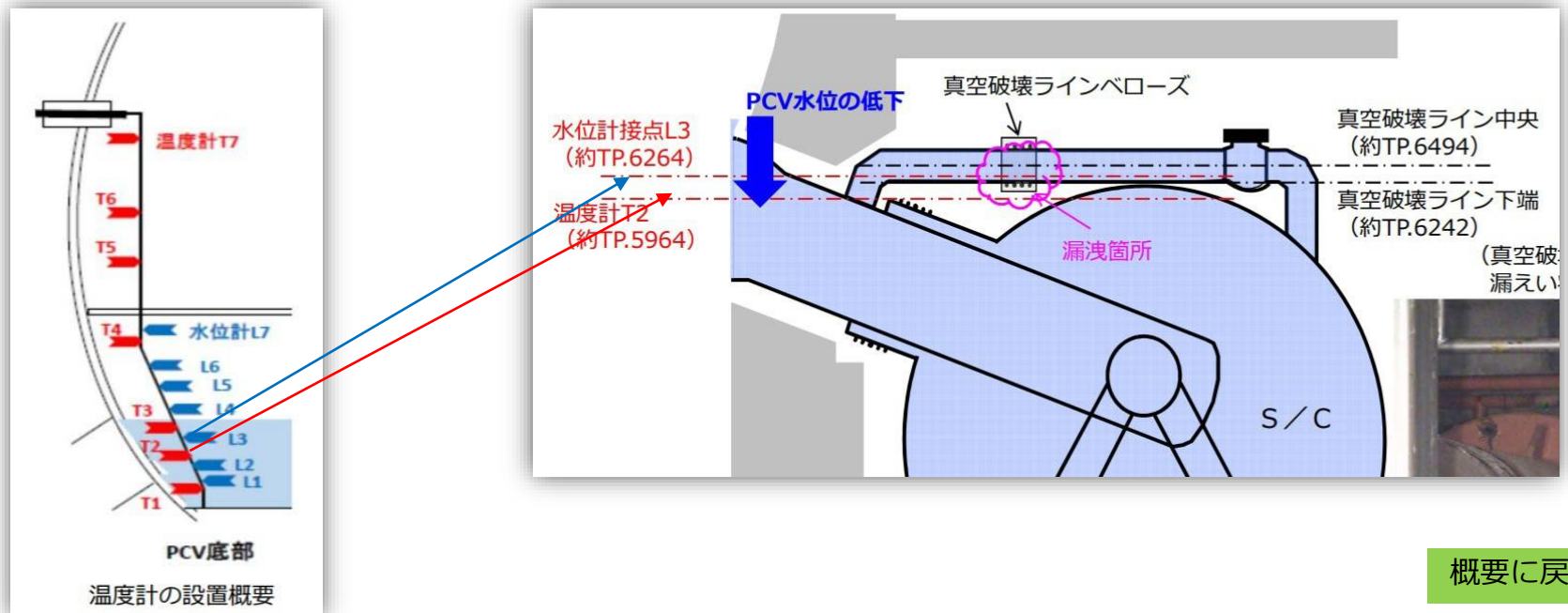
本レポートでは、このうち、今後の廃炉作業への影響も懸念される、1・3号機格納容器の水位低下と、1号機格納容器圧力の低下について、現時点で分かる限り、何が起きているのかを掘り下げてみます。

② a 福島県沖地震 (2021年2月13日)のイチエフへの影響、および地震から分かったこと

1号機では、2019年10月に行われた1号機核燃料デブリ注水冷却停止試験 [参照](#) において、水位を温度計T2 付近まで下げたところで、原子炉格納容器(以下、PCV)圧力が低下し、注水再開後、水位を温度計T2付近まで上げたところでPCV圧力が元に復しています。東京電力は、この高さがこれまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズの設置高さとおおむね一致したことから、PCV水位が損傷個所を下回ると、損傷個所が空気中に露出し、そこからPCV内空気が漏えいし、PCV圧力が低下したたのだろうと推論しています(2020.1.30 [『1号機 燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について』](#)14ページ)。

この推論を今回の1号機PCVの水位と圧力との挙動に重ね合わせると、今回の地震発生後、1・3号機PCVの水位が低下し、かつ1号機の格納容器圧力が低下していることから、1号機PCVでは、これまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズより下部の損傷が拡大したか、新たな損傷が生じ、そこから冷却水が漏れることでPCV水位が真空破壊ラインベローズ以下に低下し、真空破壊ラインベローズが空気中に露出し、そこからPCV内空気が漏えいしPCV圧力が低下したと考えられます。

核燃料デブリの環境への影響の最大の防波堤であるPCVおよび周辺機器の脆弱性が懸念されます。 [\(次ページに続く\)](#)

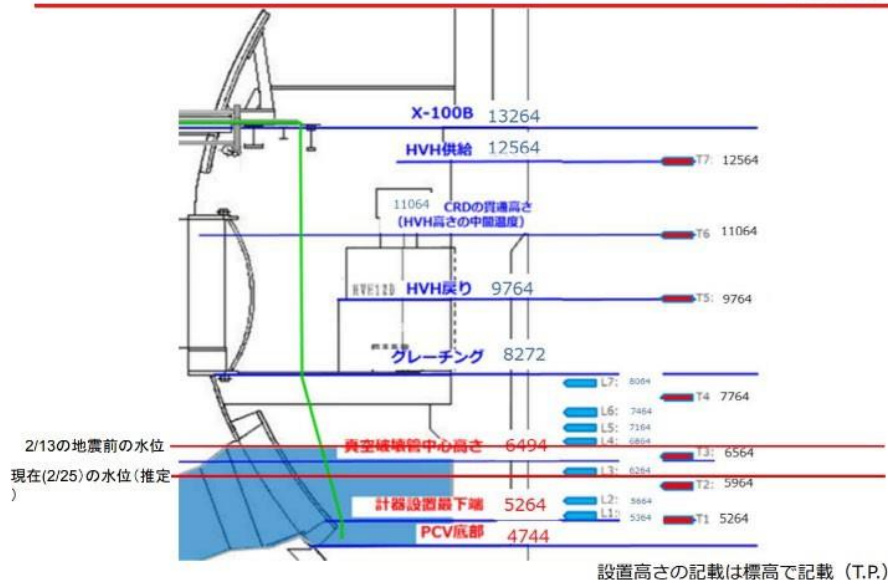


b 2月25日廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第87回)以降の推定

[下部2図を含む標記会議資料](#)において東京電力は、1号機原子炉格納容器(以下、PCV)の水位の低下および圧力の低下の状況と原因について、[前ページ](#)の筆者の推定とほぼ同じ推定をしています。27日現在、温度計T2付近まで水位は下がり続けているようです。

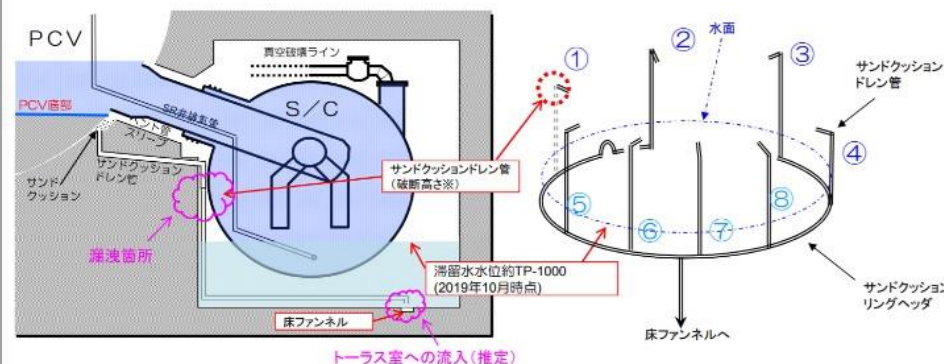
1号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ

TEPCO



(参考) 1号機 これまでのPCV漏洩箇所の推定状況 (2/2)

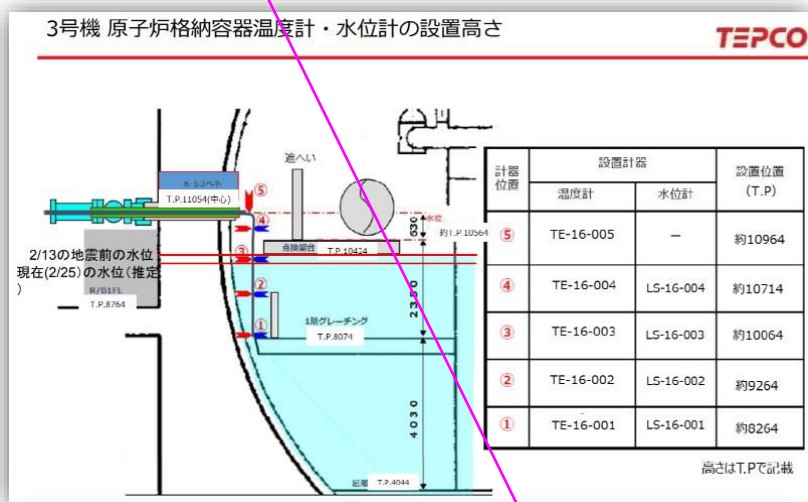
TEPCO



※ サンドクッションドレン管は8本あり、うち1本が気中で破断していることが確認されている。

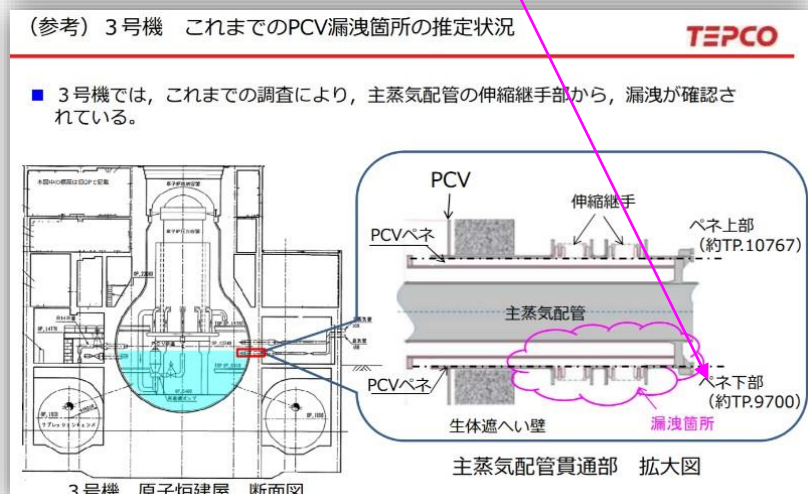
- サンドクッションドレン配管からの漏洩が確認されているのは、気中で破断している1箇所のみであるが、他の7本についても、水中(たとえば床ファンネル付近)において、PCVから漏洩している可能性がある。

[下部2図を含む標記会議資料](#)において東京電力は、3号機PCVの水位低下の原因については、主蒸気配管の伸縮継手部からの漏えいが従来から確認されていたことにとどめています。しかし、3月1日現在、水位は主蒸気配管が通っている貫通部下部を超えて低下しています。 [損傷の拡大（推定）と水位の低下に戻る](#)



3号機PCV水位の変化（東京電力日報データから筆者が計算）

日付	水位（底部から）	前日との水位差	地震前との水位差
単位	mm	mm	mm
地震前の水位	6,380		
2021/2/19	5,579	-801	-801
2021/2/20	5,570	-9	-810
2021/2/21	5,549	-21	-831
2021/2/22	5,549	0	-831
2021/2/23	5,529	-20	-851
2021/2/24	5,520	-9	-860
2021/2/25	5,509	-11	-871
2021/2/26	5,518	9	-862
2021/2/27	5,499	-19	-881
2021/2/28	5,500	1	-880
2021/3/1	5,519	19	-861



③ 1・3号機原子炉格納容器の水位

3号機については、2021年4月2日『[福島第一原子力発電所の状況について\(日報\)](#)』によると、プラントパラメータに異常がなく、原子炉格納容器(以下、PCV)水位も、2021年2月13日以前の水位約 6.4 m から 90 cm 減で安定していることから、4月2日、監視強化から通常の監視に戻したということです。

1号機は、『[1,3号機原子炉格納容器\(PCV\)の水位低下について\(続報2\)](#)』によると、3月22日、水位が水位計L2 (T.P.+5,664 mm)を下回ったため、核燃料デブリ冷却用注水量を 3.0 m³/h→4.0 m³/hとし、23日の『[同\(続報4\)](#)』によると、水位は水位計 L2 上に復し、26日の『[同\(続報6\)](#)』によると注水量を 3.0 m³/hに戻しています。また1号機では接点式の水位計しか設置しておらず、連続的に水位データを追えません、4月の水位は温度計T2(T.P.+5,964 mm)水位計L2 (T.P.+5,664 mm)との間にあるようです。

また3号機については、4月5日から4月22日の期間、原子炉注水停止に伴いPCVの水位がどの程度まで低下するのか影響を確認し、さらに今後の燃料デブリ取り出し関連作業に向けた知見拡充を図るため、3号機の原子炉注水設備において、原子炉注水を一時的に停止する試験(3号機原子炉注水停止試験)を実施しました。

詳しくは[次ページ](#)をご覧ください。

さらに1号機では、2021年度、地震があった際のリスクを低減するため、水位を低下させる計画が発表されました。

※ [この1号機の水位低下計画についてのレポートは、今後の核燃料デブリの取り出し準備の一環と思われるので、「核燃料デブリの取り出し準備2021年4月レポート」173ページ～「\(3\) 原子炉格納容器\(以下、PCV\)内部状態の変更」内の176ページ～「b 1号機 原子炉格納容器水位低下計画について」に移しましたので、そちらをご覧ください。](#)

(次ページに続く)

④ 1号機 原子炉格納容器の水位の経過について

(2021年5月の経過)

1号機の原子炉格納容器(以下、PCV)水位は、「福島原子力事故に関する定期更新 2021年(日報)」によりますと、5月1日から6日までは、温度計T2(T.P.+5,964 mm)と水位計L2(T.P.+5,664 mm)の間にありましたが、7日には水位計L2(T.P.+5,664 mm)を下回り、注水量が約3.0 m³/hから約4.0 m³/hへと増量されました。この結果11日、水位は温度計T2(T.P.+5,964 mm)超に復し、注水量は約3.0 m³/hへ戻されています。この不安定な水位を受け、10日に計画されていたPCV注水量変更計画が延期されています。

18日には総注水量約3.0 m³/hのうち、炉心スプレイ系と給水系が半々だったのが給水系一本での約3.0 m³/hに変更されました。理由は不明です。

21日になると水位は再び温度計T2(T.P.+5,964 mm)付近となり、さらに24日には温度計T2(T.P.+5,964 mm)を下回り、30日には、水位計L2(T.P.+5,664 mm)も下回ったため、31日に注水量を約3.0 m³/hから約4.0 m³/hへと増量。6月1日に水位計温度計T2(T.P.+5,964 mm)超まで復すという挙動を繰り返しています。

なお2月13日地震の前のPCV底部からの水位は約175 cm、水位計L2(T.P.+5,664 mm)のPCV底部からの水位は約92 cmです。

(2021年6月の経過)

上記の注水量の増量により、6月1日、水位は再び温度計T2(T.P.+5,964 mm)超に復し、6月3日以降、水位計L3(T.P.+6,264 mm)付近にあるようです。

また、接点式の水位計であるL2(T.P.+5,664 mm)については、6月1日、水位がT.P.+5,964 mm超であるにもかかわらず、接点ON(水没)とOFF(非水没表示)を繰り返している状態ということであり、信頼性に疑問が生じています。

出典：2021年5月30日東京電力資料「1,3号機原子炉格納容器(PCV)の水位低下について(続報13)」一原子力発電所 1号機および3号

https://www.tepco.co.jp/press/mail/2021/1612077_9004.html

2021年6月1日東京電力資料「福島第機原子炉格納容器における水位低下について(続報)」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210601_1.pdf

2021年6月1日東京電力資料「福島第一原子力発電所 1号機および3号機原子炉格納容器における水位低下について(続報)」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210601_1.pdf

概要に戻る

⑤ 2021年2月13日地震による1・3号機原子炉格納容器の損

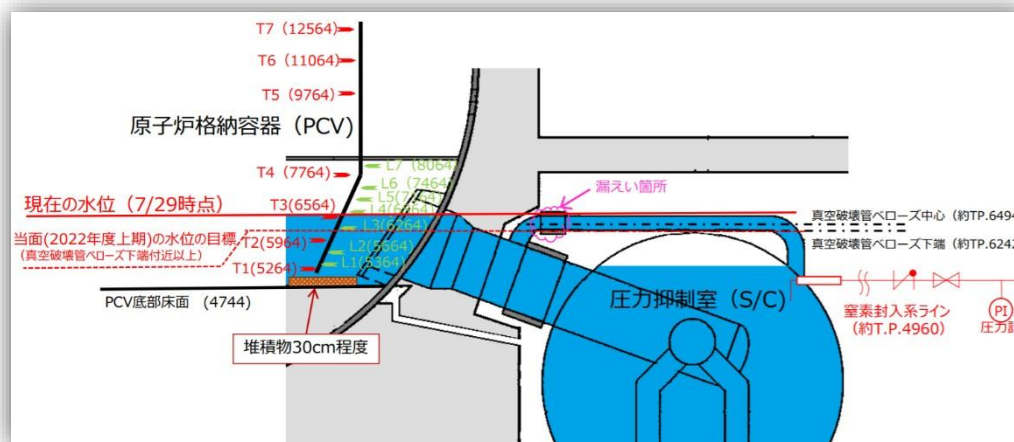
傷の拡大(推定)と水位の低下について

2021年2月13日深夜、福島県沖を震源とする地震が発生しました。福島第一原子力発電所では、現行基準地震動(水平方向) 600 Galに対して6号機で235.1 Galの揺れでした。

従来から原子炉格納容器(以下、PCV)の損傷が推定されていた1, 3号機においては、地震前の冷却注水量3.0 m³/hにより、1号機ではPCV底部より約175 cm、3号機では約638 cmの水位が保たれていました。しかし2月19日以降水位の低下が続き、3号機では4月1日、約548 cmまで約90 cm低下したところで安定しました(前々ページ既報)。

1号機は、一時は約92 cmまで水位が低下しましたが、冷却注水量を3.0 m³/hと4.0 m³/hとの間で調節、試行錯誤するとともに、連続して水位を測定できる圧力計を追加設置し、6月7日に冷却注水量を3.5 m³/hとすることで約152 cmで安定を得ました。

これらのことから、3号機では、これまでに損傷が確認されていた主蒸気配管の伸縮継手部より下部に新たな損傷が発生(参照) 1号機では、これまでに損傷が確認されていた真空破壊ラインベローズの損傷規模が 0.5 m³/h程度拡大したと推定されます(下図)。



出典：2021年2月15日東京電力資料「地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について」

https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/reference/pdf/2021/1h/rf_20210215_1.pdf

2016年1月21日東京電力資料「福島第一原子力発電所検討用地震動・津波に対する建屋検討結果」

<https://web.archive.org/web/20170119041544/https://www.nsr.go.jp/data/000137503.pdf>

2021年7月29日東京電力資料「1号機 原子炉格納容器における水位安定の状況について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2021/07/92-3-6-2.pdf>

概要に戻る

(7) 循環注水冷却スケジュール

(更新)

東京電力は、原子炉注水設備に関する信頼性向上などを目的として、循環注水冷却ラインについて様々な改修を加えています。改修工事実施時には、通常炉心スプレイ系(CS系)注水ライン・給水系(FDW系)注水ラインの2系統で行っている原子炉循環注水冷却の一方を止めることもあります。

個々の停止実績および予定については、下の循環注水スケジュール表をご覧ください。

作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月以降	備考
循環注水冷却	(実 績) ・【計画】循環注水冷却中 (継続) (予 定)									原子炉・廃炉容器内の取替動評価、点検、大規模修繕に応じて、また、作業等に必要に応じて、原子炉注水装置の調整を実施
炉水温度及び電圧調整	(実 績) ・CST直注による注水冷却設備点検 (継続) ・ヒドラン注入中 (2013.8.29～)									設備の名称 CS: 炉心スプレイ CST: 炉心冷却タンク FDW: 原子炉給排水系 SP: 使用済燃料プール

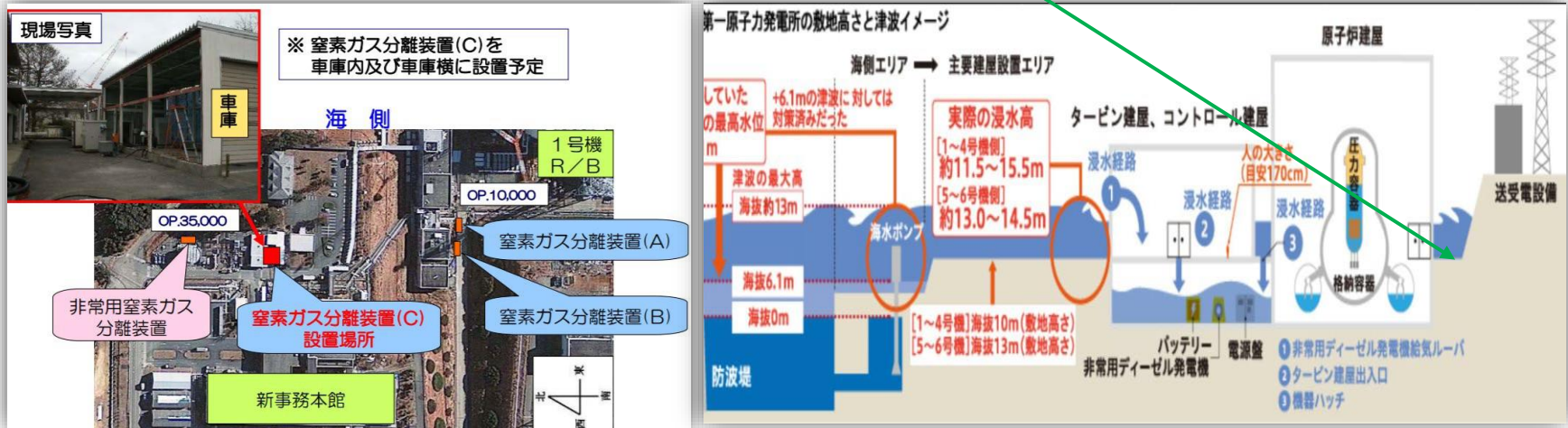
5 原子炉格納容器ガス管理設備

(1) 窒素ガス分離装置A及びBの取替及び原子炉圧力容器窒素封入ライン二重化 (特定原子力施設に係る実施計画変更認可申請)

原子炉格納容器内窒素封入設備は、水素爆発を予防するために、原子炉圧力容器内及び原子炉格納容器内に窒素を封入することで不活性雰囲気を維持することを目的として、専用のディーゼル発電機を備えない窒素ガス分離装置A・B2台を事故直後1号機近傍の10 m盤に設置・運用し、2013年には専用のディーゼル発電機を備えたCを高台に新設・運用しています。

東京電力は2017年10月6日、原子力規制委員会に対し、津波時等の信頼性向上のため、A・BをCと同様の高台に移設し、かつそれぞれに専用ディーゼル発電機を設置するという変更認可を申請しました。

(現在の原子炉格納容器内窒素封入設備配置位置)



出典：2012年12月25日東京電力「窒素ガス分離装置（C）の新設について」
http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/121225/121225_01j.pdf
 (以下のURLはリンク切れのようです)

2017年10月6日原子力規制委員会「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画 変更認可申請書」
<http://www.nsr.go.jp/data/000206065.pdf> 2017年10月6日原子力規制委員会「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画変更比較表（第二章 2.2 原子炉格納容器内窒素封入設備）」
<http://www.nsr.go.jp/data/000206059.pdf>

概要に戻る

(2) 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内圧力の減圧試験の実施について

イチエフの1～3号機の格納容器(PCV)は、窒素ガスの注入とガス管理設備による排気のバランスにより大気圧より高い圧力(PCV内の気圧)を維持し、水素濃度の上昇を抑制してきました。

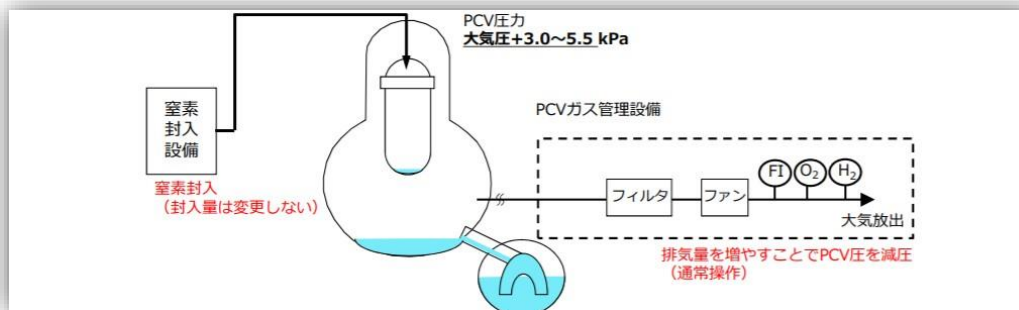
とくにメルトダウン後に1・3号機のように水素爆発を起こしてしまっていない2号機については、1号機(大気圧+1.15 kPa)、3号機(大気圧+1.15 kPa)より高い大気圧+ 3.0 kPa～5.5 kPaで運用してきました。

一方、今後、格納容器からの放射性物質の放出口リスクを低減させ、また格納容器内部調査時における格納容器内外の遮断(バウンダリ)開放作業等の作業性を向上させるために、格納容器圧力を下げていく必要性があります。

現在、2号機でも水素濃度上昇のリスクは低くなっており、東京電力は、1 kPa減圧した場合でも水素濃度上昇量は0.1 %程度と低く、実施計画制限2.5 % (水素濃度管理値: 1.5 %)に至るおそれはないと推定しています。

このため、2018年7月から約半年間の予定で、減圧試験を実施し、その結果プラントパラメータやダスト濃度に有意な変動は確認されませんでした。

本試験の結果を踏まえ、2018年12月1日よりPCVの設定圧力を大気圧+2 kPa程度を中心に、0 kPa～ 5.5 kPaを運用範囲とし本運用しています。



2号機 原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認に戻る

出典：2018年6月28日第55回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料
「福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内圧力の減圧試験の実施について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/07/3-5-2.pdf>

2018年12月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議 (第61回) 資料

「福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器圧力の減圧試験(STEP2)の結果について」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/13/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(3) 1号機格納容器内部調査のためのアクセスルート構築のためのX-2貫通部外側の孔あけ作業における、放射性ダスト放出リスク低減のための減圧操作について

東京電力は、2019年度上期に実施が予定されている1号機格納容器内部調査の、アクセスルート構築に際して実施する孔あけ加工機(アブレシブウォータージェット:AWJ)による作業中のダスト放出リスクをさらに低減することを目的とし、1号機の原子炉格納容器(PCV)圧力(PCV内の気圧)を大気圧と同等程度を目標に減圧する操作を実施し、その結果と今後の取り扱いについて以下の明朝体部分(文中のゴシック体は筆者による補遺)の通り公表しました。

操作実績

- ・操作日時:2019年4月4日(木), 11日(木)
- ・対象号機:1号機
- ・PCVガス管理設備排気流量:4月 4日 約20 m³/h → 約24 m³/h
4月11日 約23 m³/h → 約26 m³/h
- ・PCV圧力 操作前:約0.7 kPa → 4月15日現在:約0.0kPa

(次ページに続く)

4月4,11日, 1号機PCV(原子炉格納容器)ガス管理設備排気流量を増加させることにより, 1号機PCVの減圧を実施した結果, 大気圧と同等程度までPCV圧力(PCV内の気圧)を減圧(約0.0-約0.1 kPa)できることを確認した(減圧操作後, 監視パラメータである酸素濃度・水素濃度に異常なし)。

一方, 4月11日の操作以降, 複数のPCV内温度計で大気圧の上昇に応じた温度上昇を確認(約0.1-約0.3°C/hで上昇が確認されたものが1本。その他は0.1°C/h未満の微小な上昇)過去にも類似事象は確認されているが, その際の温度上昇率(約0.6-約2.0°C/h)に比べ, 今回の上昇率は小さい。

減圧操作の手順は「PCV内温度が全体的に上昇傾向が継続する場合は, 排気流量を減少させる」としていたが, 大気圧の変動に対する温度計指示の上昇が落ち着く傾向が見られることから, 当面は現状の減圧状態を維持し, 温度の監視を継続することとする。但し, 念のため下記の判断基準を追加し, そのいずれかを逸脱した場合は, ガス管理設備の排気流量をPCV温度の上昇が確認されなかった4月11日の操作前(約23-約24 m³/h)を目安に減少させる等の対応をとる。

温度計指示値 50°C以下

温度上昇率 1.0°C/h以下

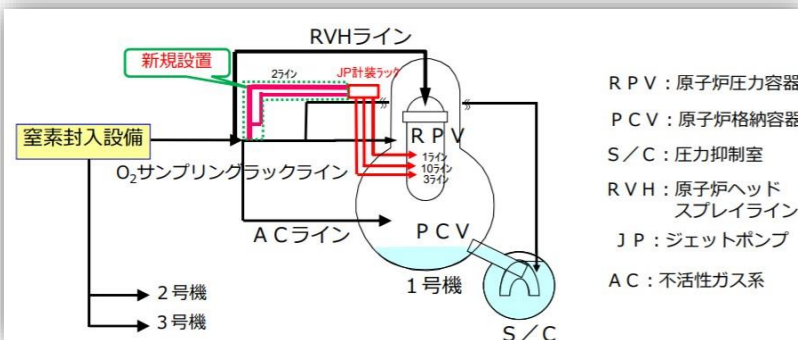
なお, 排気流量を減少させる場合には, 今回得られた減圧操作に関する知見を踏まえ, PCV温度の監視を行った上で, 圧力の調整を検討する。

(4) 新規に設置したRVHラインを用いた窒素封入設備の通気試験

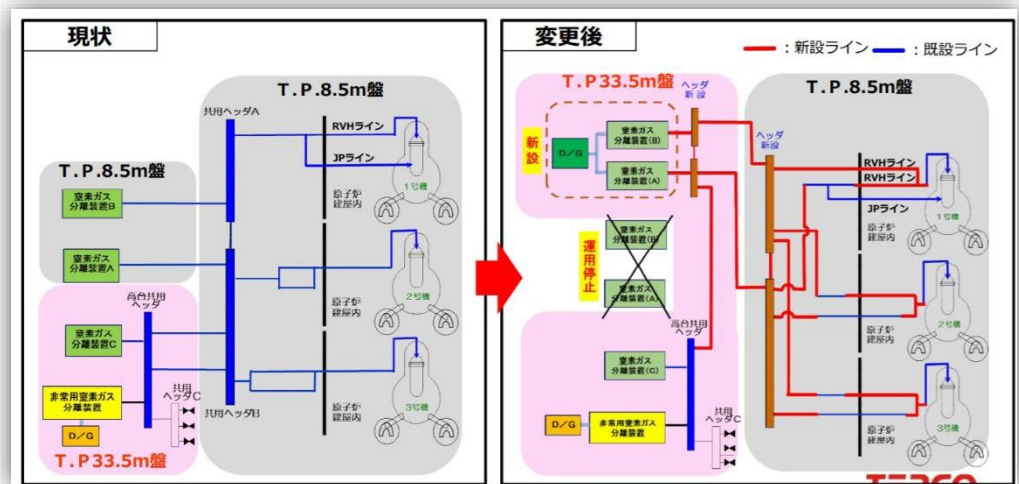
「[原子炉格納容器ガス管理設備](#)」ページでレポートした通り、窒素封入設備のうちA、Bは、震災直後にT.P.8.5m盤に設置した設備であるため、東京電力は、津波対策としてT.P.33.5m盤の高台へ移し、同時に、窒素ガス分離装置AおよびBを取替え（2019年3月現在、装置本体を収納したコンテナ、発電設備、電気計装品コンテナ等を設置済み）、並びに非常用電源を多重化するため専用ディーゼル発電機を新設します。

合わせて信頼性向上のため、1～3号機原子炉圧力容器(RPV)封入ラインを二重化します。新設装置への切り替えは、原子炉への窒素封入に影響がないように既設装置を流用しながら実施することとしています。

2019年6月、1号機において、2系統の窒素封入ラインのうち、新たに設置したRVHラインを用いた窒素封入設備の通気試験を実施しています。通気試験における新設RVHラインおよび既設JPラインそれぞれの窒素封入量の変更量については出典3をご覧ください。



- RPV：原子炉圧力容器
- PCV：原子炉格納容器
- S/C：圧力抑制室
- RVH：原子炉ヘッドスプレライン
- JP：ジェットポンプ
- AC：不活性ガス系



窒素ガス分離装置(B)のLCO逸脱に戻る

出典：2019年8月24日東京電力
 「原子炉格納容器内窒素封入設備 1～3号機原子炉圧力容器封入ライン二重化及び窒素ガス分離装置A、B取替工事について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2019/3-5-5.pdf>
 2019年3月26日福島県「福島第一原子力発電所現地確認報告書」
<https://web.archive.org/web/20191020185614/http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/330661.pdf>
 2019年6月東京電力「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」
https://www.tepco.co.jp/press/report/2019/1515154_8985.html

(5) 1～3号機窒素封入設備他取替工事におけるインシデント

2020年2月27日の廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第75回)において、東京電力が提出した下記出典資料「1～3号機窒素封入設備他取替工事について」を開いたところ、5ページに

工事期間中に発生した不適合事象※の対策として、系統全ての弁について銘板の照合およびラインの識別表の取付を実施した。

という記述があったため、このことも含め、この工事計画についてレポートします。

東京電力は、窒素封入設備について、信頼性向上対策として原子炉圧力容器(RPV)窒素封入ラインの二重化工事を実施しました。

ところが、2019年8月、2号機の既設RPV封入ラインから新設RPV封入ラインへの切替を実施中、原子炉格納容器(PCV)内への窒素封入が停止しました。

原因は、操作対象弁の弁銘板に取付間違いがあり(次ページ画像参照)、弁操作により窒素封入ラインが閉塞されたためでした。

その後、弁状態を復旧し、窒素封入が再開されました。

(次ページに続く)

2019年8月のトラブル

このときのトラブルは、2個の弁の表示が入替わっていて違う弁を閉じてしまったものです。

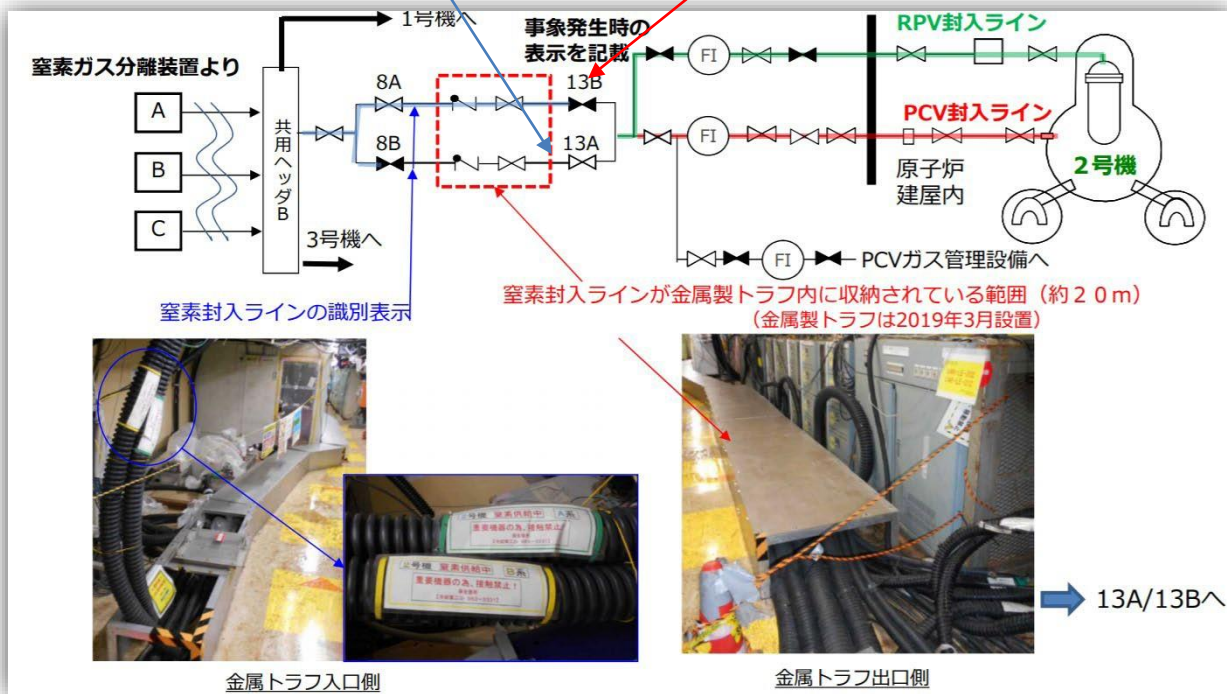
下図の下のラインの13Aと表示された弁(本来は13B)を閉めようとしたが、上のラインの「13B」と表示されていた弁を閉めてしまったため、原子炉格納容器(PCV)内への窒素封入が停止してしまいました。

弁銘板の取付間違いの原因について、東京電力は、

取り付け時期が震災当初であり、ラインや弁の敷設状況が識別するには、高線量環境化で確認する時間が取れ難く、ラインが輻輳している状況であったため、間違っ取り付けた

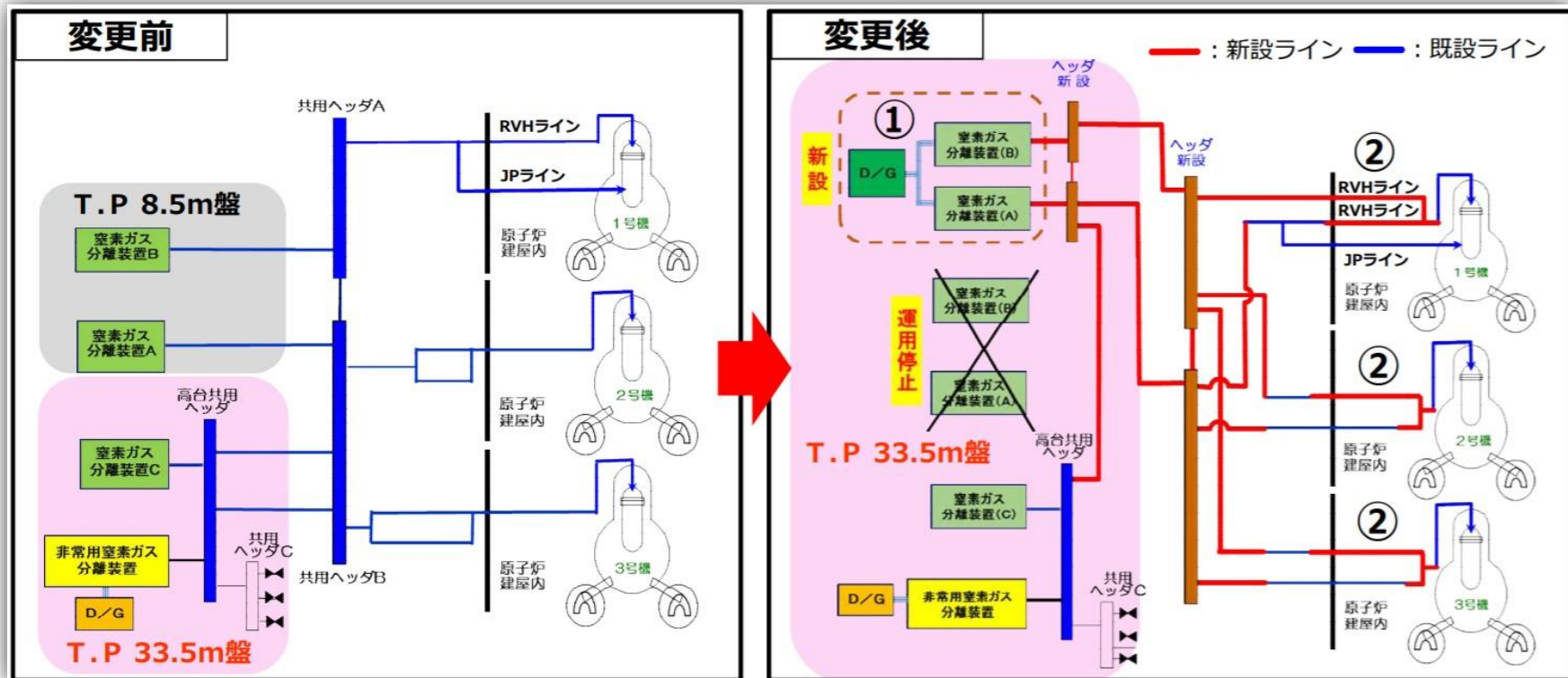
と推測しています。

(次ページに続く)



その後、当該弁13A/Bの弁銘板の間違いは修正されました。

東京電力は、2020年2月現在、原子炉压力容器(RPV)窒素封入ラインは二重化され、既に行われているT.P 33.5 m盤での窒素ガス分離装置A及びBの取替並びに専用ディーゼル発電機の新設、免震重要棟からの遠隔起動化と併せ、「現在、窒素封入設備は信頼性向上工事が完了し、安定運転を継続中」としています。



(6) 窒素封入設備の通気試験に伴う、1号機の窒素封入量変更

東京電力は、2019年12月20日に予定し延期されていた、窒素封入設備の通気試験に伴う、1号機の窒素封入量変更については、以下のとおり実施したと発表しました。各ラインの概要は下図をご参照ください。

[1号機窒素封入量変更実績]

(試験開始 1月30日午前10時12分)

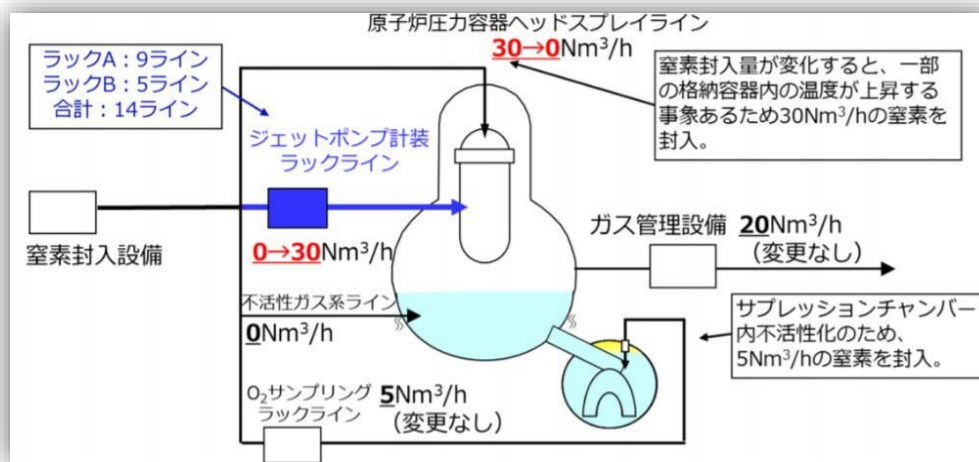
原子炉圧力容器ヘッドスプレイライン: 15 Nm³/h → 30~15 Nm³/h

ジェットポンプ計装ラックライン : 15 Nm³/h → 0~15 Nm³/h

(試験終了 1月30日午後1時50分)

原子炉圧力容器ヘッドスプレイライン: 30~15 Nm³/h → 15 Nm³/h

ジェットポンプ計装ラックライン : 0~15 Nm³/h → 15 Nm³/h



出典：2020年1月30日 東京電力ホームページ「福島第一原子力発電所の状況について（日報）」

http://www.tepco.co.jp/press/report/2020/1527975_8987.html

2017年5月25日 東京電力資料「循環注水冷却スケジュール」

http://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap_progress/pdf/2017/d170525_10-j.pdf

概要に戻る

(7) a 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について

東京電力によると、窒素ガス分離装置B [参照](#) に関し、下記のようなLCO(実施計画に定められた運転上の制限)逸脱が生じたとのことです。(下線は筆者)

4月24日、窒素ガス分離装置の運転をB/CからA/Cへ切替を実施したところ、停止した窒素ガス分離装置Bについて、免震棟集中監視室の監視画面において③出口流量の指示値が減少しないことを確認した。その後の調査において、現場操作盤で警報(4月21日2:14発報)が発生していることを当直員が確認。また、その他の関連パラメータを確認したところ、4月21日以降窒素ガス分離装置Bの ①窒素濃度及び ③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていることを確認した。

当直長は、上記のことから、実施計画で要求される事項(「封入する窒素の濃度が99 %以上であることを毎日1回確認する」)を行うことができていなかったとし、4月24日13:40に「運転上の制限逸脱」を判断した。

なお、窒素ガス分離装置Bの窒素供給の停止を現場の ③出口流量の指示値(0 Nm³/h)で確認、またA/C運転時のパラメータ(窒素濃度、出口流量等)に異常がないことを確認し、当直長は「運転上の制限逸脱からの復帰」を同時刻13:40に判断した。

4月21日以降、PCV(筆者注:原子炉格納容器)内の水素濃度等の監視パラメータに異常は確認されていない。

窒素ガス分離装置Bの状態について、東京電力は、窒素ガス分離装置B本体のパッケージ内部に黒色の粉が広範囲に飛散し堆積しており、この黒色の粉は、装置内の活性炭槽または吸着槽に充填していた活性炭が細粒化されサイレンサから排気されたもので(装置内の他の部分に漏えいの跡がない)、これが、パッケージ内部に設置しているコントローラに流入し、コントローラが故障したことで、「電源異常」の発報に至った可能性があるとしています。

そして今後の対応として、下記の事項を挙げています。

運転継続中の窒素ガス分離装置A/Cについて、以下のとおり監視強化を実施(4月24日より実施中)

(1)現場運転状況確認

- ・現場巡視点検を1回以上/日にて実施
- ・運転状態、現場盤での警報発生の有無および、装置本体内部の異常の有無を確認

(2)免震棟集中監視室パラメータ確認

- ・運転状況のパラメータのトレンドグラフを監視装置に常時表示し確認を実施
- ・運転状況の傾向変化についても確認

(表示させるトレンドグラフは、指示値の変動が確認できるように表示スパンを拡大化)

確認対象パラメータは、窒素封入圧力、窒素封入流量、窒素ガス発生装置出口流量および窒素/酸素濃度
設備

窒素ガス分離装置B

構外に搬出し、損傷原因の調査及び点検を行う予定。なお、復旧については、設備の状態を確認したうえで検討。

窒素ガス分離装置A

B号機と同一製品であり、同様な事象が発生する可能性も否定出来ないことから、応急対策を検討中(サイレンサの排気口の屋外化等)。また、運転中のA号機に異常は確認されていないが、C号機のみでも1~3号機の窒素封入量の十分な確保が可能であり、安定的に窒素供給できることから待機号機とする。

※C号機が停止した場合、速やかにA号機を起動する。PCV内の水素濃度の制限に到達するまで時間的余裕があり、PCVへの窒素封入機能に影響はない。

(次ページに続く)

監視警報

現場警報が免震棟集中監視室に発報されなかったことについては、免震棟集中監視室でも検知できるように見直しを検討中。

この運転上の制限逸脱事象で気になることは、4月21日に窒素ガス分離装置B現場操作盤で警報が発生しており、また4月21日以降、窒素ガス分離装置Bの①窒素濃度及び③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていたにもかかわらず、窒素ガス分離装置(B)またはそのコントローラの異常が認知されたのが4月24日だということです。

東京電力は、今後の対応において、警報の認知については「現場巡視点検を1回以上／日にて実施」とし、パラメータの異常の認知については、免震棟集中監視室において「運転状況のパラメータのトレンドグラフを監視装置に常時表示し確認を実施」としているわけですが、逆に言うと、これまで警報の発生やパラメータの状態が常時モニターされているわけではなかったということになります。

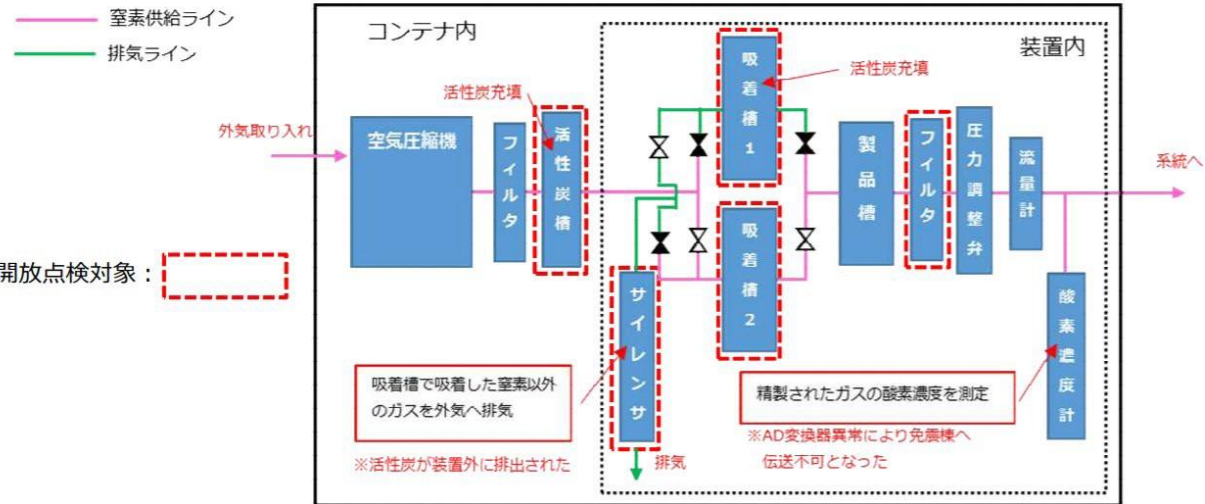
窒素ガス分離装置のT.P.33.5 m盤の高台へ移転、および分離装置A 及びBの取替えは2019年のことであり、このときに上記のような対応がとれなかったものかと思われます。

(次ページに続く)

b 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について(続報)

(窒素分離封入ライン)

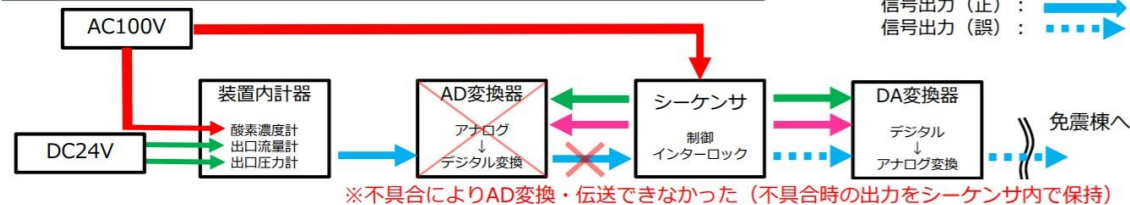
※吸着槽1と2の切替運転(吸着⇔再生)により連続的に窒素供給を行う。



(次ページに続く)

(パラメータ伝送ライン)

当該警報が免震棟集中監視室に発報されない理由
 窒素ガス分離装置の運転停止に関わる警報について、免震棟集中監視室に伝送する設計としていた為、当該警報は免震棟集中監視室に伝送されなかった。



出典: 2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第78回) 資料
 「窒素ガス分離装置(B)指示不良に関する不具合の原因と対策について
 (窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について(続報))」

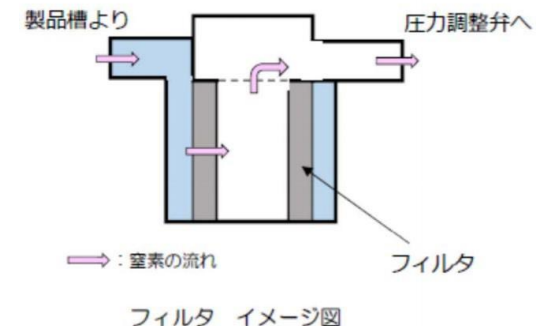
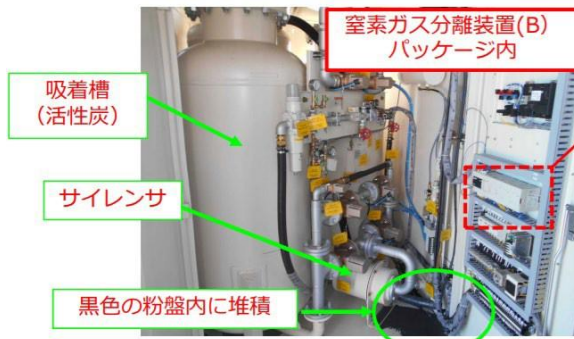
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>

概要に戻る

東京電力の発表による、4月21日～4月24日に窒素ガス分離装置(B)に関連して起きた現象は以下の通りです。

- 1、4月21日以降、窒素ガス分離装置(B)の①窒素濃度及び③出口流量の指示値に通常の変動がなく一定となっていた。
- 2、AD変換器の不具合発生と同時に「FX3U-4AD電源異常」警報が(4月21日2:14発報)が発生していた。
- 3、AD変換器のDC24V電源ランプが消灯していた。
- 4、窒素ガス分離装置(B)本体のパッケージ内部に黒色の粉が飛散し堆積していた。
- 5、装置内の流路を構成する配管・機器の継手部に漏えいの痕跡がなかった。
- 6、AD変換器内のヒューズが開放していた。
- 7、AD変換器上面のスリット部に黒色の粉が堆積されていた。
- 8、吸着槽1の活性炭が減少・細粒化していた。
- 9、出口フィルタの外側に活性炭が付着、内側には付着していなかった。

(次ページに続く)



出典：2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第78回) 資料
「窒素ガス分離装置(B)指示不良に関する不具合の原因と対策について
(窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について(続報))」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>

概要に戻る

そして以上の現象から、事象の原因を以下のように推定しています。

- ① 当該装置の吸着槽1内に充填されていた活性炭が細粒化し、吸着槽の下流側にある装置内のサイレンサから排出されて、当該装置内に活性炭が飛散した。
- ② 飛散した活性炭が当該装置内のAD変換器のスリットから内部に混入したことにより、回路が短絡したことでヒューズが開放し、回路への電源供給が絶たれたため、AD変換の機能が喪失した。AD変換器の不具合により、計器からの信号を変換・伝送できず、不具合発生時の信号がシーケンサに保持された状態となったため、免震棟集中監視室に伝送される指示値が一定になったと考えられる。
- ③ また、AD変換器の不具合による現場警報が免震棟に発報されない設計であったことから、当直員は機器の異常を検知することができなかった。

さらに、窒素分離封入ラインへの影響を以下のように推定しています。

- (1)確認された活性炭はフィルタにより捕集され、フィルタより下流には流入していないことから、窒素封入システムへの影響はなかったと考えられる。
- (2)再現性試験において、装置内酸素濃度計の指示値「0.0%」(窒素濃度100.0%)が確認されたことから、不具合が確認された4月21日から24日の運転期間において、原子炉格納容器へ封入する窒素濃度は99%以上を満足していた状態であり、原子炉格納容器内の不活性雰囲気維持機能は確保されていたと考えられる。

つまり、4月21日から24日までの間、窒素ガス分離装置(B)が機能を維持していたかどうかは、リアルタイムのパラメータがAD変換器の故障により実態を示さなくなったパラメータを含んでいるため、事後の再現性試験による機能確認によって、「原子炉格納容器内の不活性雰囲気維持機能は確保されていたと考えられる」と、間接的な推定しかできないようです。 [続報2に戻る](#)

出典：2020年5月28日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第78回）資料
「窒素ガス分離装置（B）指示不良に関する不具合の原因と対策について
（窒素ガス分離装置（B）指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について（続報）」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/05/3-5-3.pdf>

概要に戻る

C 窒素ガス分離装置(B)指示不良に伴う運転上の制限逸脱及び復帰について (続報2)

2020年7月、東京電力は、これまでレポートしてきた不具合を生じた窒素ガス分離装置(B) 参照 について、下記の点検と対策を実施したことから、窒素ガス分離装置(B)の運転を7月13日再開したと発表しました。(次ページに画像掲載)

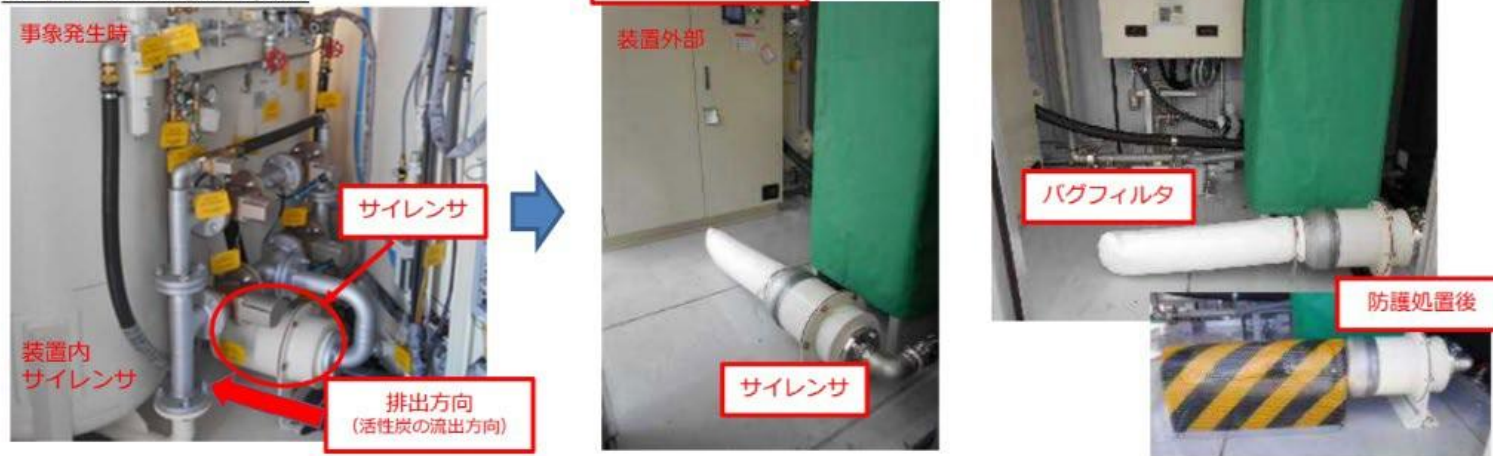
原因	対策	状況
吸着槽の活性炭流出 吸着槽1内に充填されていた活性炭が細粒化し、装置内のサイレンサから排出されて、当該装置内に活性炭が飛散した。	活性炭の 細粒化 が起きないように吸着槽の 緊密化 を行う。 ⇒活性炭の充填高さが変わらなくなるまで、活性炭の充填高さの確認と補充を繰り返し実施する。	窒素ガス分離装置(B)について実施済
活性炭の混入による制御装置の不具合 飛散した活性炭が当該装置内の制御装置内部に混入したことにより、制御装置の機能が喪失した(回路短絡による電源供給喪失)。 ↓ 制御装置の不具合により、計器からの信号を変換・伝送できず、不具合発生時の信号が保持された状態となり、免震棟監視室に伝送される指示値が一定になった。	活性炭細粒化の可能性を完全には否定できないことから、 サイレンサの排気を窒素ガス分離装置の外部に排出 できるよう改造を行う。 (A号機についてもB号機と同一製品であることから同様な対策を実施する)	<ul style="list-style-type: none"> 窒素ガス分離装置(B)について実施済 同型機である窒素ガス分離装置(A)はB号機運転開始後、実施予定 (C号機は設計が異なり、屋外に排気される)
現場警報が免震棟に発報されなかった 制御装置の不具合による現場警報が免震棟に発報されない設計であったことから、当直員は機器の異常を検知することができなかった。 (窒素ガス分離装置の警報のうち、運転停止に関わるものについて、免震棟集中監視室に伝送する設計としていた)	今回の事象を踏まえ窒素ガス分離装置の現場警報について、 免震棟監視室に発報されるよう改造 を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 窒素ガス分離装置(B)について実施済 窒素ガス分離装置(A/C)はB号機運転開始後、実施予定。

- 不具合のあった制御装置について交換を実施。
- 不具合が確認された制御装置以外について、異常は確認されていないが飛散した活性炭の影響が懸念されることから、点検や部品の交換等を実施済。

吸着槽 1 の活性炭の充填状況



サイレンサの設置状況



3

(8) a 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の実施について

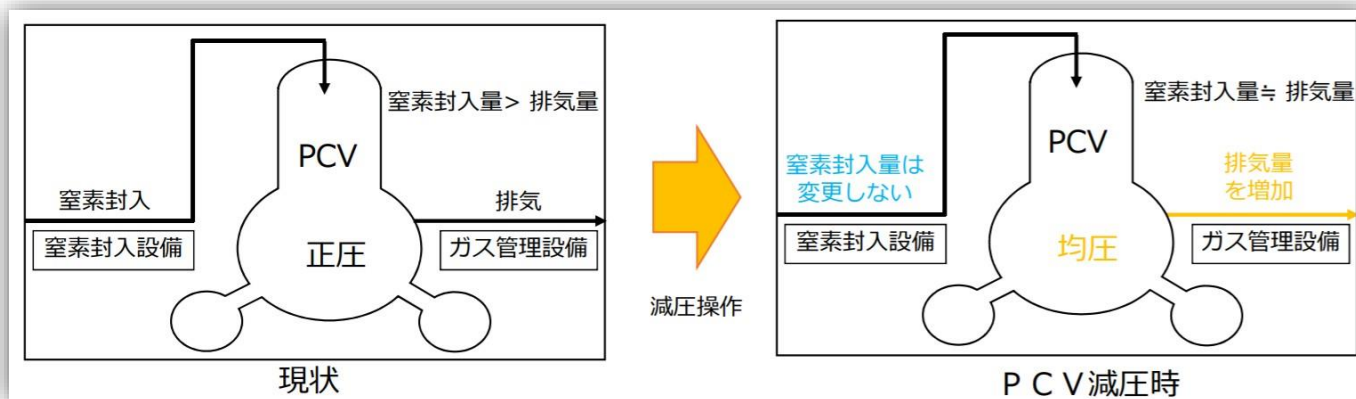
東京電力は2020年7月2日、2021年に予定している2号機での核燃料デブリの試験的取り出し(PCV内部調査)に向け、PCV外への放射性ダストの漏出抑制を目的として、PCVを減圧することを検討していることを発表しました。

東京電力は、イチエフの1～3号機原子炉において、PCV内の減圧により外部への放射性物質の放りリスクを低減させ、またPCV内部調査時におけるPCV内外の遮断(バウンダリ)開放作業等の作業性を向上させるために、2018年7月からの減圧試験を経て、12月1日より、PCVの設定圧力を大気圧+2 kPa程度を中心に、0 kPa～ 5.5 kPaを運用範囲として運用してきました。 参照

ちなみに2020年7月1日の原子炉格納容器圧力は、1号機0.16 kPa g、2号機2.55 kPa g、3号機0.41 kPa gとなっています。

今回は、2020年7月6日～10日に、現状値から大気との均圧まで減圧することを目標として、既設ガス管理設備のフィルタを介した排気量を増加させることで、減圧機能の確認をするということです。

東京電力は、2012年以降、PCV圧力低下と共に一定期間水素濃度の上昇・下降がみられたこと、低気圧通過等によりPCVが負圧となった場合の酸素濃度の上昇評価、2018年度にPCV圧力の調整を約4.25 kPaから約2 kPaに変更した際は、水素濃度等の監視パラメータに有意な変動は確認されていないことなどに留意しつつ減圧計画を進めるようです。



出典：2020年7月2日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第79回）資料「2号機 原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の実施について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/06/3-3-4.pdf>

2020年7月2日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第79回）資料「福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/06/1-1.pdf>

概要に戻る

b 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の結果について

2020年7月30日、東京電力は、2号機原子炉格納容器の減圧機能確認(前ページ参照)について、7/6～7/8に機能確認を実施し、7/9に復旧。減圧機能確認中、下表の監視パラメータに異常がないことを確認したと発表しました。

監視 パラメータ	監視頻度		監視目的	機能確認試験継続の判断基準
	通常時	監視 確認時		
窒素封入量	6時間	毎時	・ガス管理設備の運転状態変化に伴う、系統・機器の異常がないことを確認	・通常の変動範囲(±1Nm ³ /h程度)であること(封入量の異常検知)
排気流量				・通常の変動範囲(±2Nm ³ /h程度)であること(排気流量の異常検知)
PCV圧力			・PCV圧力の過度な変動等が生じないことを確認	・±5.5kPaであること
水素濃度※			・PCVの不活性状態維持(可燃限界未滿に抑えること)	・警報設定値(0.6%)
酸素濃度				・3.5%以下であること
ダスト濃度			・PCV圧力の変化に伴う排気に有意な変動が生じないことを確認。	・警報設定値(2.0×10 ⁻³ Bq/cm ³)
大気圧	毎時	・PCV圧力変動の参考として監視。	・なし	

※運転上の制限に関わる監視項目として、水素濃度(PCV内 2.5%未滿, ガス管理設備出口を1%未滿で管理)があり、減圧によるPCV内部状況の変化は小さく、影響は限定的と想定。

(9) 2号機新設原子炉压力容器(RPV)窒素封入ライン通気確認について

東京電力は、2号機原子炉压力容器窒素封入点は、単一構成となっているため、窒素封入ラインの信頼性向上としてRPV窒素封入ラインの追加設置を計画しています。

この計画に向けて、2020年8月31日～9月4日ににかけて、窒素封入の通気性・保守性等を考慮した追加設置ラインの選定のため、新規封入点の候補となるライン(4ライン)の通気確認を行います。

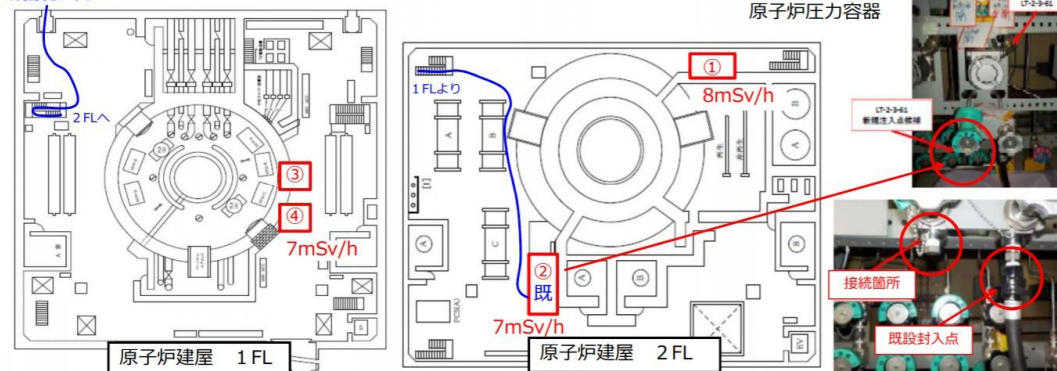
なお、通気確認は既設のRPV窒素封入量及び原子炉格納容器(PCV)ガス管理設備排気流量は変化させずに実施する予定です。

2. 調査対象 (新規封入候補点配置図)

新規封入点RPVからPCVへの窒素の拡散性や作業性等を考慮して、右図の4箇所のノズルにつながる計装ラック選定。これらについて、通気確認を行う。

- ① 原子炉計装ラック (原子炉水位計等) 【N11B】
 - ② 原子炉計装ラック (原子炉水位計等) 【N11A】
 - ③ 主蒸気計装ラック 【N3D】
 - ④ ジェットポンプ計装ラック 【N8B】
- ※既設 原子炉計装ラック (原子炉水位計等)

既設ライン



出典：2020年8月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議 (第81回) 資料
「2号機新設RPV窒素封入ライン通気確認について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/08/3-5-3.pdf>

概要に戻る

(10) 1号機 原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)撤去について

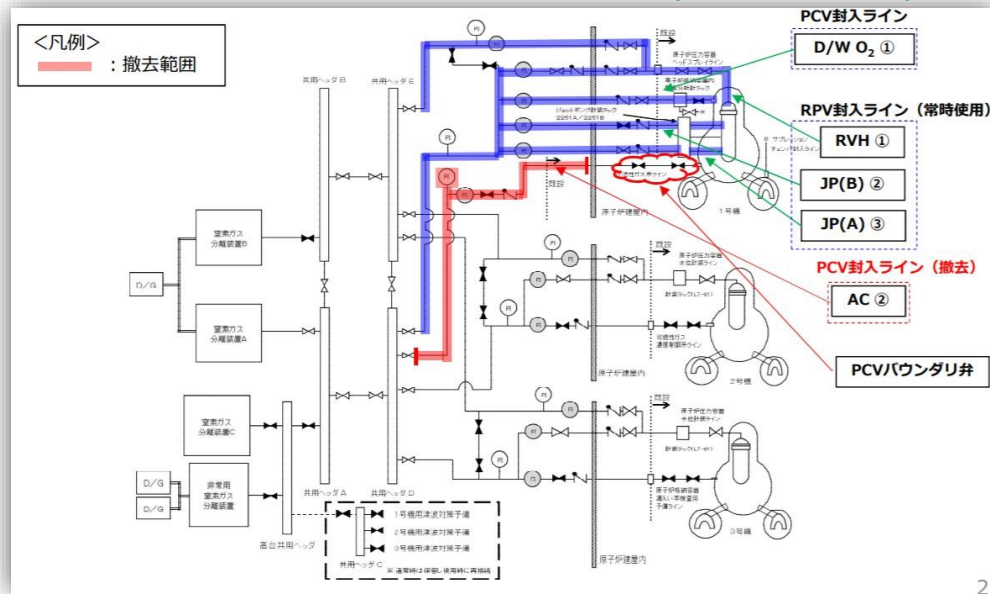
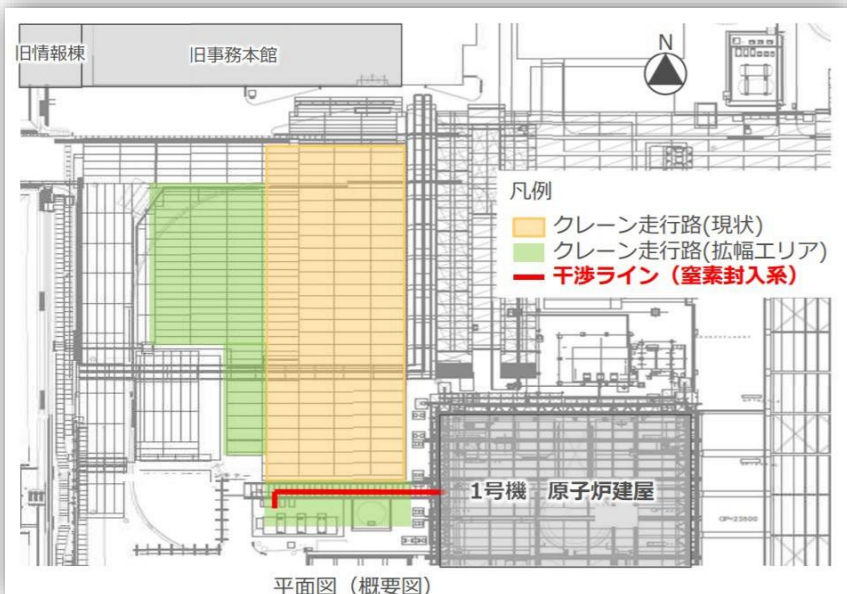
1号機原子炉建屋は、現行ロードマップでは2027年に開始される予定の使用済み核燃料プールからの使用済み核燃料の取り出しについて、2019年12月、ダスト飛散対策の信頼性向上の観点から2023年中に大型建屋カバーを再設置する工法に変更しています。

東京電力は、大型カバー設置に向けて、使用する大型クレーンの走行路の拡幅(ヤード整備)を計画し、この拡幅の妨げになる1号機原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)を撤去する計画を発表しました(下左図参照)。

今回撤去するのは、予備封入ラインの一つである不活性ガス系封入ライン(AC系)ですが、原子炉格納容器への窒素封入機能は、他のラインにより維持されます(下右図参照)。

配管切断および閉止作業は準備も含め、2020年11月17日～27日に行われる計画です。

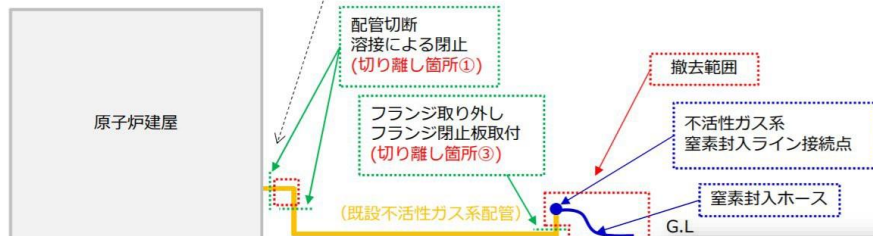
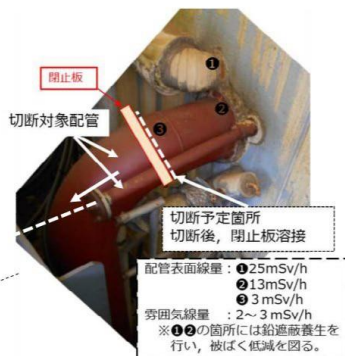
(次ページに続く)



出典：2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議(第84回)資料
 「福島第一原子力発電所1号機 原子炉格納容器窒素封入ライン(不活性ガス系)撤去について」
<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-2.pdf>

概要に戻る

切断配管	不活性ガス系配管 (14B-AC-2, 2B-AC-4) 配管材質: STPG410
切断箇所	右写真の破線部 (予定)
切断方法	エンジンカッターにて切断
閉止板材料	炭素鋼 (配管と同材) の閉止板
閉止板取付	溶接
検査方法	PT検査 (溶接部)
仕上げ	錆止め塗装



リスク	対応
弁のバウンダリ機能喪失 <ul style="list-style-type: none"> PCVからの逆流 (PCV圧力の低下) 水素の滞留 	配管内圧の確認 <ul style="list-style-type: none"> 撤去対象ラインの空きフランジに仮設圧力計を取付け、配管内の圧力を確認した。N2封入時の圧力 (11.3kPa) が確認されたことから弁のバウンダリ機能は正常。PCVからの逆流はなく、配管内に水素の滞留はないと推定。 ※配管内圧確認時のPCV圧力: 約0.10kPa 念のため、配管内圧開放後、配管切断前に小口径の穴を開けて水素濃度を測定してから切断作業を開始する。
ダストの拡散	配管内包気体の汚染確認 <ul style="list-style-type: none"> 配管内に残圧があることから、切り離し前に空きフランジにフィルタを取付けた仮設ラインを設け、フィルタを通して圧抜きを実施する。また、フィルタの線量を測定し、汚染の有無を確認する。(合わせて水素濃度・PCV圧力の挙動も確認する) 配管切断時ダスト拡散対策 <ul style="list-style-type: none"> 仮設ハウス及び局所排風機・フィルタを設置し、環境へのダスト拡散防止対策を実施する。

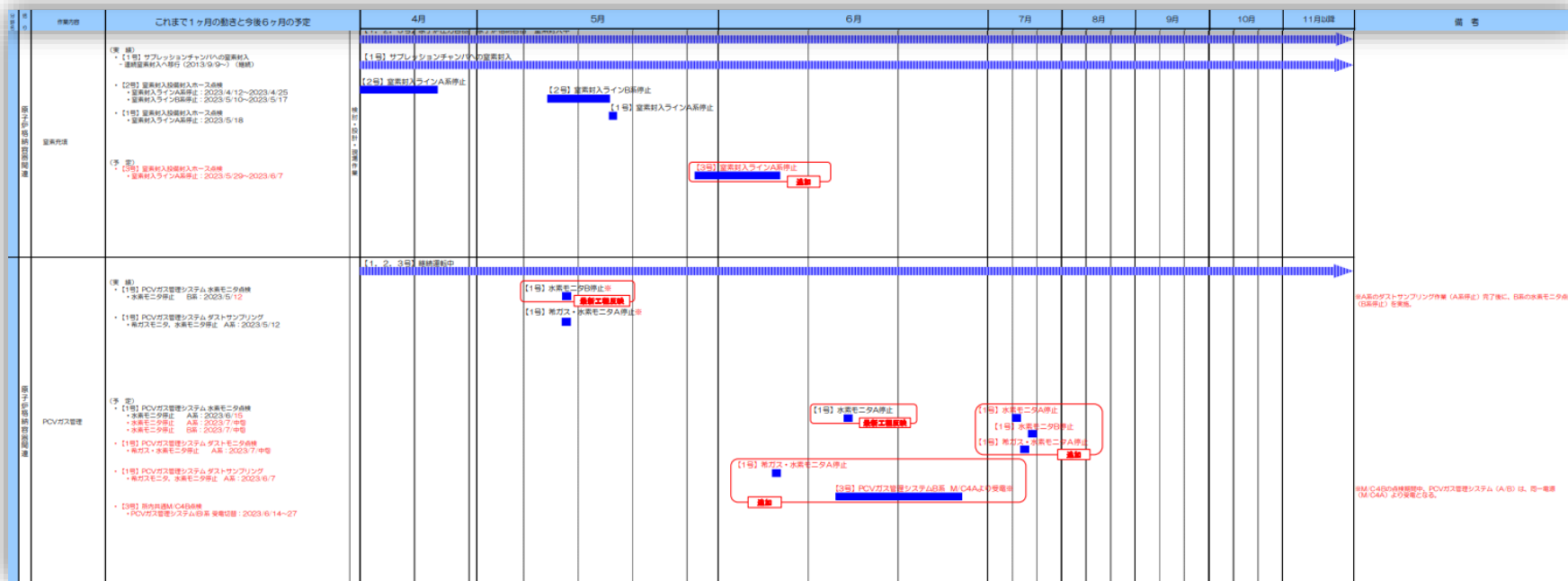
出典: 2020年11月26日 廃炉・汚染水対策チーム会合/事務局会議 (第84回) 資料
「福島第一原子力発電所1号機 原子炉格納容器窒素封入ライン (不活性ガス系) 撤去について」

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2020/11/3-5-2.pdf>

概要に戻る

(11) 原子力格納容器ガス管理設備スケジュール

(更新)



6 東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について(1)

3号機の温度計ケーブルに溶断が見つかっています。

2017年11月の「核燃料デブリの取り出し準備」レポート88・89ページでレポートしたとおり、3号機格納容器内部調査により、これまで3号機原子炉圧力容器底部の温度を測っていたとされていた温度計12本(このうち3本は「実施計画」において運転上の制限からの逸脱を監視するために用いられていた)のケーブルが溶断していたことが明らかになり、11月30日、東京電力はこれらの温度計を故障と判断し、原子力規制委員会にもその旨報告しました。

しかしこれらの温度計は11月まで故障とはされておらず、原子力規制委員会に11月に提出した温度計の信頼性評価の報告書においても、「監視に使用可」と評価されていました(下記出典3の9ページ、TE-2-3-69L1からL3の3本)。

また、東京電力のホームページ上の「プラント関連パラメータ(水位・圧力・温度など)」においても11月29日分までは、これらの温度計で測定したとされる温度が原子炉圧力容器底部の温度として公表されていました。

出典：1F-Watcher「月例レポート 2017年11月燃料デブリの取り出し準備」
<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2017/12/201711-05-debris4.pdf>
2017年11月30日東京電力資料

「福島第一原子力発電所3号機原子炉格納容器(PCV)内部調査における一部の原子炉圧力容器(RPV)温度計ケーブル欠損について」
http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2017/images2/handouts_171130_03-j.pdf

「福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について(平成29年12月提出)」
<http://www.tepco.co.jp/press/release/2017/pdf2/171201j0201.pdf>

「福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について(平成29年11月提出)」
<http://www.tepco.co.jp/press/release/2017/pdf2/171101j0201.pdf>

東京電力ホームページ「プラント関連パラメータ(水位・圧力・温度など)」
<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/pla/index-j.html>

東京電力が発表してきた原子炉の状態を表すデータの信頼性について(2)

このことについて、12月18日の東京電力原子力定例記者会見において、木元原子力立地本部長代理は、目視できない原子炉内の温度計の健全性を確認する方法は、現在のところ、温度計に直流電気を流しその抵抗値を測定する(故障していれば抵抗値は無限大になる)方法しかないが、今回故障と判断した12本の温度計について12月13日に改めて測定したところでも、抵抗値は前回測定した値と同等の値を示していた。現在はこれらの温度計が示すデータが何を表しているかについてそれ以上の知見はないと語っていません(出典の動画の26分過ぎから36分過ぎまで)。

原子炉の状態そのものについては、木元氏が語る通り、他の温度計・ガス管理システム等、他のパラメータから、冷温停止状態にあることは間違いないところではあると思われれます。

しかし、これまで毎月、信頼性を確認したとし、公表してきたデータが、東京電力自身が今回故障していたと判断した温度計で測定したデータであったことは、東京電力が公表してきたデータの信頼性を損なうものです。

温度計のケーブルの溶断という事実と、それにもかかわらずデータが採れてしまっていることの機序を明らかにするとともに、温度計の信頼性を確認する方法を再検討し、データの信頼性を回復することが東京電力に求められます。

7 原子炉建屋から新たに放出された放射性物質量の評価についての考察

東京電力は、2018年10月25日、第59回廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議において提出した下記出典資料
「廃炉・汚染水対策の概要」

の

4ページ「2. 原子炉建屋からの放射性物質の放出」

において、

1～4号機原子炉建屋から新たに放出される放射性物質による、敷地境界における空气中放射性物質濃度は、Cs-134 約 1.4×10^{-11} ベクレル/cm³ 及び Cs-137 約 1.1×10^{-10} ベクレル/cm³ と評価。放出された放射性物質による敷地境界上の被ばく線量は 0.0011 mSv/年未満と評価。(筆者注: 評価値は【放出量＝放射性物質濃度 × 排気風量】を基本とする評価式に各種データ、パラメータを代入して計算した推定値)

と発表しました。

9月の敷地境界における空气中放射性物質濃度と敷地境界上の被ばく線量の評価値について、8月の評価値からの増加を見てみましょう。

	(8月)	→	(9月)
Cs-134(単位ベクレル/cm ³)	5.4×10^{-12}	→	1.4×10^{-11}
Cs-137(単位ベクレル/cm ³)	3.1×10^{-11}	→	1.1×10^{-10}
被ばく線量	0.00045 mSv/年未満	→	0.0011 mSv/年未満

そして、このことについて、

- ・2018年9月の評価上の放出量は、放出管理の目標値(筆者注:1 mSv/y)を十分下回ったが、前月と比較すると増加。
- ・これは2号機原子炉建屋オペフロ残置物撤去作業に伴い、オペフロ内の空気中放射性物質濃度が上昇したことで、**評価上の放出量が増加したもの**

と解説し、さらに

- ・(筆者注:評価のための式は)過小評価となることを避けるため、建屋内の空気中の放射性物質濃度ならびに排気風量に保守的な条件を仮定して評価していることから、実際の放出量は評価値より小さくなる。
 - ・また、当該作業中の2号機原子炉建屋開口部近傍(西側構台)のダストモニタならびにモニタリングポストには有意な変動はなく、周辺への影響はない。
 - ・今後、放出量評価を実際の値に近づけるため、建屋からの排気風量評価値を低減する対策として、10月中に原子炉建屋の開口部の一つである二重扉をシート養生し、開口部面積を低減する。
- また、対策実施済の西側前室、ブローアウトパネルの隙間の開口部面積についても見直した上で評価を行う。

と説明を加えています。

なお、この記述は、同回の会議だけに提出された資料

「1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2018年9月分(放出量評価の補足)」

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/11/3-6-4.pdf>

をまとめたものようです。

ここでは、[前ページ](#)での東京電力の説明のうち、

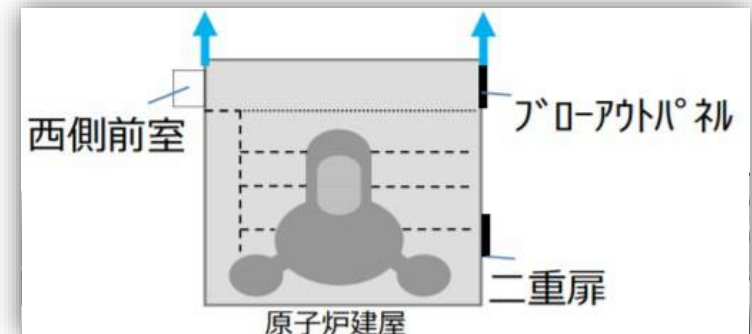
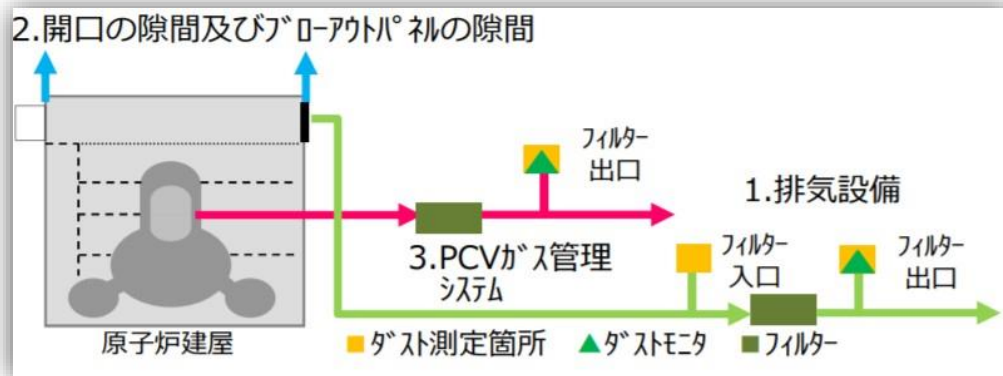
・(補注: 評価のための式は) 過小評価となることを避けるため、建屋内の空気中の放射性物質濃度ならびに排気風量に保守的な条件を仮定して評価していることから、実際の放出量は評価値より小さくなる。

・今後、放出量評価を実際の値に近づけるため、建屋からの排気風量評価値を低減する対策として、10月中旬に原子炉建屋の開口部の一つである二重扉をシート養生し、開口部面積を低減する。

また、対策実施済の西側前室、ブローアウトパネルの隙間の開口部面積についても見直した上で評価を行う。

という部分の、開口部面積を低減することによって評価放出量が減少するかどうかということについて、東京電力が発表した8～10月の2号機オペレーティングフロア作業時の放射性ダスト濃度と原子炉建屋の開口の隙間及びブローアウトパネルの隙間(下図参照⇒2019年1月17日に福島第一廃炉カンパニーの社員の方に確認したところ、下図のブルーの上向きの矢印は、左側が西側前室の開口の隙間からの放出を、右側が元のブローアウトパネル部からのフィルターを備えた排気設備への放出を示しているそうです)の評価放出量のデータを検討します。

まずこれらの数値をプロットした次ページのグラフをご覧ください。



原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果 (2018年8月)

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/10/3-6-3.pdf>

原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果 (2018年9月)

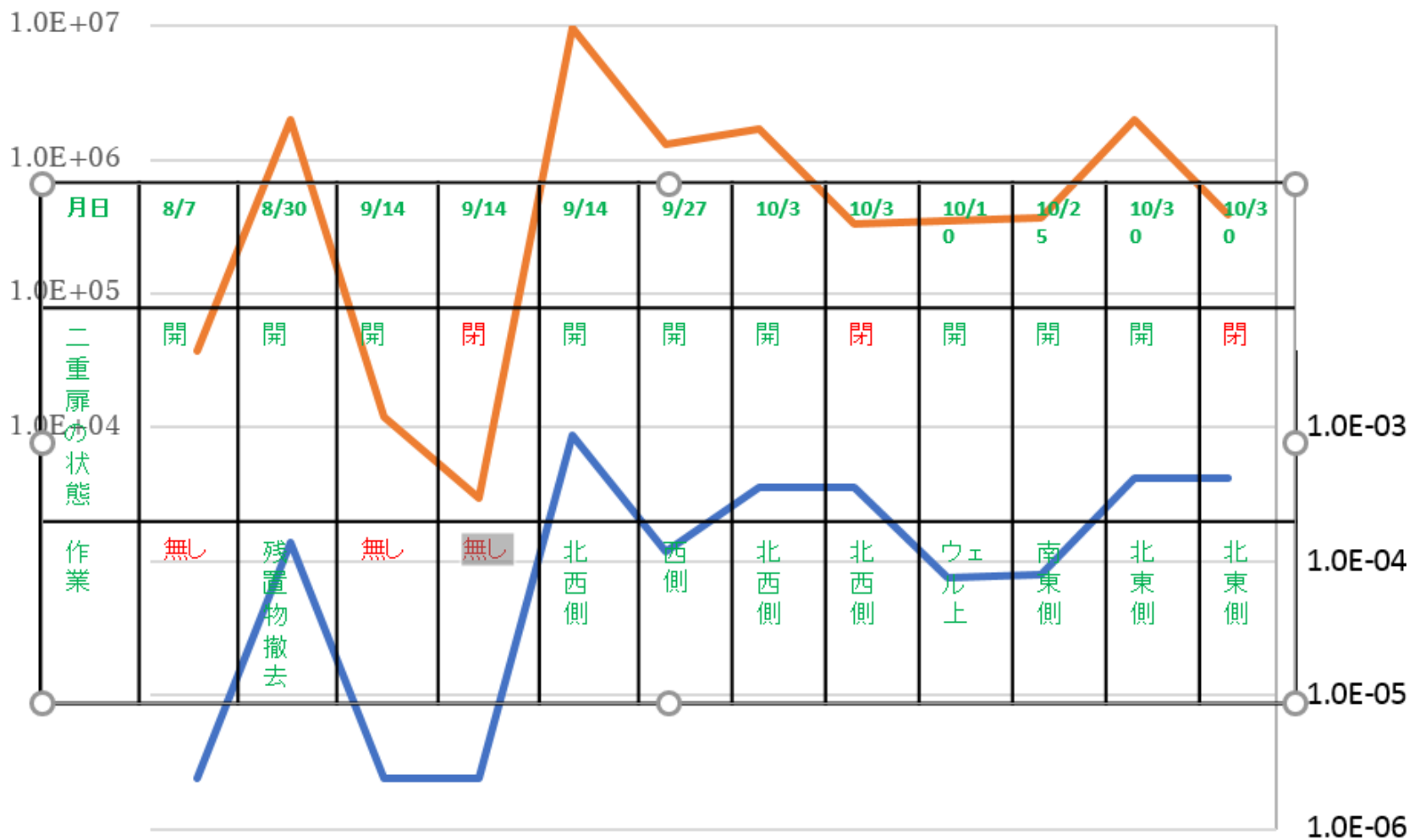
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/11/3-6-3.pdf>

1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2018年10月評価分 (詳細データ)

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/12/3-6-3-2.pdf>

概要に戻る

ダスト測定値、パラメーターおよび評価放出量との関係



— 評価放出量 Cs137 単位Bq/時未満)
 — ダスト測定値Cs137 (単位Bq/cm³)

[概要に戻る](#)

グラフの青い折れ線は測定されたダスト濃度、オレンジ色の折れ線は評価放出量です。

重ね合わせた3段12列の表は上から、ダスト濃度が測定された日時、開口部である二重扉(前々ページの下右図をご覧ください)の開閉状態、オペレーティングフロア上での作業の有無です。

この問題では、

左から3列目(9/14、二重扉は開いている、作業はなかった)と4列目(9/14、**二重扉は閉じている**、作業はなかった)、7列目(10/3、二重扉は開いている、北西側作業)と8列目(10/3、**二重扉は閉じている**、北西側作業)、11列目(10/30、二重扉は開いている、北東側作業)と12列目(10/30、**二重扉は閉じている**、北東側作業)をご覧ください。

いずれも、測定されたダスト濃度は変わらないにもかかわらず、二重扉を閉めることで評価放出量は減少しています。前々ページに示した東京電力の説明、開口部面積を低減することによって評価放出量が減少することは確かなようです。

なお、2018年10月のレポート以来考察してきた、2号機オペレーティングフロア上での残置物撤去作業にともなう敷地境界における空气中放射性物質濃度と敷地境界上の被ばく線量の評価値の上昇についての、東京電力の「**評価上の放出量が増加した**」という表現の妥当性については、「使用済み核燃料プール対策レポート」で考察しています。

8 東京電力が発表したイチエフ内のインシデント・事故情報(更新)

5月16日 [【濃縮廃液の貯蔵容量の報告誤りについて】](#) 当社社員が、「[高濃度滞留水処理・貯蔵状況 第599報](#)」の作成時に、「[高濃度滞留水処理・貯蔵状況 第598報](#)」（ホームページで公開されている）で報告されている濃縮廃液の貯蔵容量の誤りを確認。原因は、第598報から貯蔵容量の集計において、集計表に新設タンクの欄を追加したものの、集計範囲を変更していなかったことによるもの。なお、実際の貯蔵容量の管理状況に誤りはなく、濃縮廃液の貯蔵状況に影響なし。当該第598報の濃縮廃液の貯蔵容量は訂正済み。今後、再発防止対策を検討。（不適合公表グレードII 発見日5月10日）

(次ページに続く)

9 イチエフに関する報道【廃炉作業】

(更新)

今月中区分:/未分類

2023年5月、[47NEWS原発問題サイト](#)にイチエフの廃炉作業に関する記事はありませんでした。

9イチェフに関する報道【イチェフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチェフ事故の記録・検証/賠償/未分類

<避難指示解除>

- 2023.05.01 福島民友新聞 [飯舘・長泥の復興拠点、きょう避難指示解除 拠点外の公園用地も](#)
- 2023.05.01 福島民報 [復興拠点外の自宅跡、公園に提供 避難解除の福島県飯舘村長泥 杉下定男さん「避難解除拡大の後押しに」](#)
- 2023.05.01 共同通信 [福島・飯舘村の一部で避難解除 居住再開のハードル高く](#)
- 2023.05.02 河北新報 [福島・飯舘の復興拠点 避難全解除](#)
- 2023.05.02 福島民友新聞 [飯舘、避難指示解除 復興拠点外は初、福島県内全拠点が完了](#)
- 2023.05.02 福島民報 [福島県飯舘村の長泥行政区避難解除 復興拠点、福島県内全て完了 曲田公園も](#)
- 2023.05.03 福島民友新聞 [心一つ...避難指示解除翌日に祭り 飯舘・長泥住民「復興へ歩む」](#)
- 2023.05.06 福島民報 [避難指示解除の地域で田植え 福島県浪江町](#)
- 2023.05.10 神奈川新聞 [福島の避難指示解除エリア 家庭ごみの処分先など計画なく](#)
- 2023.05.10 共同通信 [復興拠点外に帰還希望23% 福島2町、除染範囲を検討へ](#)
- 2023.05.11 福島民友新聞 [大熊、双葉の帰還希望2割 復興拠点外住民調査、解除範囲検討へ](#)

<韓国>

- 2023.05.07 共同通信 [【速報】福島処理水巡る韓国専門家の現地派遣で合意](#)

[概要に戻る](#)

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

< 韓国 [続き](#) >

2023.05.07	共同通信	韓国の視察団、23日派遣 福島処理水、懸念払拭へ
2023.05.09	福島民友新聞	内堀知事「国は正確な情報発信を」 韓国の処理水視察計画巡り
2023.05.11	共同通信	処理水、12日に日韓局長級会議 ソウルで開催
2023.05.11	共同通信	韓国、処理水呼称で賛否 「汚染」見直し報道も
2023.05.12	共同通信	原発の処理水視察で日韓協議 「安全性全般を検討」
2023.05.13	共同通信	処理水視察、4日間実施へ 日韓局長級協議で合意
2023.05.20	共同通信	処理水放出に反対集会 韓国、野党が尹政権批判
2023.05.19	共同通信	韓国の福島視察団、21日に訪日 処理水、放射線専門家ら21人
2023.05.20	福島民友新聞	韓国の処理水視察団、あす来日 福島第1原発も訪問へ
2023.05.20	共同通信	G7で福島食材使用、韓国で物議 「尹氏の対応、難しい」と指摘も
2023.05.21	共同通信	韓国の処理水視察団が来日 福島で設備稼働状況を確認
2023.05.22	共同通信	韓国、福島第1原発を23日視察 処理水放出で専門家ら
2023.05.21	共同通信	【速報】処理水「科学的根拠に基づき確認」と視察団
2023.05.23	共同通信	韓国専門家らが現地視察 福島第1原発、処理水で
2023.05.24	福島民友新聞	処理水設備を韓国側視察 福島第1原発、ALPSや濃度測定確認
2023.05.25	福島民友新聞	韓国専門家、海洋放出関連施設...遮断弁集中的に視察 第1原発
2023.05.26	福島民友新聞	韓国側、処理水の評価公開へ 第1原発視察 請求資料の確認後に
2023.05.26	共同通信	韓国の処理水視察団が帰国 国内で反対署名運動も
2023.05.31	北海道新聞	「技術的検討で進展」 福島第1処理水、韓国視察団が結果発表

[概要に戻る](#)

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

< ALPS処理水の海洋放出 >

-
- | | | |
|------------|--------|--|
| 2023.05.09 | 福島民報 | サーフィン人口増 福島県内 安定した波で人気 処理水の海洋放出 風評懸念 |
| 2023.05.11 | 福島民友新聞 | 処理水測定計画を認可 原子力規制委、海洋放出前29核種で判断 |
| 2023.05.12 | 福島民報 | 風評対策へ対策徹底を 東北市長会が特別決議採択 処理水放出巡り政府に要望へ |
| 2023.05.15 | 福島民友新聞 | 「避けて通れぬ課題」 処理水放出で菅前首相 |
| 2023.05.15 | 福島民友新聞 | 「漁業者に直接説明」 経産相、処理水放出巡り |
| 2023.05.17 | 東京新聞 | 処理汚染水海洋放出、工事が来月終了 東電「漁業者の理解へ努力を続ける」 福島第一原発公開 開始時期は明言せず |
| 2023.05.19 | 福島民友新聞 | 福島県漁連、国に改めて風評懸念を伝達 処理水海洋放出方針巡り |
| 2023.05.19 | 福島民友新聞 | 処理水の海洋放出停止で基準、東電 半径3キロ以内700ベクレル |
| 2023.05.20 | 共同通信 | 【速報】G7、処理水海洋放出のIAEA検証を支持 |
| 2023.05.23 | 共同通信 | 中国、放出でIAEAに対応要求 処理水巡り、北京で会談 |
| 2023.05.26 | 福島民友新聞 | 漁業者、処理水放出で不安の声 いわきで政府、東電と意見交換会 |
| 2023.05.26 | 福島民報 | 原発事故の処理水海洋放出 不安と不満の声相次ぐ 福島県漁連と国、東電が意見交換 いわき市 |
| 2023.05.27 | 福島民友新聞 | 処理水の海洋放出、最終検証へ IAEA調査団、29日に来日 |
| 2023.05.29 | 共同通信 | 福島処理水放出、総括検証を開始 IAEA調査団、2日まで |
| 2023.05.31 | 共同通信 | 東電の放射性物質測定評価 IAEA、処理水で報告 |
-

[概要に戻る](#)

9イチェフに関する報道【イチェフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチェフ事故の記録・検証/賠償/未分類

<福島県の漁業>

- 2023.05.15 福島民報 [家族連れ、アユの稚魚放流 福島県浪江町の請戸川 地元漁協が震災後初の体験会](#)
- 2023.05.16 福島民報 [漁業復興の旗手に 高級魚「ホシガレイ」の稚魚4万匹を放流 福島県が請戸漁港で](#)
- 2023.05.17 福島民友新聞 [福島県沖の水揚げ量14%増 移行操業2年目、3漁協で38.9億円](#)
- 2023.05.23 福島民友新聞 [宮城沖で9月操業再開 相双漁協の沖合底引き網船、原発事故後初](#)
- 2023.05.24 河北新報 [福島の底引き網漁船、宮城沖での操業9月再開 原発事故後初](#)
- 2023.05.24 福島民友新聞 [水揚げ震災前7割目標 相双漁協・沖底船、宮城沖で操業再開へ](#)
- 2023.05.24 福島民報 [日本港湾協会の総会、福島県内で初開催 復興状況などアピール いわきに900人集う](#)
- 2023.05.29 共同通信 [カツオ初水揚げ、福島・いわき 中型中心の100トン、港に活気](#)

<イチェフ事故の記録・検証>

- 2023.05.04 河北新報 [3・11夜の災害策本部を再現 福島・富岡で企画展 当時の資料使いリアルに](#)
- 2023.05.05 福島民友新聞 [高橋3兄弟が作品集 四季や故郷、俳句や短歌「震災風化させない」](#)
- 2023.05.07 沖縄タイムス [足の親指の骨「汐凧だと思ふ」 福島原発の地元・大熊町 震災で子をなくした父ら70人が遺骨捜索](#)
- 2023.05.10 福島民友新聞 [高校生を震災「語り人」に 富岡NPO、県内巡るグループ結成へ](#)

概要に戻る

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】 (更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

< イチエフ事故の記録・検証 [続き](#) >

- 2023.05.12 共同通信 [福島第一原発事故からの7日間を描くNetflixシリーズ『THE DAYS』予告映像は衝撃のシーンの連続](#)
- 2023.05.16 福島民友新聞 [避難の記憶つなぐ...初公演は朗読劇 富岡、有志ら劇団結成し発信](#)
- 2023.05.20 福島民報 [創立100年記念式典へ母校訪問 福島県双葉町 双葉高同窓会が資料収集](#)
- 2023.05.20 共同通信 [役所広司、福島第一原発事故を伝えるドラマ『THE DAYS』俳優にできることは「体重を落とすことくらい」](#)
- 2023.05.20 福島民報 [福島県の高校生による「語り人\(かたりべ\)キャラバン隊」今夏にも結成 NPO法人富岡町3・1 1を語る会](#)
- 2023.05.20 福島民報 [小高教会幼稚園に同窓会が設立 震災と原発事故で休園 園舎保存などに取り組む 福島県南相馬市小高区](#)
- 2023.05.22 福島民報 [避難経験を伝える福島県富岡町の町民劇団「ホーム」がスタート 10月に福島市で初公演](#)
- 2023.05.25 福島民友新聞 [復興の歩みを特集...浪江町・富岡町パネル展、原子力災害伝承館](#)
- 2023.05.27 共同通信 [「古里を忘れること、受け入れてもいいかな」震災から12年、当時小学5年生だった男性は語り部の活動を離れた](#)
- 2023.05.30 共同通信 [役所広司、福島第一原発事故描く作品に躊躇「ドラマにしているのか」プロデューサーの思いに決心](#)

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

< イチエフ事故の記録・検証 [続き](#) >

-
- 2023.05.30 共同通信 [石田ゆり子「とてもつらいことだけど、勇気のあること」 福島第一原発事故描くドラマ出演への思い語る](#)
- 2023.05.30 福島民報 [震災後の福島県が舞台のアニメ映画「とんがり頭のごん太」 上海国際映画祭でノミネート](#)
- 2023.05.31 福島民友新聞 [役所広司さん「原発事故伝える」 ネットドラマ、6月から配信開始](#)
-

< 賠償 >

-
- 2023.05.08 共同通信 [東電、事故賠償の特別負担ゼロ 福島第1原発、赤字で10年ぶり](#)
- 2023.05.09 新潟日報 [東京電力の福島第1原発事故賠償、10年ぶり特別負担ゼロ 燃料高騰などで赤字、国民負担膨張の恐れも](#)
- 2023.05.12 福島民友新聞 [東電賠償詐取疑い、福島の男2人逮捕 被害額は計1000万円超](#)
- 2023.05.23 神戸新聞 [被ばくから子を守り、避難する権利認めて 福島原発事故損害賠償関西訴訟、証言台に立つ女性の思い](#)
- 2023.05.25 福島民友新聞 [郡山市、東電から賠償金14億円 事故対応専任部署の人件費増加分](#)
-

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

<未分類>

- 2023.05.03 河北新報 [埼玉の女性が福島・双葉に移住「電気送ってくれた地」原発立地の町で新生活](#)
- 2023.05.03 福島民報 [農家に転身、ブルーベリー農園開く 福島県いわき市の渡辺充彦さん カフェも併設し観光振興](#)
- [へ](#)
- 2023.05.04 福島民友新聞 [浪江の特産品、米・ロスで展示へ 風評払拭へ大堀相馬焼や日本酒](#)
- 2023.05.04 福島民友新聞 [陶吉郎窯「登り窯焼成」一般公開 いわきに拠点、大堀相馬焼継承](#)
- 2023.05.04 福島民友新聞 [浜通りの海の魅力を写真で 7日までいわきで作品展](#)
- 2023.05.06 福島民報 [【ふくしま創生 挑戦者の流儀】エコロニューム\(南会津町\)副社長・星博文\(下\)「地域に貢献」](#)
- [思い貫く](#)
- 2023.05.07 河北新報 [原発事故で住民が離散しても…みこしがつなぐ古里の絆 福島・双葉](#)
- 2023.05.07 福島民報 [13年ぶり地元の小高区で演奏会 福島県南相馬市の吉津さんピアノ教室 困難乗り越え](#)
- 2023.05.09 福島民友新聞 [富岡に「復興旅行窓口」開所 態勢強化、現地案内や視察先開拓](#)
- 2023.05.09 福島民報 [ホープツーリズム受け入れ強化へ 福島県富岡町にサポートセンター](#)
- 2023.05.10 東京新聞 [所沢の市民団体、除染土再利用で環境省に反対署名提出](#)
- 2023.05.10 福島民友新聞 [除染土利用農地をIAEA初視察 飯舘・長泥地区、環境省に助言へ](#)
- 2023.05.10 福島民友新聞 [特措法改正案を可決 衆院復興委、拠点外帰還へ5年内にも成立](#)

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

<未分類 [続き](#)>

-
- | | | |
|------------|--------|--|
| 2023.05.10 | 福島民報 | 【鉄路と生きる】鉄道で復興ツーリズム 7月団体設立 東北の魅力提案 JR東、自治体などと連携 |
| 2023.05.12 | 福島民友新聞 | 【守り手の現在地・被災地と県警<2>】今を刻む、新たな地図に |
| 2023.05.12 | 共同通信 | IAEA「国民の信頼醸成を」 福島原発事故、除染土再利用で |
| 2023.05.13 | 福島民友新聞 | 農業存続へモデル実証 福島県と福島大食農学類 |
| 2023.05.13 | 福島民友新聞 | 【守り手の現在地・被災地と県警<3>】「復興のため」使命胸に |
| 2023.05.13 | 福島民報 | 「つなぐ、」がテーマ JR常磐線沿線の舞台芸術祭、7月31日～8月13日 柳美里さんらが抱負 |
| 2023.05.13 | 福島民報 | 福島県大熊町熊地区の復興拠点 コメの実証栽培開始 2025年度の営農再開を目指す |
| 2023.05.13 | 福島民報 | 除染土の再生利用 安全性を評価へ IAEA、技術的課題も議論 |
| 2023.05.15 | 福島民友新聞 | 野馬追の騎馬武者、都心を練り歩く 4年ぶり神田祭に参加 |
| 2023.05.15 | 下野新聞 | 【指定廃棄物の行方】大田原市の指定廃棄物 県浄化センターに暫定集約 |
| 2023.05.16 | 福島民報 | 観光再生へ3テーマ 恵み 伝統 日常 コロナ禍克服図る 9月から福島県内キャンペーン |
| 2023.05.16 | 福島民報 | 深紅のじゅうたん、クリームゾンクローバーが見頃 福島県葛尾村 復興のシンボル |
| 2023.05.17 | 福島民報 | 福島県の復興状況や魅力を発信 復興庁、G7広島サミットの取材拠点で18日から |
| 2023.05.17 | 福島民報 | 7月下旬、バウムクーヘン工房が誕生 福島県富岡町夜の森地区 にぎわい再生へ「新しい特産品に」 |

[概要に戻る](#)

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

<未分類 [続き](#)>

-
- | | | |
|------------|--------|--|
| 2023.05.10 | 福島民報 | 【鉄路と生きる】鉄道で復興ツーリズム 7月団体設立 東北の魅力提案 JR東、自治体などと連携 |
| 2023.05.12 | 福島民友新聞 | 【守り手の現在地・被災地と県警<2>】今を刻む、新たな地図に |
| 2023.05.12 | 共同通信 | IAEA「国民の信頼醸成を」 福島原発事故、除染土再利用で |
| 2023.05.13 | 福島民友新聞 | 農業存続へモデル実証 福島県と福島大食農学類 |
| 2023.05.13 | 福島民友新聞 | 【守り手の現在地・被災地と県警<3>】「復興のため」使命胸に |
| 2023.05.13 | 福島民報 | 「つなぐ、」がテーマ JR常磐線沿線の舞台芸術祭、7月31日～8月13日 柳美里さんらが抱負 |
| 2023.05.13 | 福島民報 | 福島県大熊町熊地区の復興拠点 コメの実証栽培開始 2025年度の営農再開を目指す |
| 2023.05.13 | 福島民報 | 除染土の再生利用 安全性を評価へ IAEA、技術的課題も議論 |
| 2023.05.15 | 福島民友新聞 | 野馬追の騎馬武者、都心を練り歩く 4年ぶり神田祭に参加 |
| 2023.05.15 | 下野新聞 | 【指定廃棄物の行方】大田原市の指定廃棄物 県浄化センターに暫定集約 |
| 2023.05.16 | 福島民報 | 観光再生へ3テーマ 恵み 伝統 日常 コロナ禍克服図る 9月から福島県内キャンペーン |
| 2023.05.16 | 福島民報 | 深紅のじゅうたん、クリームゾンクローバーが見頃 福島県葛尾村 復興のシンボル |
| 2023.05.17 | 福島民報 | 福島県の復興状況や魅力を発信 復興庁、G7広島サミットの取材拠点で18日から |
| 2023.05.17 | 福島民報 | 7月下旬、バウムクーヘン工房が誕生 福島県富岡町夜の森地区 にぎわい再生へ「新しい特産品に」 |

[概要に戻る](#)

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

<未分類 [続き](#)>

-
- | | | |
|------------|--------|--|
| 2023.05.18 | 福島民報 | 福島県双葉町の温浴施設「さくらの里双葉」オープンは6月12日 宿泊や飲食施設備える |
| 2023.05.19 | 福島民友新聞 | 帰還困難区域内の家屋4棟全焼、双葉 山林にも延焼 |
| 2023.05.19 | 福島民友新聞 | 関係人口拡大へ情報共有 大熊で被災12市町村サミット |
| 2023.05.19 | 共同通信 | 深紅の花、農地再生導く 福島・葛尾村で見頃 |
| 2023.05.19 | 北海道新聞 | 福島原発被災地に営業所を開設へ 岩見沢のトラック運送「トッキュウ」 |
| 2023.05.20 | 福島民友新聞 | 伝統の火脈々と 物産会館「陶芸の杜おおぼり」 12年ぶり再開へ |
| 2023.05.20 | 福島民報 | 【花紀行・動画あり】横田のバラ園(福島県南相馬市) |
| 2023.05.20 | 福島民報 | 「ふくしまうまいもの市」 埼玉県のポートレース戸田 福島県15市町村の特産品並ぶ 21日まで |
| 2023.05.22 | 北海道新聞 | 原発避難者受け入れ再開 札幌のNPO、岩見沢の施設で3年ぶり 海外の希望者にも意欲 |
| 2023.05.23 | 下野新聞 | 那須町、除染土を町有地に集約 2024年度以降に搬出開始 |
| 2023.05.25 | 福島民友新聞 | 「引き続き村の再生に協力」 除染事業が完了、川内の組合解散式 |
| 2023.05.25 | 北海道新聞 | 福島県双葉町の入浴・飲食施設、6月12日開業 帯広のアルムシステム運営 原発事故後初、帰還住民交流の場に |
| 2023.05.25 | 福島民報 | 福島県の相双地方を取材し、新聞作りませんか 小学5年生から高校生の参加者募集 池上彰さん特別講師 |
| 2023.05.25 | 北海道新聞 | 福島原発被ばく訴訟、札幌高裁が和解勧告 9月28日に判決 |

[概要に戻る](#)

9 イチエフに関する報道【イチエフ事故の後始末】

(更新)

今月の中区分:/避難指示解除/韓国/ALPS処理水の海洋放出/福島県の漁業/イチエフ事故の記録・検証/賠償/未分類

<未分類 了>

2023.05.26	福島民報	「ひなた短編文学賞」6月から作品募集 福島県双葉町に進出のフレックスジャパン「生まれ変わる」テーマに
2023.05.27	福島民報	死亡リスク上昇に影響 職員数、寝たきり患者数、避難時間 東京電力福島第1原発周辺の3病院
2023.05.27	福島民報	被災地復興、熱気球で応援 28日まで搭乗イベント 福島県南相馬市 今年で最後
2023.05.28	河北新報	再び回り出す、オダカの歯車 福島の腕時計メーカー、新作発表 <ほっとタイム>
2023.05.28	福島民友新聞	大堀相馬焼の窯出し公開 陶吉郎窯の新作展示会、6月4日まで
2023.05.29	福島民報	福島県浪江町の大堀相馬焼「陶吉郎窯」、6月4日まで新作展示会 移転先のいわき市で
2023.05.30	福島民友新聞	学校再開向け構想案、年度内に双葉町 検討委、在り方や機能議論
2023.05.30	神戸新聞	「この12年、苦難の連続」原発事故の避難者訴訟、神戸地裁で結審 判決は来年3月 2023.05.30
2023.05.31	福島民友新聞	ロボットやICTを共同研究、人材育成も 会津大とエフレイ合意

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

< 柏崎刈羽原発 >

(テロ対策不備問題)

- 2023.05.10 共同通信(規制委) [【速報】柏崎刈羽原発、17日に運転禁止継続を議論](#)
- 2023.05.11 新潟日報(規制委) [柏崎刈羽原発、テロ対策不備での追加検査延長へ 規制委17日に報告書、「命令解除時期は想像できない」](#)
- 2023.05.17 共同通信(規制委) [柏崎刈羽原発の運転禁止継続 テロ対策不備、早期再稼働困難に](#)
- 2023.05.17 共同通信(規制委) [「1、2カ月で解決せず」 東電柏崎原発のテロ対策](#)
- 2023.05.18 新潟日報 (立地自治体) [花角英世新潟県知事「追加検査しっかりやって」柏崎刈羽原発の運転禁止継続、推移見守る考え 桜井雅浩柏崎市長は検査長期化に不満示す](#)
- 2023.05.18 新潟日報(規制委) [東電は自主的改善できるのか、検査の終わり見えず… 柏崎刈羽原発の運転禁止命令継続、原子力規制委員会「東電次第」](#)
- 2023.05.18 新潟日報 [【ニュースQ&A】柏崎刈羽原発に出た「運転禁止命令」って？何が問題だった？](#)
- 2023.05.20 新潟日報(東京電力) [柏崎刈羽原発、東電小早川智明社長「責任持って改革」 原子力規制委の「運転禁止命令」が継続](#)
- 2023.05.21 新潟日報 [柏崎刈羽原発の安全性議論、「核防護」で「全てを秘密にしよう」 元新潟県技術委員が東電の姿勢批判](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

< 柏崎刈羽原発 [続き](#) >

(テロ対策不備問題 [続き](#))

2023.05.25 新潟日報(規制委) [原発を運転する“適格性”、東電にあるか「確認必要」、原子力規制委員長が初めて明言 柏崎刈羽原発のテロ対策不備巡り](#)

2023.05.25 共同通信(東京電力) [【速報】柏崎原発所長、テロ対策改善「早期に」](#)

2023.05.26 新潟日報(東京電力) [テロ対策の不備相次ぐ柏崎刈羽原発、追加検査の報告時期「決まっていない」・東京電力](#)

(耐震安全性)

2023.05.05 共同通信 [【速報】に異常なし](#) (柏崎刈羽原発)

2023.05.06 新潟日報 [柏崎刈羽原発の耐震安全性、何が問題視されている？地元地質専門家vs東京電力の討論会ポ
イント](#)

2023.05.12 新潟日報 [柏崎刈羽原発、くい損傷の6号機大物搬入建屋を建て替えへ「耐震性向上」で方針変更](#)
(三つの検証問題)

2023.05.08 新潟日報 [新潟県原発「三つの検証」検証総括委員会、休眠状態1カ月…着地点いまだ見えず](#)

2023.05.08 新潟日報 [新潟県原発「三つの検証」総括委員会前委員長・池内了氏、柏崎で市民と意見交換
参加者「民間で検証の総括続けて」](#)

2023.05.09 新潟日報 [柏崎刈羽原発の再稼働問題、「新潟県市長会でも議論必要」 会長の新発田市長、県の対応注
視](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】 (更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

< 柏崎刈羽原発 [続き](#) >

(三つの検証問題 [続き](#))

2023.05.11 新潟日報 [中途半端な幕引き「客観性欠く」総括委員会前委員ら反発、福島原発事故「三つの検証」新潟県が取りまとめ](#)

2023.05.21 新潟日報 [柏崎刈羽原発「三つの検証」で検証総括委員長だった池内了氏、「新潟県の総括では東電の適格性議論できない」新潟魚沼市で講演](#)

2023.05.25 新潟日報 [「専門家なしでは不十分」市民団体、新潟県に原発検証総括委の委員再任求める 県独自の「三つの検証」取りまとめ](#)

(事故時の避難問題)

2023.05.12 新潟日報 [「大雪時の避難は不可能」原告側が主張 柏崎刈羽原発差し止め訴訟・新潟地裁](#)

2023.05.31 新潟日報 [原発事故に備えた避難道路整備は「国の責務」新潟柏崎市長、国に財源確保求める 22年大雪による長時間通行止め踏まえ](#)

(その他)

2023.05.22 共同通信 [原発の火災防護書類を紛失 柏崎刈羽、社員報告せず](#)

2023.05.24 新潟日報 [「福島事故の反省ない」と批判 柏崎刈羽原発差し止め訴訟の原告弁護団長、女川原発差し止め棄却で](#)

2023.05.25 新潟日報 [東電柏崎刈羽原発の書類紛失、稲垣所長「若手でルールに精通せず」 文書や図面の持ち出し 全面禁止に](#)

2023.05.26 新潟日報 [柏崎刈羽原発5号機の海水漏れ、運転員の配管弁閉め忘れが原因 東京電力が公表・新潟](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<核のゴミ最終処分場をめぐる動き>

2023.05.02	長崎新聞	「核ごみの最終処分場」巡り 長崎・対馬で議論再燃 安全性や風評被害への懸念も
2023.05.09	北海道新聞	核ごみ概要調査 寿都の大部分は候補地に NUMOが見解示す
2023.05.10	北海道新聞	寿都町長、核ごみ概要調査「早期に」 住民と対話の場
2023.05.13	長崎新聞	対馬・核のごみ処分場選定 文献調査応募反対を市に請願 市民団体が方針
2023.05.16	長崎新聞	核ごみ文献調査に反対を 長崎・対馬 市民団体が街頭署名
2023.05.19	共同通信	核ごみ調査受け入れ検討を 長崎・対馬、商工会が請願へ
2023.05.20	長崎新聞	核ごみ調査受け入れ検討を 長崎・対馬市商工会 市議会に請願へ
2023.05.25	長崎新聞	長崎・対馬で議論 核のごみ最終処分場とは？ 国内で1カ所、4万本超を計画 請願次第で市長判断に
2023.05.27	北海道新聞	対馬市に核ごみ処分場誘致、再び高まる機運 背景に島衰退への危機感、NUMOの水面下での働きかけ
2023.05.27	共同通信	長崎県対馬市の動きに警鐘 核ごみ処分場選定、札幌市で集会
2023.05.27	北海道新聞	核ごみ最終処分考える 札幌で交流会 寿都の住民団体ら登壇
2023.05.28	共同通信	地震多く、核ごみ地層処分不向き 札幌で集会、主催者が強調
2023.05.28	北海道新聞	核ごみ地層処分「見直しを」 道内外3市民団体、札幌で提言発表
2023.05.31	長崎新聞	核ごみ最終処分場調査 市長が改めて懸念表明 長崎県対馬市

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<各地の原発・核施設をめぐる動き>

(福井県の原発・核施設)

- 2023.05.02 共同通信 [高浜1、2号の再稼働延期 対策工事で、日程見通せず](#)
- 2023.05.05 共同通信 [【速報】福井県内の関電3原発に異常なし](#)
- 2023.05.07 中日新聞 [<ふくい原発深掘り> 人材育成の弱体化懸念 原子力業界の従事者減少](#)
- 2023.05.26 共同通信 [「ふげん」核燃料、搬出遅れ 25年以降、輸送容器不備で](#)

(志賀原発)

- 2023.05.05 共同通信 [【速報】志賀原発に異常なしと北陸電力](#)

(泊原発)

- 2023.05.05 北海道新聞 [泊停止11年 北電、変わらぬ原発依存 再稼働へ膨らむ維持費、道民は負担に不満](#)
- 2023.05.25 北海道新聞 [泊原発の審査終了時期「24年1月」に 北電が審査会合で説明](#)

(ザポロジエ原発)

- 2023.05.11 共同通信 [ロシア、原発作業員退避準備か ザポロジエ、3千人超](#)
- 2023.05.20 共同通信 [ロシア軍、原発の防御強化か ザポロジエ、反攻にらみ](#)
- 2023.05.20 共同通信 [ロシア軍、原発の防御強化か 反攻控え、IAEA懸念](#)
- 2023.05.31 共同通信 [原発事故に備え避難計画策定 ザポロジエ州知事と単体会見](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<各地の原発・核施設をめぐる動き [続き](#)>

(ザポロジエ原発 [続き](#))

- 2023.05.23 共同通信 [ザポロジエ原発、極めて不安定 IAEAが懸念表明](#)
- 2023.05.27 共同通信 [ロシア軍、南部原発攻撃を計画か 反転攻勢の阻止狙いとウクライナ](#)
- 2023.05.28 共同通信 [反転攻勢で原発事故の懸念高まる 周辺で両軍交戦なら「大惨事」に](#)

(青森県の原発・核施設)

- 2023.05.10 東奥日報 [避難の流れ分かりやすく 原子力防災ガイド初作成／六ヶ所村](#)
- 2023.05.16 デーリー東北 [3年半ぶり全戸訪問を再開 東電、約2500世帯／東通](#)
- 2023.05.18 東奥日報 [低レベル充填固化体 1号施設で埋設開始／原燃・六ヶ所センター](#)
- 2023.05.24 北海道新聞 [「大間原発凍結を」 函館市HP、削除のバナー復活 大泉市長、報道受け指示](#)
- 2023.05.28 北海道新聞 [大間原発、3kmを3mと誤り審査ストップ 耐震評価資料でミス](#)

(浜岡原発) 2023.05.14

静岡新聞 [再稼働容認、高まり「感じる」半数超 浜岡原発停止12年、電気代高騰で 周辺11](#)

[首長アンケート](#)

- 2023.05.15 静岡新聞 [浜岡停止12年 原子力政策転換、賛否分かれる 11首長静岡新聞社アンケート 「国策」理由、無回答も](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<各地の原発・核施設をめぐる動き [続き](#)>

(川内原発)

- 2023.05.17 南日本新聞 [【川内原発運転延長】賛否問う県民投票条例請求へ 市民団体が手続き開始 2カ月で署名3万筆めざす](#)
- 2023.05.18 南日本新聞 [川内原発の運転延長、九電点検は「適正」 鹿児島県原子力専門委、近く県に答申へ](#)
- 2023.05.19 南日本新聞 [鹿児島県原子力専門委・最終案「運転延長前提の議論」 傍聴席から批判の声「携わった責任重い」自ら言及する委員も](#)
- 2023.05.19 南日本新聞 [川内原発専門委の報告書「九電側に傾いたまとめ」 市民団体、否定的意見併記を知事に要請](#)
- 2023.05.23 南日本新聞 [川内原発の火災防護対策は「不十分」 原子力規制庁、運転停止は求めず](#)
- 2023.05.24 南日本新聞 [核燃料集合体の取り出し作業公開 定期検査中の川内原発2号機](#)
- 2023.05.27 南日本新聞 [川内原発の運転延長「県民投票は実施せず」鹿児島県知事が表明、意見募集へ 専門委から最終報告書、6月に住民説明会](#)
- 2023.05.27 南日本新聞 [「運転延長ありき」「公約違反」川内原発巡る県民投票見送り 市民団体、鹿児島県知事に反発](#)
- 2023.05.30 南日本新聞 [県民投票目指して6月1日から署名集め 川内原発の運転延長問題 市民団体に請求代表者証明書交付](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<各地のめぐる動き [続き](#)>

(伊方原発)

- 2023.05.23 愛媛新聞 [伊方原発3号機あす24日再稼働 2月23日以来91日ぶり](#)
- 2023.05.24 愛媛新聞 [伊方原発3号機が再稼働 四電、26日に送電開始](#)

(茨城県の原発・核施設)

- 2023.05.18 東京新聞 [被ばく線量の過小評価懸念 原発事故時の屋内退避「科学者・技術者の会」茨城県に質問状](#)
- 2023.05.19 東京新聞 [東海第二 再稼働の協議事項素案 地元6市村が原電に](#)
- 2023.05.24 東京新聞 [東海第二の再稼働 茨城県議が動向を紹介 6月4日、ひたちなか](#)
- 2023.05.24 共同通信 [高速炉「常陽」事実上合格、茨城 原子力規制委の再稼働審査](#)
- 2023.05.24 茨城新聞 [高速実験炉「常陽」、事実上の合格 2025年3月の再稼働目指す](#)
- 2023.05.30 東京新聞 [東海第二再稼働の協議素案 山田・東海村長「原電の回答待つ」](#)
-

<プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題>

- 2023.05.19 共同通信 [仏で使用済みMOX燃料再処理へ プルサーマル、海外は初](#)
- 2023.05.20 新潟日報 [使用済みMOX燃料をフランスで再処理、電気事業連合会が初の実証研究 プルサーマル発電で発生、日本国内に処理施設なし](#)

[概要に戻る](#)

9イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<GX脱炭素電源法案>

- 2023.05.05 共同通信 [俳優渡辺謙さん「核なんてもういらないとと言える国に」政治リーダーに望むビジョン【G7広島サミットへの望み】](#)
- 2023.05.07 南日本新聞 [原発運転延長 賛否は拮抗「供給量が不足」「安全性に疑問」 国の「60年超」方針は約6割が反対 南日本新聞社・意識調査](#)
- 2023.05.10 北海道新聞 [GX法案が参院審議入り 原発活用規定めぐり野党反発](#)
- 2023.05.29 南日本新聞 [原発の運転延長は「事故のリスク高まる」 元技術者、反対派市民団体の集会で訴える](#)
- 2023.05.30 共同通信 [【速報】参院経済産業委が原発60年超運転認める法案可決](#)
- 2023.05.30 共同通信 [原発60年超法、31日成立へ 福島事故後に導入の制限見直し](#)
- 2023.05.30 共同通信 [小泉氏、岸田首相に遭遇し助言 「改憲よりも原発ゼロ」](#)
- 2023.05.31 共同通信 [原発60年超運転法、きょう成立 事故後の政策、転換点迎える](#)
- 2023.05.31 共同通信 [原発60年超運転法が成立 政策の転換点、脱炭素「責務」](#)
- 2023.05.31 中国新聞 [原発長期運転「厳格な審査を」 GX法成立で島根知事 中電は島根2号機で「具体的計画なし」](#)
- 2023.05.31 北海道新聞 [原発低減大転換、審議たった2カ月 束ねた5法案、論点多く議論深まらず](#)
- 2023.05.31 愛媛新聞 [原発60年超運転法が成立 愛媛県内でも怒りと失望「福島の教訓忘れたか」](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<女川原発訴訟>

- 2023.05.24 共同通信 [女川原発差し止め、きょう判決 仙台地裁、避難計画実効性が争点](#)
- 2023.05.24 共同通信 [東北電女川原発差し止め認めず 異常事故「前提にできず」](#)
- 2023.05.24 河北新報 [【速報】女川原発訴訟 住民側の再稼働差し止め請求を棄却 仙台地裁](#)
- 2023.05.24 共同通信 [【速報】「控訴視野に話し合う」と原告団長](#)
- 2023.05.24 共同通信 [東北電「主張理解された」 24年2月の再稼働目指す](#)
- 2023.05.24 共同通信 [廷内に怒号、女川原発訴訟 「不当判決」重い沈黙](#)
- 2023.05.24 共同通信 [女川原発訴訟、住民控訴へ 地裁、避難計画の実効性判断せず](#)

<未分類>

- 2023.05.02 共同通信 [原子力分野の女性割合「15%」 OECD調査で最下位](#)
- 2023.05.05 北海道新聞 [北海道電力、泊再稼働後の値下げ幅明言せず 社長「経済状況で異なる」](#)
- 2023.05.12 共同通信 [「広島G7で核の脅迫に非難を」 ウクライナ大使単体会見](#)
- 2023.05.14 河北新報 [不透明な国策、県政を左右<安全保障の現在地 青森知事選18日告示\(上\)核燃マネー>](#)
- 2023.05.15 新潟日報 [土地利用規制法の対象候補地、新潟県は新潟空港など10カ所](#)
- 2023.05.16 中国新聞 [中国電力が値上げやカルテル問題でおわび 原発関連自治体向け説明会](#)

[概要に戻る](#)

9 イチエフに関する報道【原子力発電、核施設をめぐる動き】

(更新)

今月の中区分: 柏崎刈羽原発/核のゴミ最終処分場をめぐる動き/各地の原発・核施設をめぐる動き/プルサーマル発電使用済み核燃料処理問題/GX脱炭素電源法案/女川原発訴訟/未分類

<未分類 了>

-
- | | | |
|------------|-------|---|
| 2023.05.17 | 共同通信 | 仏大統領、モンゴル初訪問 G7サミット後 |
| 2023.05.19 | 東京新聞 | リチウムイオン電池開発の吉野彰さん「社会システムとの連動大事」 神奈川県黒岩知事と対談、講演も |
| 2023.05.22 | 中日新聞 | <ハッシュタグ#ふくい> 6月、敦賀の「スマデコ」開所5年 |
| 2023.05.23 | 北海道新聞 | 反原発、紙芝居で訴え続け 泊訴訟原告団長、斉藤さん4月死去 6月、札幌でしのぶ会 |
| 2023.05.24 | 共同通信 | 浮体式原発開発に100億円出資 尾道造船などが英新興企業へ |
| 2023.05.24 | 南日本新聞 | ウクライナの原発が戦火にさらされても…立地県でも有事議論なお置き去り 漂う見て見ぬふりの風潮 |
| 2023.05.25 | 室蘭民報 | 市民会館で27日、原発テーマの講演会 |
| 2023.05.26 | 茨城新聞 | 原発過酷事故備え 安定ヨウ素剤配布へ 茨城県、6月4日から |
| 2023.05.26 | 茨城新聞 | 鹿島臨海鉄道、一部に遅れ 茨城・神栖で震度5弱 エレベーター、40分停止 |
| 2023.05.27 | 河北新報 | 避難アプリのインストールで5000ポイント付与 女川原発周辺住民に 宮城知事表明 |
| 2023.05.27 | 長崎新聞 | ウクライナに放射線測定器 NASHIMIは研究機関へ9台寄贈 |